豊かな子どもの読書活動をめざして

（報告書）

平成１９（2007）年度

平成 20 年３月

大阪府子ども読書活動推進連絡協議会

は　じ　め　に

成 14（2002）年度から、大阪府子ども読書活動推進連絡協議会を設置し、府域の子どもの読書活動を推進してまいりました。(注１)

平成 15（2003）年 1 月には、「大阪府子ども読書活動推進計画」が公表され、その計画にもとづき「連携」をキーワードに事業案が立案されました。

そこで、平成 15（2003）年度から、読書活動に取り組んでいるボランティアを支援するための講座「子ども読書ファシリテーター講座」「おはなしスキルアップ講座」を行い、受講者の交流会も開催しました。この講座は、3 年間の予定でスタートし、平成 17（2005）年度に終了しました。(注２)　さらに、平成 17 年秋に大阪府域の学校・るボランティアの方を対象に子どもの読書活動に関するアンケート調査を実施しました。

平成 18（2006）年度は、文部科学省委託受けて、２市でモデル事業を実施するとともに、オーサービジットを行いました。

平成 19（2007）年度も、文部科学省の委託を受けて「１０代の子どもの読書を考える」をテーマに講座や講演会、中ーサービジット、実体験を伴う読書活動の実践、島本町で乳幼児期の子どもたちの読書活動を推進するために地域のネットワークづくりをめざしたモデル事業を実施しました。

ここに、今年度の成果をまとめました。ご高覧いただき、子どもの読書活動のよりいっそうの推進に役立てていただければ幸いです。

注１　平成 14 年度は大阪府子ども読書活動推進連絡会議という名称でしたが、15 年度から大阪府子ども読書活動推進連絡協議会に名称を変更しました。構成員は、大阪市教育委員会　大阪府立中央図書館　大阪市立中央図書館　大阪府教育センター　大阪市教育センター　大阪公共図書館協会　大阪府学校図書館協議会　大阪市学校図書館協議会　学校図書館を考える会・近畿　大阪府子ども文庫連絡会　大阪府教育委員会　財団法人大阪国際児童文学館で、これに 19 年度は河内長野市立図書館、和泉市立和泉図書館が加わりました。事務局は財団法人大阪国際児童文学館が担当しています。

注2　これらの講座は、大阪府教育委員会・財団法人大阪国際児童文学館主催、大阪府子ども読書活動推進連絡協議会・開催図書館との共催という体制で行いました。

もくじ

はじめに ……（1）

講演会「ＹＡ作品を書くということ」

（笹生陽子さん） …… 1

＜大阪府域での子どもの読書活動の報告＞ …… 21

Ⅰ 「乳幼児と絵本：みんなでゆったり子育て

－あそび・ことば・絵本－」（島本町立図書館）…… 23

Ⅱ 「オーサービジット：小森香折さんをお迎えして」

（豊中市立第八中学校）…… 27

Ⅲ 「ワークショップ：へんてこ森へいこうよ」…… 35

Ⅳ 10代の子どもを対象とした読書活動

・講座「絵本をよむ～10代の子どもたちとともに」 …… 37

・事例報告 …… 40

講演会「ＹＡ作品を書くということ」

日　時：平成 20（2008）年３月４日（火）　13 時 45 分～15 時 30 分

場　所：ホテルアウィーナ大阪

講　師：笹生陽子さん（作家）　聞きて：土居安子（財団法人大阪国際児童文学館主任専門員）

主　催：大阪府教育委員会・財団法人大阪国際児童文学館

共　催：大阪府子ども読書活動推進連絡協議会
大阪市教育委員会　大阪府立中央図書館　大阪市立中央図書館　大阪府教育センター　大阪市教育センター
大阪公共図書館協会　大阪府学校図書館協議会　大阪市学校図書館協議会　学校図書館を考える会・近畿
大阪府子ども文庫連絡会　河内長野市立図書館　和泉市立和泉図書館　大阪府教育委員会　財団法人大阪国際児童文学館

１．はじめに

土居（聞きて）

こんにちは。

まずは、笹生さんの紹介をさせていただきます。東京都のお生まれで、1966 年に『ぼくらのサイテーの夏』でデビューされて、この作品で第 30 回児童文学者協会新人賞を受賞されました。

高校生のころにマンガ家をめざされたということで、笹生さんは思春期の子どもの心の揺れを描く作家としてとても人気が高く、配布資料の作品一覧表（資料1）を見ていただいたらわかりますように、ほとんどの作品が文庫化されています。

今日は、笹生さんに作品について、また今の児童文学やヤングアダルト作品について、お考えになっていらっしゃることなどをうかがいながら、10 代の子どもたちへの読書活動や中学生について、また児童文学について、皆さんと一緒に考えたいと思います。

２．子どもの時に好きだった本

土居

最初に子ども時代についてお伺いしたいと思います。まず、お好きだった本やマンガと、その作品のどういうところがお好きだったかについて、お話しいただけますでしょうか。

笹生

一番初めに本を好きになったのは、松谷みよ子さんの「モモちゃんシリーズ」を買ってもらって読んだときです。そのときに、ことば使いのおもしろさを感じました。これで、ことばのおもしろさに夢中になりまして、絵本ではなく、ストーリーのあるおはなしを読み始めました。

小学校にあがってから、課題図書で絵本の『かたあしだちょうのエルフ』[1]を読んだのですが、それまで絵本をほとんど読んだことがなかったのです。それで読んでみたら、とてもおもしろくて、感動しました。

その後はマンガに移りまして、「りぼん」とか、一条ゆかりさんとか、山岸涼子さんとかを読んで、中学生ぐらいになると、今度は文庫本や一般書を読んでいました。

講談社児童文学新人賞になぜ応募しようと思ったのかというと[2]、松谷みよ子さんが「龍の子太郎」で第一回講談社児童文学新人賞を受賞しておられたからです。

そして、11 歳の時に、山中恒先生の『青い目のバンチョウ』[3]を読んで、「これは新しい文学だな」と感じて、「自分も児童文学を書こうかな」と決心しました。それから 20 年後ぐらいに賞を取ってデビューするのですが、その後別の機会に山中先生から書評を頂いて感動したことを覚えています。こんな感じで、ずっと最初からめざしてし

ていたものが児童書だったのです。

土居

山中先生からどのような書評をいただいたのですか。

笹生

講談社の児童文学の賞で、プロデビューした人のための賞だったのですが、今はなくなってしまいました。山中先生が選者でしたが、候補になって落選しました。そのときにわざわざデビュー前の作品で本になっていない作品まで読んでくださって、「とてもうまくなった」と書いてくださっていたのを拝見して、感動しました。ご本人にはまったくお会いしたことはありませんが、勝手にお知り合いになったような気持ちになりました。

土居

『青い目のバンチョウ』は具体的にどこがおもしろかったのですか。

笹生

出だしから内容が社会派だというところがおもしろかったです。たぶん町田市あたりがモデルなのでしょうけれど、小学 5～6 年生の読み物にもかかわらず、ドーナツ現象だとか、住宅地のこととか社会的な事情から始まっていたのです。

また、それまで読んでいた児童書とは違って、ことばが時代性を取り入れていて、かっこよかったのです。私は文章を味わうほうなのですが、文章にリズムがあるところがすごくかっこいいなと思いました。なかには、進駐軍や朝鮮戦争とかも出てきます。

それから遺伝の話も出てくるのですね。劣性遺伝であるとか、ないとか、小学生に対して、伝わるかどうかもわからないのに、そのようなことまで書くという姿勢がすごくかっこいいなと思いました。挿絵もかっこよかったです。当時にしたら、新しいと思いました。

今読むと、また違う印象だと思うのですが、そのころは次から次へと児童書を読んでいるなかで、こういう大人や作家がいるのならば、信用していいかなと感じました。児童書も「西高東低」というところがあって、翻訳して入ってくる作品は優秀ですよね。それで、日本の作品も読んでみようと思っても、あんまりおもしろくない。私自身も小学校高学年ぐらいまで外国の人が書いたもののほうがかっこいいなとずっと思っていたので、日本の作家さんで、ちょうど父親と同い年ぐらいの方だったので、これはかっこいいと思いました。将来はこれだけ感動させてくれた業界にいつか自分も戻ろうかなと考えました。私は、わりと意識的にものごとを進めるほうで、こうしたらこうしようと計画通りに進んでいくのが好きで、結局そのとき決心したとおり作家になりました。

土居

『青い目のバンチョウ』の主人公の子どもは文字どおり「青い目」でしたね。

笹生

金髪で青い目の男の子が、バンチョウなのです。その子のお父さんとお母さんは日本人で、外国人の子どもを引き取って育てていたのです。その男の子が、お寿司屋さんに行ったときに、大学生たちが日本人の血が少しでも入ったら金髪で青い目が生まれるわけがないと劣性遺伝の話をしているのを聞くというシーンが出てきます。その後で本当のことが明かされるのですが、けっこう深刻な話にもかかわらず、笑いを絡めてきちんと書いてあります。

土居

ユーモアですね。

笹生

そう、ユーモアというものがそれまで私が読んだものにはなかったのです。本当にかっこいいし、子どもをばかにしていない態度を感じたので、それでとても好きになりました。

土居

今おっしゃったことは全部、笹生さんの作品のなかにすごく感じられると思いました。例えば、町の風景みたい

なものが、作品のなかにいっぱい出てきますよね。また、書きぶりは違いますが、笹生さんの作品のことばのリズム感にも共通するものを感じます。子どものときに読まれた作品がきっかけで、作家になられるというのはすごいなと思いながらうかがいましたが、外国の作品で好きだった作品はありますか。

笹生

『長靴下のピッピ』です。あの作品を読んだときに、ピッピと友だちになりたいと思う人と、ピッピは私だと思う人の 2 つに分かれると思うのですが、私は後者でした。自分とどっちがかっこいいかな、対決してみたいなと思いました。おとなしい女の子だったら、たぶん友だちになりたいと思うのでしょうけど。

『長靴下のピッピ』を読んで、こんなにかっこいいものがあるのに、どうして日本にないのかなと思っていたときに、『青い目のバンチョウ』を読んだのです。『ピッピ』を読んだのは 9 才ぐらいのときだったので、それも好きになった理由のひとつだと思います。

３．笹生さんの子ども時代が反映された登場人物像

土居

笹生さんはどんなお子さんでしたか。

笹生

ピッピみたいな子どもでした。近眼になってからはあまり動き回らなくなったのですが、子どものころはすごく活発でした。子どもの文化関係の本などを読みますと、1960 年代ぐらいに生まれた小学生の女子は、すごく活発だったようです。私もものすごく活発で、女番長と呼ばれていました。当時、和田アキ子さんが人気があって、番長ということばが流行っていました。私は番長をやりつつ、学級委員をやっていました。

土居

では、かなりめだつ子どもでしたか。

笹生

ええ、とてもめだちましたね。学年で一番というくらいめだっていたと思います。

土居

笹生さんの作品には、すごくめだつ子が出てきますね。ご自分のイメージを投影されているところもありますか。

笹生

そうですね。『サンネンイチゴ』のアサミちゃんの元気さと『きのう、火星に行った。』の山口くんをたすと、私かなという感じです。

でも、そういう子どもを主人公にするとあまり売れないので、書かせてくれないのですよ。だから脇役に回しているという場合もあります。じつは、私が愛情をそそいでいるのは、だいたい変なことをしている脇役でして、ふつうのキャラの主人公は語り部に設定しているという場合があります。本当に書きたいと思う動機づけになっているのは、脇役の変わった人たちです。『きのう、火星に行った。』なんかは、もうぜんぜん売れませんから。

土居

でも、『きのう、火星に行った。』はすごくおもしろかったです。

笹生

本当にマニアックなうけ方をしているみたいなのですが、おもしろいことに韓国では重版されているのを昨日確認ました。日本だと、単行本だと『サンネンイチゴ』が一番売れていると思うのですけれども、文庫で売れたのは講談社の『ぼくらのサイテーの夏』で、『きのう、火星に行った。』はたぶん 2 刷ぐらいで終わっているのですね。にもかかわらず、韓国では重版されているのです。何冊売れているのかは知らないですけれども、かなり重々しいシビアな話を韓国の 10 代か 20 代ぐらいの人が好んで読んでくださっているのかなと思います。

土居

『きのう、火星に行った。』は、がんばらないことをモットーにしている主人公の男の子が、がんばってしまうようになるまでを教訓くさくなく、納得できるかたちで書かれているところが、おもしろいと思いました。弟や友だちに出会っていくなかで、自分らしさを見つけて変わっていく様子がうまく書かれていると思います。

４．出版社とのせめぎあいで出版される本

笹生

じつは、企画の段階で担当者に一番反対されたのが、『楽園のつくりかた』でした。エリートが主人公なので、ぜんぜん相手にされませんでした。私がアイデアを説明した時点で、「ふつうの主人公にしてください」と言われました。「ノーマルタイプで、勉強もふつうぐらいにできる男の子の話にしないと売れませんよ。勉強ができると書いた時点で読者に反発されて、笹生さんが損しますよ」と言われました。

それで、脇役にキャラクターを立てた人物を配して、なんとかごまかしてしまえと思って書いたのですが、自分では結構おもしろく書けたと思いました。

そして原稿を出版社の担当に送ったのですが、返事は「おもしろいですが、いつ出版するかは未定です」というものでした。そのまま半年近くがすぎて、ゴーサインが出たのは部長さんが替わってからです。

土居

そういうことってありますね。

笹生

本当に運だと思います。上の人が替わってから急になぜ出版しないのかという話になって、出していただきました。

出版後も業界内で評価がころころ変わった作品で、結果的には好評だったので、今では良い作品と言われています。NHK でドラマにもなりましたが、それで特に売れたということはありませんでした。でも、私も編集の方のおっしゃることもわかる気はします。

土居

そのへんのせめぎ合いみたいなところがむずかしいですね。出版社側にもやはり書きたいものを書いていただきたいという気持ちと、でもたくさんの子どもに読んで欲しいという気持ちとがあるでしょうから。

笹生さんは講談社から出されることが多いのですが、『サンネンイチゴ』は理論社ですね。やはり、会社によってカラーが違ったり、編集者から言われることが違ったりということはありますか。

笹生

書いてからの直しの指示は、講談社がすごく多いです。ひとつの作品のゲラが 400 字詰め 200 枚ぐらいだとしたら、直しを指示した付箋を 50 枚ぐらい付けてくるのです。逆さにすると立つと言われるぐらい講談社の直しの多いのは有名です。最初は私が悪いのかなと思っていたのですけど、講談社の児童局が、ことばの使い方などに対してとても厳しいのです。他社の場合は、10 枚くらいしか付箋が付いてこないので、最近はこちらがふつうなのかなと思っています。講談社は、マンガのほうでも直しが非常に多いみたいで、講談社からデビューしたマンガ家は出版まで時間があまりかからないと言われています。

慣れてくると、自分で編集作業ができるぐらいになります。直さなくてもよいように、だんだん学習するのです。最初は、プロットについても、「ここはわかりにくいから、順序を変えたほうがいいですよ」と言われました。新人の時はその意味がわからなかったのですが、だんだんわかってきて、こちらの情報を先に出してから後でこちらを出したほうが効果的だということがわかるようになりました。これらのことは実際に本を出してみないとなかなかわかりませんね。

土居

笹生さんの作品の中には、たくさん伏線があったり、最後にどんでんがえしがあったり、種明かしがあったりし

て、おもしろいですよね。そういうことについても、編集者と話し合いをされるのですか。

笹生

いえ、ぜんぜん話し合いはしません。編集者といろいろ相談して決めていく人もいるかもしれないですが、私は全部自分で決めています。

連載マンガなどは初めからチームで作っていきますが、私の場合は書き下ろしなので、打ち合わせをほとんどしません。『楽園のつくりかた』のように、編集者が嫌がっているのに、勝手に書いて持っていったりもします。

どの編集者の方も、今までどおりのカラーで書いてくださいと言われます。例えば、突然私がとても暗い作品を書いて持って行くとかいうことがなければ、自由にやらせてもらっています。そのほうが私は書きやすいです。

５．マンガ家デビュー寸前までいった笹生さん

土居

マンガの話も出たのですが、子どものときからマンガ家になりたいなと思っていらっしゃったのですか。

笹生

はい。投稿するのが好きで、中学3年ぐらいのときから投稿していたのですが、高校1年のときに集英社の「ぶーけ」という雑誌でプロデビュー寸前までいきました。

土居

どういうジャンルを描いておられたのですか。

笹生

少女マンガです。一条ゆかりさんが好きだったので、そのようなマンガを描いていました。でも、ちょうど私の時期は日本の学園物にシフトしてきた時期で、萩尾望都さんの『11 月のギムナジウム』[4]というようなものは終わっていました。

高校1年のときに、受験が終わって暇だったもので、学園物のストーリーマンガを何作か描いて投稿したら、2席に入賞しました。その前から努力賞とかいろいろもらっていたのですが、賞金額はけっこうよかったです。2 席に入った作品は全編を載せてもらって、そのあと担当がつきました。

その担当さんが、集英社の少女マンガの王国を築いたすごい方だったのです。でも、そのときは子どもだからそんなことは知らなくて、うるさいおじさんだなと思いながら、話をろくに聞かずに、適当なペンネームで出してはコンペに落ちてということを半年のあいだに 3 回ぐらい繰り返しました。そして、いやになったので、電話をかけて「受験勉強をはじめるので、マンガはやめます」と言ってやめました。それまで1日 8時間ぐらいマンガを描いていて、成績がめちゃくちゃ落ちていたのです。

土居

今は、マンガは描いていらっしゃらないのですか。

笹生

趣味で絵を描くことはあります。

土居

作品の挿絵を描いてみようかなと思われることはありませんか。

笹生

さすがにプロの方に失礼なので、そういうことはしません。あまり装丁にこだわりがないのです。この『サンネンイチゴ』の装丁は、とてもきれいだと思います（表紙を見せて説明）。これは担当の編集の女性が美大出身の方なので、とてもコーディネイトがよかったと思います。

装丁は売れている人のところに集中してしまうみたいですね。それで、人気のある方に頼むと、やはり相当売れるそうです。今は、ジャケット買いがとても多いですから。著者の名前で売れない場合は、ジャケットをきれいに

しておくと、つられて買って、おもしろければ他の本も買ってくれるということがあるみたいなので、装丁はとても大事なようです。

土居

児童書の装丁は一般書に比べるとまだまだ改良の余地があるという印象を持っていますが、理論社はすごくがんばっておられますね。

作品を書かれるときにキャラクターから先に考えることが多いとおっしゃっていましたが、自分でマンガで描いてみて、こんなイメージかなと考えながら作られることもありますか。

笹生

絵には描かないですが、頭のなかで動かしながら作っています。マンガでいうとネームを動かすみたいな感じで、キャラクターを動かして、ここのシーンでこう走ってくると、女の子がこうしてっていうように映像で思い浮かべて、かっこいいなと思ったら文にするということはありますね。

土居

読んでいるとその情景が浮かんできたり、少女マンガのくすっとした笑いみたいなものを文章の中に感じたりするなと思って読ませていただいたのですけど、そういうことも意識されたり、マンガの文体のようなものがご自分の文章の中にもあるなと思われたりすることはありますか。

笹生

デビューするときに、意識的にマンガ的な演出をして、ふつうの児童文学よりは少しコミカルなものにして、キャラクターをマンガのように動かしたらどうかなと思いました。女性作家の方はまじめな方が多いので、笑いを入れて、なおかつ下品にならないような作風はないかな、ことばのセンスでおもしろくできないかなということは考えました。マンガっぽくすると、安っぽくなるおそれはあるのですけれども、そこを乗り越えてみたいと考えて、意識してマンガっぽくやっています。

土居

中学生ぐらいの子どもが、自分自身を少し距離を置いて見て、自分に「ばかめ」といってとんかちで頭をたたくみたいな感じが作品の中にみえて、それがユーモアにもつながるし、子どもたちにもすごくおもしろいと思われるところなのかなと思いながら読ませていただきました。

笹生

児童書の場合は、読者の子どもたちが文章で感想を書くということがむずかしいので、実際どう思っているかがわかりにくいです。中学生ならある程度は書けますけれども、思いまでくわしくは書けませんよね。読者カードを見ても、そうくわしくは書いてこないので、わからないのですよ。反応が見えにくいのが児童書の特徴かなと思います。

６．他の作家の作品や映画、マンガについて

土居

ところで、笹生さんの世代の女性作家で、ヤングアダルトを書いていらっしゃる方がたくさんいらっしゃいますが、注目している人はいらっしゃいますか。他の作家の作品をお読みになることはありますか。たとえば、草野たきさんとか、大島真寿美さんとか、あさのあつこさんとか。

笹生

あさのさんの『バッテリー』[5]は読みました。角川文庫がすごく売れて、ヤングアダルトの流れがかなり変わりましたね。

土居

映画にもなりましたしね。やっぱりメディアミックスの力も大きいですね。

笹生

他の作家の作品はぜんぜん読まないです。児童書を書くのに、児童書を読んでもしょうがないので、映画とか、マンガとか、まったく別のものを見ます。作家になるには、本をいっぱい読むよりも、芝居を観たり、他のジャンルのものを読んだりしたほうがいいと思います。犯罪の実録などのノンフィクションを読んで、人間の気持ちの不思議さを研究したりします。一応プロなので、読み物を読むと批判や批評がでてきますから、純粋に楽しくないのです。だったら、絵本のほうがおもしろいかなという気がするので、読み物は読まないです。ただ、大学の講義で使うときは、森絵都さんやあさのさんの作品をチョイスして、資料に使ったりしています。

土居

この本が大好きという愛着のある本はないですか。子ども向けじゃなくても、大人向きでもいいです。

笹生

すみません。私、読書家ではなくて、大好きという気持ちで作品を読まないので、愛着はあまりないのです。

土居

では、何度も読みたいなというマンガはありますか。

笹生

乱読ですね。子どものころから、この作品はすごいなとか、この作家はいいなあとは思うのですけれども、大好きというのはなかったです。寝食を忘れるくらい読書が好きな人っていますよね。そういう友だちと話していると、私はそういう意味の本好きじゃないなと思います。物体である本よりは、読んだあとの心や行動の方が大事じゃないですか。児童文学の作家になってみようと思って、なってみるとか。私の本もただの物体として捨てられちゃってもいいので、見えないところで作用していくことのほうが大事かなと思います。

土居

最近観られた映画で、おもしろかった映画はありますか。

笹生

大学の講義で映画を資料として使います。「ジョゼと虎と魚たち」[6]とか「メゾン・ド・ヒミコ」[7]とか、在日の問題、障がい者と健常者の問題、ゲイの問題をあつかった「パッチギ」[8]とか。洋画だと「トランスアメリカ」[9]も性同一性障がいの親子の話ですね。これらは、短大生の反応は良かったです。映画は、講義の資料として観ることが多いですね。

それから、最近、くらもちふさこさんのマンガを再読したのですが、やっぱりくらもちさんはすごいと思いました。中学・高校時代に当たり前のように読んでいまして、途中から年齢的に合わなくなって、一度離れたのです。講義の資料として最近の作品を読んだ時に、マンガの表現形式にあった演出がすごくうまいということが、プロの作家の観点で読んでみてよくわかりました。感動して、同年代の友だちと盛り上がりました。

土居

すごいというのは、コマ割や吹き出し、構図とかですか。

笹生

そうですね。プロットのすごさと、絵でどう見せるかというすごさですね。決めコマのところでことばを使わないで、絵で見せる演出の仕方がすごいと思いました。

７．児童文学作品を書くということ

土居

くらもちさんはマンガというメディアを知り尽くして作品を描かれたということですね。笹生さんも文学というメディアを意識して書いていらっしゃるように感じるのですが。

笹生

ことばの芸でがんばりたいと思っています。読者の方からいただく感想は、内容的なことが多いので、もう少しことばにも注目して読んでいただけたらと思うのですが、なかなかむずかしいですね。編集の方でもできないこと

なので、高望みかなと思ったりもします。

書くときにはことばの配列の仕方にかなりこだわっていて、Wordで書くときに、たとえば「私」や「あたし」の置き場所を変えてみて、どこに置いたらいいかなと考えながら書いています。読んだ人の頭にすうっと自然に情報が入っていくように、ことばの置き方や使い方にもこだわっています。

児童書からスタートしているので、むずかしいことばが使えないなどの制約があるなかで、ことばの組み合わせを工夫して、こうすると笑える、こうするとブラックになるということを学ぶことができたのは良かったと思います。一般書は自由なので、そういった修行をしにくいかもしれないなと思います。

土居

笹生さんは、ずっと児童書を書いてこられましたが、思春期の子どもたちにこだわっていらっしゃいますか。

笹生

そうですね。出版社には大人の話を注文されるのですが、書けそうもなくて、10 代の話になってしまいます。

私自身未熟なもの、未完成なものが好きなのです。音楽を聴いていても、すごく売れているバンドよりは、インディーズで、荒削りだけど勢いだけはある人たちの音楽が好きですし、作家さんもデビュー作から3作までが好きです。デビューしたばかりのころは荒削りで、やる気満々で書いているのですが、4作目ぐらいになると、だいたいが量産型の慣れた文章になって、まとまってきます。そのころになるとつまらなくなって、買わなくなってしまいます。人間も、落ち着いた感じの人よりは、いろんなところがたりていない人のほうが好きです。じつは弟がおりまして、弟は私より2歳下なので、いつも自分よりできない人がまわりにいたわけです。それがいとおしかった。未熟イコールかわいいと刷り込まれたようです。例えばエリートの男の子であっても、中学生なりの未熟さってありますよね。そういうところを書きたくなるのです。

逆に落ち着いている大人の恋愛ものは、書きたい気持ちがまったくわかないのです。できあがった人よりも、成長過程の人が好きです。出版社からは大人のものもどんどん書いてくださいと言われるのですけど、ぜんぜん書く気がおこりません。

土居

児童文学には児童文学のおもしろさがあるので、ぜひ書き続けていただきたいです。今ボーダレスで、ヤングアダルトの作家は大人の作品も書いておられますが、大人に向けて中学生の回想的な作品を書く場合と、児童文学としてその年齢に向けて書く場合の書き方はぜんぜん違うと思うのです。だから、ちゃんと中学生、高校生に向けて書いてくれる作家がいてほしいと思っていて、笹生さんをすごく応援しています。

笹生

最初に出版した講談社児童局は子ども向けということをしっかり意識して編集しているので、私もそのあたりは意識して書いています。子どものために書くのと、大人に向けて子どもを主人公に書くのとは、ぜんぜん書き方が違ってくるので、きっちりと子どもは子ども扱いをして作品を書くという姿勢が児童書の真髄かなと思っています。

土居

笹生さんご自身が、中学・高校のころにこだわったことや悩まれたことがあって、この時代を書きたいなと思われたということはありますか。

笹生

そうですね。『サンネンイチゴ』は中学生の女の子を主人公にした唯一の作品なのですが、実体験が混じっています。一番こだわりがある年齢は、自分が作家になりたいと思った小学校 5、6 年生なのですが、中学2年生のころも思い出深い年齢です。中学生のときに作品に出てくるボイコット事件を起して、先生と対決しました。神奈川県では中学2年生でアチーブメントテストがあって、受験を意識せざるを得なくて、学校が殺伐としていました。ボイコットに関わった同級生が『サンネンイチゴ』を読むと、作品に登場する先生はあの先生とあの先生を混ぜたねと言っています。

土居

『サンネンイチゴ』では、ボイコット事件は小学校5年生のときのこととして書かれていますね。ボイコットのあとで、納得できなかったので、罰として課されたことをしないで帰ったというのも実体験ですか。

笹生

そうです。職員室の前で正座させられたのですが、私は気が強くてアサミちゃんタイプの人間だったので、謝る気がしなくて帰ってしまったのです。そんなことをするのは私だけだろうと思っていたら、意外なことに私とは反対のおとなしい女の子が謝らないで帰ってしまったのですよ。自分みたいな勝気でめだつ人間じゃなくても、めだたない寡黙な女の子のなかにも強い意志があるのだなとその同級生のことを見直したという強烈な思い出があります。それまでは、おとなしい子は何も考えていないのじゃないかと勝手に思いこんでいたところがあります。

土居

男の子の主人公が多いのは、やはり女の子にすると、自分と重なるからでしょうか。

笹生

そうです。実話が出てきてしまうと客観性がなくなるので、主人公を「ぼく」にしたほうが、弟を観察していた経験をふまえて、客観的に書けるのです。

土居

あんまりマッチョな子は出てこないですよね。

笹生

そうです。私の好みですね。

土居

カタカナ表記のタイトルや登場人物の名前が多いですね。『サンネンイチゴ』のタイトルも全部カタカナです。

笹生

『サンネンイチゴ』は、担当の方がつけたのです。私がつけたのはまったく別のタイトルだったのですが、担当の方が突然『サンネンイチゴ』というタイトルを提案してこられて、とても変わっていて印象的でいいかなと思いました。これはめずらしく私がつけていないタイトルですが、ほとんど自分でつけています。

登場人物の名前は、最初は漢字で書いていましたが、途中から下の名前をカタカナに変えたりしました。普通にないような名前にしているのは、マンガ的な演出です。作り物のはなしに登場するキャラクターだとわかっていいかなと思って名前をつけています。

土居

『ぼくは悪党になりたい』では、兎丸さんと羊谷さんで、兎と羊になっているのがけっこうおかしくて、笑えますね。

笹生

犠牲者的なイメージの男の子2人を出そうと思ったので、弱い動物の名前を苗字につけてみました。

土居

そういう意図がおありになったのですね。

８．読者からの反響

土居

いろいろおうかがいしたいことはいっぱいあるのですけれども、参加者のみなさんから笹生さんの作品を子どもたちがこんな感じで読んでいますというお声をおうかがいしたいと思います。

発言者1

羽曳野市の小学校の司書をしております。先生の作品を知ったのは最近なのですが、一気に 3、4 冊読んで、これは学校図書館に入れようと思って入れました。男の子が読める本が少ないので、ぜひ高学年の男の子にも

いっぱい本を読んで欲しいと思って、『ぼくらのサイテーの夏』を入れました。

作品を読んだ子どもにどうだったと聞いても、小学生の場合はここが良かったという返事は返ってこないです。でも、書架に本を戻すと、すぐまた誰かが借りていきます。子どもたちのあいだで、おもしろいというのがクチコミで広まっているようです。

発言者2

豊中市の中学校の司書をしております。14才をキーワードにブックトークをしたときに、『楽園のつくりかた』を紹介させていただきました。主人公が転校してきてあいさつするシーンを読んだのですが、生徒たちは鼻持ちならないやつが出てくる本なんだなという感じで受け止めていました。すぐには借りられないのですけれども、さりげなく借りていきます。中学生ぐらいになると、おもしろかったという友だちのクチコミの情報がすごく大きなウエイトを持っていて、誰かがおもしろいというと、読みつがれていくという感じがしています。

笹生

伝説のように伝わっているということですね。ありがとうございます。

発言者3

堺市の図書館の司書です。うちの図書館では高校図書館との連絡会を毎年開催しておりまして、職員がブックトークをする会、高校生にブックトークをしてもらう会というふうに交互に行うのですが、去年の連絡会で、高校生に「好きな本」というテーマで紹介してもらったところ、笹生先生の本が3校ぐらいから挙がっていまして、よく読まれているのだなということがわかり、私たちもうれしく思いました。

土居

いま、フロアーから子どもたちの反響についてお聞かせいただきましたが、それに対して笹生さんの方で何かご意見、ご感想はございますか。

笹生

さきほども言いましたが、読書カードでも、なかなか子どもたちの反響はつかみにくいです。

読者の方の反響を知るひとつの方法として、ミクシィに笹生コムがあるので、オフ会を3回ほどさせていただきました。また、直接ファンレターで感想を知ることもできます。高校生の女の子が『サンネンイチゴ』を読んでファンレターを理論社に送ってくれたのを、理論社が私のところに回してくれました。東京の大学に入学すると書いていたので、私が返事を出して先日会いました。美大の学生さんなので、なかなかおもしろかったです。

子どもやその家族に関する情報を得るという点では、以前に時間があったときには家庭教師をしていましたので、いろいろなタイプのお母さんやお父さんや子どもたちの様子をつぶさに観察させていただきました。今は忙しくなったので、ネットのブログなどを見て、情報を得ています。

土居

中学校等でオーサービジットをされたことはありますか。

笹生

まだないです。呼ばれたら行ってみようかなと思います。

土居

単行本のときと文庫本になったときでは、反応が違うかどうかというのは、なかなかつかみにくいですか。

笹生

そうですね。やっぱり文庫本になったときの知名度の上がり方は、だいぶ違いますね。

ヤングアダルトの本がたくさん出版されていますが、ひとつの理由は小学校6年生までの本が売れないからです。売れない本は、はじめから出してくれるわけがないので、小学生5、6年生向きの作品を書きたいですと編集者に言っても、もう少し年齢をあげて中学生向きの作品を書いてくださいと言われます。

土居

だから、今小学校の子どもが読める作品が、本当に少ないのですね。

笹生

そうですね。本当に少ないみたいですね。「小学校 3～6 年生向きの作品を書かせてください」と言うと、「それもいいけどヤングアダルトも書いてくださいね」と必ず言われます。一般の本屋さんの売り場に置いてもらえないので、3～6 年生向きの本はなかなかむずかしいみたいです。その学年対象の児童書は、文庫化される流れもかなり遅いようです。『バッテリー』等の実績があって、やっと講談社でも文庫になったという感じです。

９．笹生作品のテーマ

土居

話が変わりますが、『バラ色の怪物』という作品では、主人公のおとなしい男の子が、1学年上の男の子がやっている商売につきあわされて、騙されたことを知り、怒って首を絞めて殺そうとしたときに、自分の顔を鏡で見てやめようと思いますね。笹生さんご自身が心の闇みたいなものにこだわっておられて、こういうふうに書かれたのでしょうか。

笹生

今の若い人は、怒りの感情のあらわしかたや怒りを具体的な行動にどうやって移していくかということがわかっていないのではないかと思ったのです。自分が事件の被害者になったときに、どういう態度を取るのだろうと思って書きました。

じつは当時の担当の方が暗めの話が好きで、大江健三郎さんが好きだと言っていたので、少しダークな雰囲気にしてみようかなと思いました。

やはり本を出すからにはある程度読んでもらいたいですし、本を通じてシンパを作りたいので、自分の生の意見を言ったところで振り向いてくれませんよね。ある程度マーケティングのようなことはします。こういえば受けるかなとか考えて、感じ良くするようには心がけています。

さきほど今の若い人の創作の話がありましたが、3年ぐらい前まで大学と短大で非常勤講師をしていましたが、レポートのかわりに創作でもいいですよということにしましたので、19、20 歳ぐらいの若い人の創作を数多く読みました。そのなかには、ひとつの作品を男女二つの視点で書いた作品も多かったです。あと特に顕著だと思ったのは、男性が女性の視点で書く作品がかなり多かったことです。大学生の男の子が、OL の視点で書いたり、中学生の女の子の視点でおばちゃんが死んでしまったときの悲しみや胸の大きさの悩みを書いたりしていて、それがとても自然に書かれているのです。おそらく、ライトノベルの影響もあるのかなと思いました。最初は男女二つの視点で書いてみて書けたので、次は女性の視点だけで書いてみるという流れがあったのかなと思って、とてもおもしろかったです。

土居

ファンタジーを書いてみたいとか、SFを書いてみたいとか思われることはありますか。

笹生

ファンタジーはいつか1作ぐらいは書いてみたいと思っていて、ただいま勉強中です。昔からそういう本を読んでこなかったので、素養がないのですよ。

私の作品の大きなテーマは、わかりあうはずのない二人がなんとなく理解しあうというところまでを書くことかなと思うのですけれども、人と人とがわかりあうこと自体がファンタジーかなと思います。よくシニカルな作風だといわれるので、いつかファンタジー書くときもすごく変った書き方をするかなという気がします。

土居

すごく楽しみです。

笹生

たぶん5年後ぐらいですよ。あと、マンガの話も書きたいなと思っています。マンガのアシスタントもやっていた

ので、その経験を生かして書いてみようかなと思います。楽しみにしていてください。

土居

はい。ところで、『サンネンイチゴ』では、犯人の中学生は作品のなかでは犯人役としてしか出てこないですね。みんなが救われたり、みんなが改心したりしたら、かえって不自然ではあるのですが、意識的にそういうふうにされていますか。

笹生

そうですね。それは対象年齢で分けています。6年生までだったら、悪い子もごめんなさいとあやまったり、反省したりするところまでは書くのですけれども、中学生になったら、性格の悪い子が反省して性格が良くなるというような書き方はしないですね。中学生向きには、悪は悪として書いていいかなと思います。一般書になると、悪のほうが勝つと書くこともありますが、児童書として書く場合は、そこまでシビアにはしないと決めています。

たとえば、性格の欠点の悩みを書くとして、小学生の読み物として書く場合は欠点を直すところまで書きます。つまり小学生向けの場合は、欠点があったけれども、いくつかのエピソードを経て、こう変わって良くなりましたと書いていいと思うのですが、さすがに中学生の女の子だったら、欠点を反省して直して、今日からいい子になりますというような書き方をしても読者がついてこないと思うのですよね。その子の欠点は欠点のままどうやって生きていくかというところに重点を置いた書き方をしないと、あまりにもわざとらしくて、主人公と同年齢の読者がしらけて離れてしまうかなと思います。

土居

脇役のなかに、障がいのある妹とか、ホームレスとか、社会のなかで弱者といわれるような人たちを登場させていらっしゃいますが、意識的に世の中にはいろいろな人がいるのだということを書こうとしていらっしゃいますか。

笹生

そうですね。マイノリティを書こうという気持ちは、私自身のなかにはあるのですけれども、けっこう書くのがむずかしいです。『バラ色の怪物』でも、社会問題的なことを入れたらそこが削除されたりして、そのために作品の軸がぶれてしまったということもありました。

土居

『ぼくらのサイテーの夏』のお兄ちゃんもひきこもりですよね。

笹生

この作品を書いたときは、「不登校」か「登校拒否」か、ことばが揺れている時代でしたが、今だと「ひきこもり」ですね。つぎは青年に年齢を移して、ひきこもりやニートの話を書こうかなと思っていて、ひきこもりのブログなどを検索して読んだりしています。それを講談社の文庫情報誌「IN・POCKET」に連載する予定です。

ふつうの子を主人公にしている作品と変わった子やエリートを主人公にしている作品を交互に書いている感じがします。出版社のことを考えてふつうの子を主人公に設定してみたりして、自分のなかでバリエーションをつけています。

土居

でも、ふつうの子といってもいわゆるふつうの子ではなくて、心のなかに悶々としたものを抱えていたりして、自分のやっていることは正しくて何も悩みがないというような子は基本的に出てこないですよね。主人公がまわりから見たらおとなしいふつうの子であっても、その子の内面を書くときにはそうではないというところでは共通するのかなと思って読ませてもらいました。

笹生

そうですよね。私も天真爛漫な子を主人公にしてお話は作りにくいです。

土居

みんながすごくいろいろなところでこだわっていて悩んでいるという、存在の不確かさや不安定さを書いていら

っしゃるところがおもしろいなと思いました。

笹生

実際の子どもがどう思って読んでくれているのか、本当にわからないのですよ。デビューのときから、読者カードを送ってくれる層が 20 代～30 代の女性で、今もそれは変わっていません。最近、若い男の子が読んでくれるようになったのがうれしいなと思います。自分が女で、女の人が読んでいるというところでループしていたので、やっと男の子が入ってきたと思うとうれしいです。

土居

だんだん時間も少なくなってきましたが、ご質問があればおっしゃってください。

発言者4

『楽園のつくりかた』と『ぼくらのサイテーの夏』と『バラ色の怪物』の3冊を読ませていただいたのですが、お父さんが亡くなっていたり、単身赴任だったりで、お父さんがいない家庭が多かったのですが、何か理由があるんでしょうか。

笹生

これ以上人数を出すと書ききれなくなってしまう場合に、最初に省かれるのが父親なのです。たぶん世代も関係があると思うのですが、父親不在のようなところがあります。両親がそろうと書き分けなければならないので、ページ数が必要になりますし、読者も作品のなかで大人が子どもに対して意見を言ったりするとしらけるので、なるべく親を出さないで、子どもの言動を中心に書いていきたいと思っています。母親もすごくキャラクターの強い母親ではなくて、ふつうの母親が多いと思います。ふつうの意見だけ言って、空気のように存在している場合が多いです。

発言者5

豊中市の小学校の司書をしております。うちの学校では『ぼくらのサイテーの夏』と『きのう、火星に行った。』と『楽園のつくりかた』と『サンネンイチゴ』を入れていまして、『サンネンイチゴ』は、5年生の女の子がひっきりなしに借りていって、本棚に残らない状態です。『ぼくらのサイテーの夏』や『きのう、火星に行った』も、5年生の男の子たちがよく借りています。

『サンネンイチゴ』も子どもたちの危うさや不安定さのような雰囲気がブックジャケットによく表現されていて、すごくいいなと私も感じますし、子どもたちもそう感じているようです。

笹生さんの作品は、心の内面や重い部分が書かれているにもかかわらず、ものすごく読みやすいです。それというのも、やはり文章が練られているからだなと思いました。お話をお聞きしていて、文章にこだわりをもって作品を出し続けていらっしゃる姿勢がうかがえて、頼もしいなと感じました。それで、お尋ねしたいのですが、どのぐらいのスピードでお書きになるのでしょうか。それから、リラックス方を教えてください。

笹生

まず、執筆のスピードですけれども、私は機械的に書き進めるほうなので、1日4ページと決めたら4ページ、5ページと決めたら5ページ、毎日コンスタントに書いていきます。私の基本的なスピードはだいたい 4～5 ページで、1作が200枚～250枚だとすると、4～50日で一応初稿を書きあげます。それを編集部に持って行くと見ていただくのに1ヶ月かかり、そのあと 2～3 回書き直してからゲラになります。

リラックスの方法は、家でネコを飼っているので、ネコをいじったり、DVDで映画を観たり、マンガを読んだりすることです。ネットでマンガを買って、大学の資料を作りつつ、読んだりしています。そのなかで、ピンとくるものがあると、次の作品にしようかなと思ったりします。別ジャンルの作品を見て、おもしろく感じたことが次の作品の糧になるということがとても多いです。

10. メディアミックス時代に書くということ

土居

笹生さんご自身がメディアミックスを楽しんでいらっしゃるという意味で、今の中高生に近いところがありますね。ゲームもなさいますか。

笹生

後に SE になった弟の影響で、ゲームもすごく好きでした。

土居

ロールプレイングゲームもかなりされましたか。

笹生

小さいときはマリオの時代でしたが、そのときからずっと好きでした。今も家にいるので、けっこうメールも好きですし、かなりネットにも書き込みもしています。パソコンで原稿を書いているときに、集中力が途切れると、ネットのサイトを見にいったりしています。

土居

社会が活字メディアからいろいろなメディアに移行してきたので、笹生さん自身、子どものことばの使い方が変化しているということも意識しながら、場合によってはパソコン的なことばやブログ的なことばを入れて書いてみようかなというふうに思って書いていらっしゃいますか。

笹生

まさにそのとおりです。たとえば、携帯の文章は本当は横書きなのに、本にすると縦書きになってしまうことなどがとてもやりにくいですね。

土居

横書きで小説を書いてみようかなと思われることはありますか。

笹生

そうすると、今度は地の文をどうするのかという問題がありますね。メールの文章を太字にしたりしていますが、何か新しい書き方はないかなとただいま開発中です。

土居

今、読書離れとか、活字メディア離れとか言われていますが、本は死に絶えることはないと思われますか。

笹生

むずかしいですね。でも、死に絶えることはないと思います。本は完成度が高いので、残るのではないかと思います。物体だけれども、そのなかから目に見えないものが人の心に届くメディアなので、残るかなと思います。

土居

今日は、図書館員の方やボランティアの方や学校の先生がたくさん来てくださっていますが、中学生の読書活動にどういうことを期待されますか。自分が中学のときもこういうことはいやだったし、私の作品をこんなふうに扱ってほしくないなというようなことはありますか。

笹生

いやだということは特にないです。ただ、最近は読者もボーダレスですし、社会でも子どもと大人の区別がだいぶつかなくなってきていますが、そのなかにあっても児童文学はその本の対象年齢と相手が子どもであるということをきちんと意識して紹介していただきたいと思います。特にライトノベルのような場合は、年齢がかなり広範囲になっていますが、性描写の扱いとかは注意してほしいですね。出版社は売らんかなで過激な性描写を入れてきますが、教育的な面を考えたときに、今の子どもはもうすすんでいるから別にこのぐらいいいでしょうということではなく、子どもは子どもだという扱い方をして、本の紹介をしていただきたいと思います。

土居

ライトノベルはよく読まれますか。

笹生

そうですね、学生がとても好きなので、たまに読んでみたりします。それに、人気コミックスのノベライズもありますよね。ノベライズされた場合に、年齢層が上がって、描写が大人っぽくなっているにもかかわらず、子どもが知らないで買ってしまうということがけっこうあるのですね。本を見分ける力のあるみなさまは、その本が子どもに対して益があるのかどうなのかをよくチェックしていただきたいと思います。本のことがよく分からない親は、少しエッチなシーンや暴力シーンがあっても、気にしないで買い与えてしまう場合があると思うのですけれども、みなさまが紹介する場合はよく対象年齢を考えてほしいと思います。

11. 今後の抱負

土居

では、最後にこれからどういう作品を書いていきたいと思っていらっしゃいますか。今後の抱負をお聞かせください。

笹生

先ほども言いましたが、ファンタジーを書いてみたいなという思いはありますね。

土居

具体的な構想はおありになるのですか。

笹生

ファンタジーを実際に読んでいないので、書きにくいだろうなとは思いつつ、チャレンジしてみたいと思っています。あと、大人向きに小中学生の恋愛ものも書いてみたいです。

それから、ことばの配列にはずっとこだわっていきたいと思っています。また、作風をおもしろおかしい方向に持っていきたいなと思っています。女性作家の方はことばの芸でまじめにふざけるところまでなかなかいきにくいので、やってみようかなと思っています。

物語の内容としては、社会から少しはずれてしまった人の話をさわやかに書くことができればと思っています。さわやかなひきこもりとか、誰からも好かれるニートとか、ことばの力でいそうもない人を書くことができれば楽しいかなと思っています。

ただし、小学生向けの児童書はなかなか注文がきません。中学生向けか一般書しか注文がきません。私の方から書きたいと言っても、「やっぱりヤングアダルトを書いてください」と言われてしまうのです。もし私が小学生向けの作品を書いたら、よくやったと思ってください。

土居

今日は、今の出版事情や編集者との具体的なやりとり、作品をお書きになるときにどういうところで苦労されているか、どういうことを考えてお書きになっていらっしゃるかということなどをうかがって、だからこのような作品が生まれたのだなと納得できるところがたくさんありました。プロとして書いていらっしゃって、演出をすごく心がけていらっしゃること、マンガやコンピューターゲームやアニメーション・映画などを楽しんできた世代としてメディアミックスを意識されて作品を書いていらっしゃるということがよくわかりました。

それから、子どもたちのとっては、笹生さんのアウトサイダーへのこだわりというようなところも共感できるところであるということもわかりました。また、これから笹生さんの作品を子どもたちに紹介するときに、こういうことも伝えられるなと思うこともたくさんありました。限られた時間でしたけれども、笹生さん本当にありがとうございました。

笹生

みなさまどうもありがとうございました。

土居

ご来場のみなさま、どうもありがとうございました。

[1] おのきがく／文・絵、ポプラ社　1970 年
[2] 「ジャンボジェットの飛ぶ街で」で 1955 年度佳作に入賞
[3] 『青い目のバンチョウ』　山中恒／著　講学館　1966 年 5 月
[4] 「11 月のギムナジウム」「別冊少女コミック」小学館 1971 年 11 月号
[5] 『バッテリー』１～６　あさのあつこ/著　教育画劇　1996 年 12 月～2005 年 1 月　角川文庫で 2003 年 12 月～2007 年 4 月に出版されている。
[6] 「ジョゼと虎と魚たち」　犬童一心/監督　アスミック・エースエンタテインメント配給　2003 年製作
[7] 「メゾン・ド・ヒミコ」　犬童一心/監督　アスミック・エースエンタテインメント配給　2005 年製作
[8] 「パッチギ」　井筒和幸/監督　シネカノン配給　2004 年製作
[9] 「トランスアメリカ」ダンカン・タッカー/監督　アメリカ　2005 年製作

資料１

笹生陽子さんの著作一覧

＊出版年代順

＜単行本＞

『ぼくらのサイテーの夏』　やまだないと/絵　わくわくライブラリー　講談社　1996 年 6 月、講談社青い鳥文庫　2005 年 2 月、講談社文庫　2005 年 2 月

『きのう、火星に行った。』　広中薫/絵　わくわくライブラリー　講談社　1999 年 6 月、講談社文庫 2005 年 3 月

『さよならワルガキング』　じびきなおこ/絵　汐文社 2001 年 12 月

『楽園のつくりかた』松尾たいこ/装画　講談社　2002 年 7 月、角川文庫　2005 年 6 月

『ぼくは悪党になりたい』大島依提亜/装画　角川書店　2004 年 6 月、角川文庫　2007 年 6 月

『バラ色の怪物』網中いづる/装画　講談社　2004 年 7 月、　講談社文庫　2007 年 7 月

『サンネンイチゴ』　理論社　2004 年 10 月、『１４歳の本棚』初恋友情編　北上次郎/編　新潮文庫　新潮社　2007 年 4 月に一部所収

「ガルボによろしく」『タイム・ハード』vol.３　全日出版　2004 年 10 月

＜雑誌掲載作品＞

「坂井に話してみたいこと」　「日本児童文学」44－2　1998 年 4 月

「保健室へようこそ」亀井洋子/絵『話のびっくりばこ』『科学と学習』増刊　読物特集号 6 年下　2006 年 11 月

大阪府域での
子どもの読書活動の報告

平成１９年度大阪府子ども読書活動推進連絡協議会　活動報告

Ａ．文部科学省委託事業「読書活動への理解を深める取組の調査研究」

Ⅰ．「親子で取り組む読書活動の推進に関する調査研究」事業

１．実行委員会開催

開催日：平成19年9月27日（木）、10月11日（木）、11月29日（木）
組　織：島本町立図書館、健康福祉事業室、保育士、ボランティア、
地域福祉委員、大阪府子ども読書活動推進連絡協議会委員
財団法人大阪国際児童文学館、大阪府教育委員会
場　所：島本町立図書館

２．連続講座開催：「みんなでゆったり子育て―あそび・ことば・えほん―」

第１回　日　時：2007年12月15日（土）13:00～15:00
場　所：ふれあいセンター１階ケリヤホール
講　演：「わらべうたであそぼっ！」
講　師：近藤信子さん（音楽教室“とんとんやかた”主宰）
参加者：72人（保護者・ボランティアの方など）

第２回　日　時：平成20年1月28日（月）10:00～12:00
場　所：島本町立図書館
講　演：「赤ちゃんから絵本を楽しむ」
講　師：新井せい子さん（学校図書館を考える会・近畿）
土居安子（財団法人大阪国際児童文学館）
参加者：28人（ボランティアの方など）

Ⅱ．「子どもの読書意欲を向上させる取組に関する調査研究」事業

１．実行委員会開催

開催日：2007年12月6日（木）
組　織：豊中市立第八中学校（教諭・学校司書）、豊中市教育委員会、
小森香折（作家）、大阪府子ども読書活動推進連絡協議会委員、
財団法人大阪国際児童文学館、大阪府教育委員会
場　所：豊中市立第八中学校図書館

２．オーサービジット実施

日　時：2008年1月31日（木）5限・6限
場　所：豊中市立第八中学校図書館
講　師：小森香折（作家）
参加者：中学1年生2クラス　74人
内　容：事前に「ライバルは幽霊？」の最初の部分を読み、謎を推理し、展開を予想する。当日、作者の小森さんから作品の創作過程や構成についての話を聞くことで、短編小説のおもしろさを作者の側から体験する。

Ⅲ．「子どもの読書体験の効果的手法に関する調査研究」

１．実行委員会開催

開催日：2007年9月20日（木）
組　織：自然観察学習館、日本万国博覧会記念機構、財団法人大阪国際児童文学館
場　所：大阪府立国際児童文学館

２．ワークショップ実施

日　時：2007年11月23日（金）13:30～15:30
場　所：万博記念公園自然観察学習館
対　象：小学生
講　師：自然観察学習館職員
参加者：28人
内　容：万博公園の森で自然にふれ、豊かさを体験し、講師に森についてのはなしを聞いた後、「へんてこ森」のおはなしを作って、木の葉などを使ってコラージュを作り、物語世界を表現して楽しむ。

Ｂ．文部科学省委託事業「子ども読書応援団推進事業」

Ⅰ．実行委員会開催

開催日：2007年7月13日（金）

組　織：講座講師、大阪府子ども読書活動推進連絡協議会委員、大阪府立中央図書館こども資料室、財団法人大阪国際児童文学館、大阪府教育委員会

Ⅱ．講座開催：「絵本を読む―10代の子どもたちとともに―」

第１回　日　時：2007年9月25日（火）10:30～16:00

場　所：大阪府立国際児童文学館セミナー室

講　師：森崎シヅ子（熊取文庫連絡協議会代表）

講　演：「10代の子どもたちとともにおはなし・絵本を共有する
―おはなしと絵本を届けて15年、活動から見えてきたもの―」

参加者：22人

内　容：講師のはなしを聞き、ワークショップを行い、10代の子どもたちの読書活動支援にむけての現状と課題を把握し、今後の方向性について考える。

第２回　日　時：2007年10月2日（火）10:30～16:00

場　所：大阪市立中央図書館会議室

講　師：第１回と同じ

講　演：第１回と同じ

参加者：20人

内　容：第１回と同じ

Ⅲ．報告書作成

内　容：平成１９年度の活動報告
講演会の概要、小学校高学年・中学生を対象としたおはなし会事例報告

配布先：府内の図書館、関係機関・団体など

Ｃ．大阪府子ども読書活動推進連絡協議会事業（単独で実施）

Ⅰ．運営委員会開催

日　時：2007年4月20日（金）、2008年3月4日（火）

Ⅱ．リーフレット「親と子が楽しむはじめての絵本」改訂版印刷・配布

改訂版発行（絶版絵本を差替）／45,000部

Ⅲ．活動報告・講演会・交流会開催

場　所：ホテルアウィーナ大阪

日　時：2008年3月4日（火）13:00～16:30

参加者：160人

内　容：活動報告・講演会・交流会

報告会：「乳幼児と絵本」鈴木幸恵さん（島本町立図書館）

「オーサービジット：小森香折さん」糠野景子さん
（豊中市立第八中学校）

「ワークショップ：へんてこ森へいこうよ」土居安子
（財団法人大阪国際児童文学館）

「講座：絵本を読む～10代の子どもたちとともに」（同上）

講演会：「ＹＡ作品を書くということ」〈講師：笹生陽子さん（作家）〉

活動報告　Ⅰ
「乳幼児と絵本：みんなでゆったり子育て―あそび・ことば・絵本―」（島本町立図書館）

日　時：平成20（2008）年３月４日（火）　場　所：ホテルアウィーナ大阪
報告者：島本町立図書館　鈴木幸恵さん

平成 19 年度島本町で実施しました乳幼児の読書推進ネットワーク事業「みんなでゆったり子育て―あそび・ことば・えほん―」についてご報告させていただきます。

島本町は、大阪府と京都府の境に位置し、最近では人口３万人を少し下回るようになりましたが、大阪・京都近郊の衛星都市として発展しています。

島本町立図書館は、阪急水無瀬駅から 1.2ｋｍの小高いところに、平成８年に開設された複合施設のふれあいセンターの４階にあり、乳幼児から高齢者まで広く利用されています。

島本町では、大阪府では比較的早い平成14年４月から、４ヶ月児、１才６ヶ月児、３才６ヶ月児の検診時に、健康福祉事業室が「出会いの絵本事業」を実施しています。４ヶ月検診は保健師、１才６ヶ月児は子育て支援担当保育士、３才６ヶ月児は司書が担当し、絵本の読み聞かせをしたり、絵本１冊と絵本リストなどを配布したりしています。これにより、島本町では、どの子も乳幼児期から絵本と出会う機会が持てるようになりました。町立図書館では、毎週１回就学前後の子どもたちを対象に「おはなしかい」を開いていますが、この「出会いの絵本事業」の実施により、乳幼児の親子連れの参加が多くみられるようになり、参加者がどんどん低年齢化し、プログラムの再検討が必要になってきました。

そのような中、昨年の７月に、大阪府子ども読書活動推進連絡協議会から今回の事業のお話をいただきました。図書館の事業に協力いただいているおはなしボランティアさんや、出会いの絵本事業に関わっている担当者たちに相談すると、良い研修の機会になるのではという声があがり、取り組むことになりました。

今回の事業のキーワードは連携、ネットワーク作りということで、実行委員には、大阪府子ども読書活動推進連絡協議会委員、行政からは図書館長と職員１名、出会いの絵本を担当している保健師、子育て支援担当保育士２名、地域からは図書館事業に協力いただいているボランティアさん１名、地域で絵本や遊びを通して活動しているお母さんたちの子育てサークルの代表の方、地域の集会所等で子育て広場を担当している福祉委員さんに加わっていただくことになりました（資料１参照）。

早速９月に第１回実行委員会を開き、実行委員のそれぞれの立場から意見交換をしました。そのなかで、子育て中のお母さんからは、「今、子育て中のお母さんたちは、子どもに本を読んであげないといけないという使命感で、わが子に絵本を読んでいるように思う。お母さん自身絵本を読んであげる楽しさを知らないのではないか」という意見や「お母さんが子どもに読んであげるばかりでなく、読んでもらう幸せを体験する機会をつくることはできないか」「お母さんが幸せと感じることがなければ、心に余裕がもてないのではないか」などの意見がでました。これらの意見をもとに、島本町でどのような内容の講座にしていくのかと話し合った結果、「みんなでゆったり子育て―あそび・ことば・えほん―」（資料 2）というテーマになりました。講座は全２回とし、講座の内容としては、１回目は子育てサークルや子育て広場でも関心の高い「わらべうた」の講座、2 回目は「赤ちゃんと絵本」についてのお話と絵本のワークショップを実施することになりました。そして対象は、乳幼児に関わる活動をしている人、乳幼児をもつ保護者としま

した。

講座①では、茨木県つくば市でわらべうたを中心に音楽教室「とんとんやかた」を主宰され、ＮＨＫの「日本語であそぼう！」でわらべうたコーナーを監修されている近藤信子さんを講師にお迎えしました。生き方を育むわらべうたは、子どもの生活の中では欠かせないものであるというお話を交えながら、参加者が子どもに返り、わらべうたをたっぷり楽しみました。

講座②では、前半は、学校図書館を考える会・近畿の会員でもあり、地域の乳幼児の読書活動推進にも関わっておられる新井せい子さんに「あかちゃんと絵本をたのしみましょう・子育てに絵本を」というテーマで、子育ての中で絵本のもつ意味についてお話いただきました。続いて、島本町の「出会いの絵本事業」について、担当している保健師、保育士、図書館司書がそれぞれ実施状況や取り組みについて紹介しました。後半は、大阪国際児童文学館主任専門員の土居安子さんを助言者に、参加者が５人ずつのグループにわかれ、自分で選んで持ってきた絵本を紹介し、読みあうというワークショップをしました。

ワークショップ後、各グループから「自分なら選ばない本だったけれど、読んでもらうととってもよかった」「知らなかった本にも出会えてよかった」「読み方にもいろいろあり、決まった読み方はないということがはじめてわかった」「読んでもらうのはとてもぜいたくな時間に思えた」など、さまざまな声が聞かれました。

終了後のアンケートでは、ほとんどの方が「とてもよかった」との回答をいただきました。実行委員になっていただいた子育てサークルや子育て広場で乳幼児と関わっているお母さん、福祉委員さんからも、「この事業に関わることができてよかった。これからの活動に仲間とともに生かしていきたい」という感想が寄せられました。

今回、島本町で初めて実行委員会形式で事業を実施したことにより、乳幼児をもつお母さんや乳幼児の活動に関わっている方からさまざまな意見や思いを聞くことができました。そして、今後は今回の講座で学んだことを子どもたちに返していくことが大切だと思いました。

島本町では、昨年「子ども読書活動推進計画」が策定されたばかりで、その計画のなかには、子どもに関わる行政機関および読書団体が連携し、家庭地域へ子ども読書活動の推進啓発に努めることとあります。この時期にこの事業を実施できたことは大きな意義がありました。これを機会に小さな町の良さを生かして、子どもに関わる読書活動の連携、ネットワーク作りをさらにすすめていけたらと思います。これで報告を終わります。ありがとうございました。

資料１

平成 20 年３月４日（火）

大阪府子ども読書活動推進事業　親子で取り組む読書活動の推進
大阪府域での子ども読書活動の報告「乳幼児と絵本」

島本町立図書館
鈴木　幸恵

１．島本町の現状について
『出会いの絵本』平成１４年４月～実施
島本町子ども読書推進計画（平成１９年８月策定）

２．「乳幼児読書推進ネットワークづくり事業」実行委員会の組織

- 図書館職員　２名
- 健康福祉事業室　１名
- 子育て支援課幼児教室担当保育士　２名
- おはなしボランティア　１名
- 地域子育てサークル代表　２名
- 地域福祉委員子育て広場担当　１名
- 大阪府子ども読書活動推進連絡協議会担当委員

実行委員会議

- 第１回実行委員会　　平成１９年　９月２７日（木）
- 第２回実行委員会　　平成１９年１０月１１日（木）
- 第３回実行委員会　　平成１９年１１月２９日（木）

３．みんなでゆったり子育て―あそび・ことば・えほん―
具体的な講座内容　（別紙　１）

４．乳幼児読書推進ネットワークづくり事業
みんなでゆったり子育て―ことば・あそび・えほん―

- 講座をとおして
- 今後の課題

資料2

乳幼児の読書推進ネットワークづくり事業

みんなでゆったり子育て

―あそび・ことば・えほん―

講座①

わらべうたであそぼっ！

おてんとさん　おてんとさん　てぬぐい　おかせ
それがいやなら　ひをおかせ

平成19年

12月15日（土）午後1時～3時

ふれあいセンター1階　ケリヤホール

講師：近藤信子さん

つくば市で音楽教室”とんとんやかた”主宰

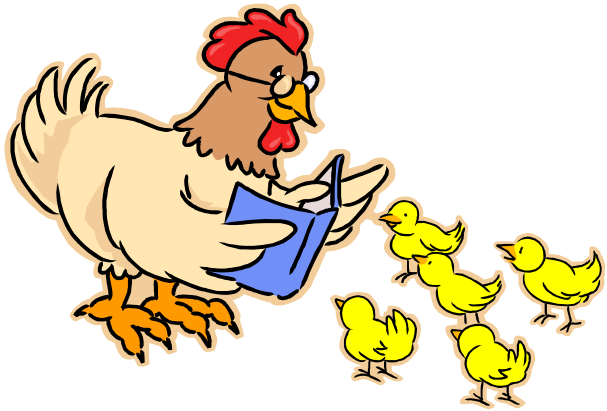
定員：100人（内、30人は講座②も参加できる人）
参加申込みは講座①、②、とも、11月17日（土）より島本町立図書館へ直接、または電話でお申込みください。

対象：乳幼児をもつ保護者、
乳幼児に関する活動を行っている方。
わらべうたに興味のある方。

保育：30人　満1歳以上就学前までの乳幼児対象。
申込み方法は上記と同じ。

講座②

赤ちゃんから絵本をたのしむ



平成20年

1月28日（月）午前10時～正午

島本町立図書館内

講師：新井せい子さん
（学校図書館を考える会・近畿）

講師：土居安子さん
（財団法人大阪国際児童文学館）

定員：30人
（講座①わらべうたであそぼっ！に参加できる方）
11月17日（土）より島本町立図書館へ直接、
または 電話でお申込みください。

対象：乳幼児に関する活動を行っている方、
赤ちゃん絵本に興味のある方。

保育：10人　満1歳以上就学前までの乳幼児対象。申込み方法は上記と同じ。

問合わせ・申込み：島本町立図書館　075－962－4364

主催　大阪府子ども読書活動推進連絡協議会・島本町教育委員会

活動報告　Ⅱ

「オーサービジット：小森香折さんをお迎えして」（豊中市立第八中学校）

日　時：平成 20（2008）年３月４日（火）　場　所：ホテルアウィーナ大阪
報告者：豊中第八中学校　糠野景子先生

謎の失踪！

ある人気作家が、書きかけの作品を残したまま謎の失踪をした……。そこで、アナタが作品の続きを書くことになった。さて、どんな作品に仕上げる？

…という設定のもと、中学１年生の生徒たちに、物語創作の楽しみを味わってもらうことにした。

いつもは「読む側」から本に接している子どもたちが、「作る側」に回る。さて、どんなアイディアを見せてくれるだろうか？

「黄色さん」って誰？～事前の取り組み

生徒たちの創作活動は、オーサービジット当日までに、国語の授業で行うことにした。
まず生徒に、「１月にオーサービジットがあります。」と告げると、歓声！しかし「でも、聞くだけではなく、君たちにやってもらうことがあるのです。」と告げるとブーイング。何やら難しいことをしなければならないのではないかと、不安顔の生徒たちだった。

創作は、パソコンルームで行った。まず、ワークシート（資料１）を提示した後、その「書きかけの作品」を配った（『ライバルは幽霊？』所収「ライバルは幽霊？」　小森香折他著　岩崎書店　2006 年 11 月）。当初は、生徒たちに黙読してもらう予定であったが、配った瞬間に「…長い。」というつぶやきが聞こえたので、教師が音読することにした。「じゃ、先生が読もっか？」と聞くと、にこっと笑って「うん。読んで読んで！」という生徒もいる。もちろん、**自力で黙読ができる生徒も多いのだが、「読んで聞かせる」ということを必要としている、または、それを楽しみに感じている生徒の姿**を見た。

一読の後、一瞬の沈黙。そして、「さあ、どうするっ！？」と言うと、一斉に「ぎや～！！」と声があがる。すぐにパソコンに向かう生徒はほとんどいない。腕組みをして考える生徒、友達と相談する生徒、そして、「先生。黄色さんって誰なん？」と質問してくる生徒。

普段の国語の授業では、「読解」という名のもと、生徒をある一定の方向へ導くことが多い。しかし、**今回の活動は「正解」を期待するものではない**。そのことは、小森さんとの事前打ち合わせの中でも話が出た。小森さんの「どんな話になっても構わないんです。ただ、その話が出版されて、原稿料も入って…

（笑）と、そのくらいの真剣さをもって取り組んでもらえれば。」という言葉を、生徒たちに伝えると、少し安心した顔になった。

とは言うものの、話の「続き」を考えるのだから、生徒たちは一生懸命に「書きかけの作品」に目を通す。

「黄色さんって、小岩井くんのお母さんちゃうん？」「え～、お母さん、出てきたやん。」「ほら、でも、『本当の』お母さん・・とか。」「そっか～。・・え、でも小岩井くんにそっくり、って書いてあるで。」などと、友達同士で言葉を交わしている。

あっという間にチャイムが鳴り、「先生、もう１時間！」「もう１時間！」の声に押され、結局、総時間としては、２回半ほどの時間をかけて制作した。授業時間以外にも、「黄色さん」の話題がしばしば聞かれたり、また家庭でもその話をしたのか「先生、お兄ちゃんが、オレも作りたい！って。」などと言ってきてくれた生徒もいた。昼休みや放課後にも作業をする熱心な生徒も出て、なんとか全員分の原稿を小森さんに送ることができた。

（土居安子さん、小松聡子さんをはじめ、国際児童文学館の皆様、また本校図書館司書の山戸先生には、大変お世話をおかけいたしました。）

「みんな死んでしまう話は、物語の一番古い形なんだよ」

～オーサービジット当日①

さて、いよいよオーサービジットの当日。図書館に集合した生徒たちの前に、小森さんが登場されると、「優しそう～」との声があがった。

まず、お話されたのは、**図書館にはたくさんの本があるけれど、どの本も読んでほしいって思っている**のではないかな・・ということ。そして、私の作品も読んでくれてありがとう、と生徒に感謝の気持ちを伝えられた。

そして、生徒の作品の紹介に入られた。まず、最初に選ばれたのは「みんな死んでしまう話」。

（生徒作品 A）
この日、小岩井君の誕生日だったので夜未央の家で誕生日パーティーをすることになった。
このパーティーに来た人は、小岩井君、華衣、倉持、西尾だった。そしてパーティーが始まった。
そのときだった・・・・未央はすごく嫌な予感がした。横を見てみると黄色い殺人鬼が立っていた・・・
そして黄色い殺人鬼は、未央の体に指一本触れた。そのとき未央は・・・死んだ・・・
黄色い殺人鬼は、次々と標的を決めパーティーに来ていた全員が死んだ・・・

「私は、こういう作品を絶対に書いてくる人がいるだろうと、予想していました。」と話され、そして「実は、**みんな死んでしまうというお話は、物語の一番古い形**なのです。」とグリム童話や、エドガー・アラン・ポーの「赤死病の仮面」のお話などをされた。

さらに、「こういう話を書く人は、実はナイーブな人が多いですね。」との言葉に、自分の作品が取り上げられた生徒は、少し照れながらも嬉しそうな表情。

それから、「でも、こういう話を作る人は、どんな話を作っても、結局全部死んじゃう話にしてしまいがちでもあります。それは、言わば『アイテム』を一つしか持っていないということであって、そういう意味では、もっとたくさんの『アイテム』を身につけてほしいな、と思います。」と話され、次の作品の紹介へ。

「良い霊」と「悪い霊」～オーサービジット当日②

次に「黄色さんが人間でない・・とすると、何か人間ではない『霊』だと考えた人が多かったのですが、**『良い霊』ととらえた人と『悪い霊』だととらえた人がいました**。」というお話に。

そして、「いよいよ『各賞』の発表です」とのことで、最初に「悪い霊」のお話として、紹介されたのは次の作品。

（生徒作品B）
・未央は心配になって放課後、倉持先輩に相談しに華衣と先輩の家に行く。
・先輩の家が神社で倉持先輩は僧だった。
・先輩に会って話をすると小岩井君をあの世に連れて行こうとする幽霊で今すぐに追い払う必要があると言う。
・話をした次の日に追い払うことがきまる。
・そして、次の日に未央と華衣と倉持先輩の３人で放課後小岩井君の後をつける。
・道端でまた黄色さんが現れる。
・今度は黄色い服でなく赤い服を着ている。
・倉持先輩がそれを見て時間がないという。
・小岩井君は黄色さんに操られて２人で人通りの少ない空き地に行く。
・とうとう黄色さんが「一緒にあの世に行こう」と誘って小岩井君がうなずく。
・そして、後をつけていた未央たちが陰から飛び出して、倉持先輩がお経を唱えて、黄色さんがうなりながら消えていく。
・そして、すべて解決してまた今までと同じ生活が始まる。

黄色い服が赤くなり、危険度が高まっている！というあたりの発想をほめられ、そして、小森さんからプレゼントが手渡された。（このプレゼントが一人ひとり違っていて、それも、生徒たちは楽しんでいた。）

良い霊の方の話を書いた人は、ストーリーをしっかり書けていた人が多かったとのことで、その中で選ばれたのが次の作品。

（生徒作品C）
未央は癌に侵されていて、もうすぐ死ぬから見えないはずのものが見えるのだ。
小岩井君のことを黄色さんは小さい頃命がけで守って死んだ犬。
実は未央とも関係があり、未央のおじちゃんの盲導犬だったのだ。
しかし年老いたので小岩井君の家に来た。
小岩井君がもうすぐ死にそうな目にあうだろうと知り死んだ犬（黄色さん）が小岩井を守りにきたのだ。
しかし、小岩井は、犬（黄色さん）のことが見えないので、未央を鍵に犬（黄色さん）からの気持ちが知らされる。
初めは信じていない小岩井だが、未央の必死さに少しずつ信じ始める。
が、未央の命も残り少ない。残り少ない中で、どれだけの事を伝えられるか、もう少しで小岩井が死にそうな目にあう日がやって来る。その日、時間を犬（黄色さん）から知らされた未央は頑張って小岩井に知らせようとしたが間に合わなかった。
そして小岩井はついにその日を迎えたが、その日小岩井は、未央の葬式に来ていた。

「良い霊」が、小岩井くんの家族であるという設定が多かったそうだ。
他にも、「悪い霊」が「良い霊」へと変化していく話を書いた生徒もいた。

すてきな名前～オーサービジット当日③

さて、今回のオーサービジットで、**小森さん自身が書いたような続きを書いてくる生徒はいないだろう**と考えていらっしゃったとのこと。もともと短編の話なので、布石がそんなに置かれていないからとのこと。

でも、そんな中で、原作に近かったのが次の作品だそうだ。

（生徒作品D）
未央は、黄色さんのことが気になって小岩井君に聞いてみたら「なんのこと？」と言っていた。
やっぱり小岩井君には見えていないようだ。
その日の帰りも小岩井君の事が気になった未央は秘密で小岩井君の後を追ってみた。
そしたらまた黄色さんが現れて小岩井君の横で歩いていた。
そのとき黄色さんは急に怖い顔をして小岩井君の手を引っ張って違う世界へ連れて行こうとしている。
小岩井君は何かに取りつかれたように黄色さんの後をついていく。
未央は一目散に小岩井君を助けようと手を引っ張った。
奇跡的に小岩井君は意識を取り戻し黄色さんから逃げられた。が黄色さんはまたいつ小岩井君を連れて行くかわからない。
小岩井君のことがすごく心配になった未央はこれまであったことをぜんぶ話し小岩井君はこのことを小岩井君のお母さんに言ってみた。・・その人は黄色の服を着ていたことも。
そしたら小岩井君のお母さんはびっくりした顔をした後そのことをすべて話してくれた。
その話を聞くと小岩井君は本当の子供ではなく本当はその黄色が大好きなお母さん（黄色さん）の子供だということ小岩井君とお母さんの顔が似てるのは、黄色さんとお母さんは双子だったと言うことも。
そのあと小岩井君と未央は神社におはらいに行き黄色さんは無事成仏しました。
その後小岩井君は自分のことを思ってくれる未央に告白し付き合いそして結婚し幸せに暮らしました。
もしかしたら黄色さんは小岩井君と未央をくっつけるための恋のキューピットだったのかも！？

その作品のタイトルは「黄色の糸」。

恋人同士をつなぐ運命の「赤い糸」にもじったところを褒められた。

本を書く際には、タイトルも大切であることを話される。せっかくのストーリーに「黄色さん」というタイトルをつけた生徒もいた。**読者が「読みたい」と思うようなタイトルをつけることも大切**、と。

また、登場人物の名前を設定するのにも苦心されている話をされた。「良い役の名前は、いいんですよね。悪い役の名前に、例えば、自分の名前が使われていたら、良い気はしませんよね。だから、友達の子どもの名前とかを使わないように気をつけています。」そして、「みなさん、すてきな名前が多いですね。また、お話を書く際に使わせてもらうことがあるかも。」とのお言葉に、自分の名前が使われた話をイメージして、夢をふくらませた生徒もいたようだった。

私が編集者だったら、ぜひお願いしたい。～オーサービジット当日④

次に、**発想をふくらませた**作品を紹介。

（生徒作品Ｅ）
実は、この物語を書いている人物〔第三者　雪乃〕がいる。
雪乃は今、小学六年生で、将来の夢は作家。雪乃は、作家の練習をしようと、自分を主人公とした、物語を書いた。
はじめ、雪乃は、自分〔自分の分身、未央〕が黄色さんをつかって、大活躍する物語を書こうと思ったのだが、なんだかしっくりこない。
なぜかというと、雪乃自身、黄色さんの正体が分からないのだ。
雪乃は、考えたあげく、文章の最後にこう書き加えた。
この物語は、終わりそうにないので、大人なったときこれを完成させたいと、思います。
どうかよろしければ、黄色さんのしょうたいを、教えてもらえれば、と、思います。
そして、雪乃は、この話を書くのをやめ、この物語も幕をとじた。

そして、いよいよグランプリの発表。**「私が編集者だったら、ぜひお願いしたいですね。」**
との光栄なお言葉。

（生徒作品Ｆ）
未央は黄色さんが誰か知ろうとするうちに家にあった写真の人に似ている気がする。
そして家の押入れで発見する。（昔、家でかくれんぼしていたときに見つけた。）
次の日、学校に持っていって小岩井君に見せる。
小岩井の家にもあるということが発覚。
おかしく思い、二人はそれぞれの両親に聞くがどちらも生返事。
そこで二人で小岩井君のお母さんに聞きに行く。
すると小岩井君のお母さんはひどく驚き、観念したようにため息をつく。
そして未央を家に入れ、本当の事を話し出す。
〝本当のこと〟とは写真(黄色さん)の人は母親で二人は２卵生双生児＝（似ていない）双子で、しかも、母親は元々体が弱かったため２人を産んだ時に死んでしまい、父親は母親が産気づいた時に急ぎすぎて交通事故にあい亡くなってしまった。
そのため、小岩井君は母親の姉(現在の小岩井君の母親)にもらわれ、未央は父親の姉にもらわれた。
黄色さんは駆け落ちしたため２人の家は仲が悪くそれから会うことがなかった。
その本当のことを知った２人はショックを受ける。
しかしそれから２人は今まで通りに生きてほしいといわれ、そのまま生きようとするが小岩井君が病気でもう助からないということが発覚。
未央は黄色さんの服が黄色なのはこのことを伝えたかったということを悟った。
小岩井君の最後の願いで２人は兄弟として小岩井君が死ぬまで仲良く過ごす。
１ヵ月後、小岩井君はなくなり、黄色さんも居なくなる。
しかし未央は２人のことを忘れず一生懸命生きる。
そして未央が二十歳になった日に２人が祝福するように頬を撫でた。

すべての発表が終わった後、「では、私の作品を読みたいと思います。」と、本を出された。

タイトルは『ライバルは幽霊？』。小森さん自身による、すてきな音読に聞き入る子どもたち。ユニークな場面では、笑いが起こる。

そして、読み終わった後、「…すごい～、さすが！」

と声が漏れ、拍手が自然と起こった。

（……さて、結局、どんな続きだったの？と思われる方は、岩崎書店発行『初恋コレクション⑦～ライバルは幽霊？』を読んでみてくださいね。）

オーサービジットの後で…

オーサービジットの後、読書に関するアンケートを実施した。（資料２）

また、国際児童文学館の方から頂いたブックリストを、ミニ冊子の形にして皆で読んだ。

また、生徒から「先生、オレ、自分の作品、ほしい。」という声や「友達みんなの作品を読みたい。」という声があがり、後日全員分をプリント配布した。オーサービジットから、一ヶ月近くたっていたにもかかわらず、「黄色さん」「黄色さん」と親しみをこめて、読んでいた生徒たちであった。

今回の活動を通じて、**一方向に縛られることのない「本」の世界の魅力**を、新たに発見できたように感じた。

↑小森さんの著書コーナー

↑図書館司書の山戸先生が作られたウェルカムボード

年　　組　　番　　名前（　　）

資料１

別紙の作品は、ある人気作家が書きかけのまま、謎の失踪をしてしまい、締め切りが近付いている作品です。作家は全体の構想について、何の手がかりも残していません。

この作品は他の作家も参加したミステリー短編集に収められるため、どうしても１週間以内には仕上げなければなりません。そこで、あなたにこの続きを書いてもらうことになりました。読者の対象年齢は小学校高学年～中学生です。作品を仕上げるために、まずは構想段階で編集者のオーケーをもらいたいと思います。

次のことを考えてください。

１．黄色さんの正体は？

２．この後、ストーリーはどうなる？　（箇条書きで書いてください。）

３．続きの最初の１文だけ書いてみましょう。

４．タイトルをつけてください。

小森　香折さんのワークショップを体験してのアンケート結果（69人分）

	1組（35）	2組（34）	合計
1　性別			
① 女	17	18	35
② 男	18	16	34

2　小森　香折さんのワークショップを体験するまでの読書活動についてお聞きします。

(1) どのくらい本を読んでいましたか

① 毎日	7	7	14
② 週に2～3回程度	8	7	15
③ 週に1回程度	5	8	13
④ ほとんど読まない	15	12	27

(2) 1回に本を読む時間はどのくらいでしたか。

① 0～29分程度	6	8	14
② 30～59分程度	11	8	19
③ 1時間～2時間未満	13	15	28
④ 2時間～3時間未満	2	3	5
⑤ 3時間以上	3	0	3

(3) おもに本を読む場所はどこでしたか。

① 学校の教室	2	3	5
② 学校の図書館	1	7	8
③ 公立の図書館	2	0	2
④ 自宅	34	33	67
⑤ その他	2	0	2

3　今回の小森　香折さんのワークショップについてお聞きします

(1) どのようなところがおもしろかったなど、感想を自由に書いてください。

・小森さんに直接授業をしてもらってよい体験になった
・小森さんの一言一言に感動した
・すごく楽しかった
・ものを書くという事についてよく分かり良かった
・もう少し話を聞きたかった
・自分で小説の続きが書けたところが良かった
・自分の考えていることが自由に書けて良かった
・言葉の表現が面白くうまかった
・はっきり言葉を言っていて聞き取りやすかった
・あんな続きが書けるなんてすごいと思った
・途中まで同じ物語でも考える人によって違うストーリーができるのが面白く、物語の奥深さがわかった
・少し読書しようと思った
・全員が死ぬというストーリーがいちばん古いということなど、知らなかったことが知れて良かった
・文のまとめ方が上手だった
・全体的にあまり面白くなかった
・「ライバルは幽霊！？」の中に私と同じ名前の人が出てきて驚いた
・プレゼントが面白かった
・小森さんはすごくいい話をいっぱい書いていると思う
・創作して物語を書くということは難しいものだと思った
・楽しかったけれどオーサービジットまでの活動は少しめんどくさかった
・本を作るときのポイントとか教えてくれて面白かった
・同じ本に関してみんなで話し合うのが面白かった
・黄色さんの正体が最後にわかってすっきりして良かった
・クラスの中に個性豊かな子が沢山いることがわかって面白かった

(2) ワークショップを体験して、読書に興味を持ちましたか。

① とても興味を持った	11	7	18
② 少し興味を持った	15	21	36
③ あまり持たなかった	3	4	7
④ 全然思わなかった	3	1	4
	回答なし3	回答なし1	4

活動報告　Ⅲ
「ワークショップ：へんてこ森へいこうよ」（万博公園　自然観察学習館）

日　時：平成 20（2008）年３月４日（火）　場　所：ホテルアウィーナ大阪

報告者：財団法人　大阪国際児童文学館　土居安子

＜ワークショップの概要＞

１．日時　2007 年 11 月 23 日（金・祝）13 時 30 分～15 時 30 分
２．場所　自然観察学習館
３．主催：大阪府子ども読書活動推進連絡協議会（事務局：財団法人大阪国際児童文学館）
　　共催：独立行政法人日本万国博覧会記念機構
４．目的　万博記念公園の森で自然にふれ、その豊かさを学びながら、それらを題材にして「へんてこ森でのできごと」という設定の中で物語世界を表現し楽しむ。
５．講師　自然観察学習館職員
６．対象・定員：小学生 30 人
７．具体的な内容
　　13 時 15 分　受付開始
　　13 時 30 分　森の中への散策開始：説明書とビニール袋を配布し、森の中のものを拾う
　　13 時 50 分　自然観察学習館に集合
　　自然観察学習館職員から万博の森やそこから採集できるものについてのお話
　　14 時 05 分　おはなし作りを楽しむ（担当：児童文学館）
　　14 時 15 分　作品作り
　　15 時 10 分　発表
　　15 時 25 分　自然観察学習館館長・職員の講評、児童文学館の職員からの本の紹介（ブックリストの配布）、アンケート
　　15 時 30 分　終了

８．その他　　制作した作品は自然観察学習館および国際児童文学館に展示後、返却

＊　ワークショップの具体的内容については資料１をご参照ください。

資料１

11月23日(金・祝)「へんてこ森へいこうよ」

とても よく はれた あきの 日、みんなで 万博公園にある 自然観察学習館に 集合しました。

それから、万博公園の 森の中を たんけん。ビニールぶくろを もって、おもしろい いろや かたちをした はっぱや どんぐり、木のえだなどを あつめました。

自然観察学習館の 中に はいって、豊田館長に ごあいさつを していただき、それから、指導員の 上谷さんに 万博の森のことや そこにある いろいろな 名前や 形の 植物のことについて うかがいました。しょうかい してくださった 中には、「てんぐの うちわ」という 大きな 葉っぱもありました。

つぎに みんなは 「へ」「て」「こ」のつく ことばを 考えたり、「すきなどうぶつ」を かんがえたり しました。そして、「へんてこ森」の おはなしが はじまりました。

あるとき、一人の 子どもが いつも いく 公園に 行くと、そこには、「へんてこ森」という かんばんが たっていました。
中へ入ってみると、
森の中の木には、「へび」が たくさん なっていました。
どんどん 森の中に はいっていくと、こんどは、「へレンちゃん人形」が たくさん ぶらさがっている 木を みつけました。
それでも 森の中に はいっていくと、こんどは、「へや」が たくさん なっている 木を みつけました。
その子が「へんな木」というと、
とつぜん、空から 「てんぐ」が ふってきました。
「たすけてー」と いって どんどん はしっていくと、またまた 「てんぐ」が ふってきました。
「たすけて〜」といいながら、おおいそぎで 森の おくへと はしって行くと、
頭が 「うさぎ」で 足が 「へび」という どうぶつに 出会いました。それから、
頭が 「レッサーパンダ」で 足が 「うさぎ」、頭が 「ライオン」で、足が「いぬ」という動物にも 出会いました。
それでも どんどん 森の おくへ はいっていくと、さっき であった 動物たちが、「ここを ほるように」と いったので、ほってみると、大きな ふるい はこがでてきて、そのはこを あけてみると 「こども」と 「こま」 「こっぷ」が でてきました。その子が その中から ひとつを 手にとったとたん、へんてこ森は きえてしまって ぽつんと いつも いく 公園の 中に 立っていました。

そこで、こんどは がようしや 色がようしに むかって 「へんてこ森」の ようすを あらわしました。 さいしょに ひろったものに 自然観察学習館で 用意してくださった 木のみ などを あわせて、「へんてこ森」の おはなしを コラージュに しました。

森の 入り口、木に へんなものが ぶらさがったところ、てんぐが おちてきたところ、がったいした どうぶつに であったところ、さいごの はこの 中など いろいろな 絵ができあがりました。

12月１日(土)〜８日（土）まで こども室で 展示しています。

活動報告　Ⅳ

「講座：絵本を読むー１０代の子どもたちとともにー」

日　時：平成20（2008）年３月４日（火）　場　所：ホテルアウィーナ大阪

報告者：財団法人　大阪国際児童文学館　土居安子

「講座：絵本を読むー１０代の子どもたちとともにー」（資料１）では、以下のことを行った。

１．ワークショップ「公共図書館のヤングアダルトサービスの現状と課題」

受講者がグループで以下の質問について話し合い、１０代の集団の子どもに対してボランティアとして図書館と連携しながらどのような読書活動が可能か、その現状や問題点について考えた。

① 小学校・高学年、中学校でおはなし会を行って、よかったなと思ったこと、うまくいかなかったなと思ったことはどんなことですか。
② 小学校高学年、中学校でおはなし会を行う必要があると思いますか。もし、あるとすればそれはなぜですか。必要がないという意見があるとすればそれはなぜだと思われますか。
③ 小学校高学年の児童、及び中学校の生徒はそれより幼い子どもとどんな点が異なりますか。本やおはなしに関わる活動をするときどんな点に留意する必要があると思いますか。
④ 絵本やおはなしを選ぶときに特にどんな点に留意して選びますか。
⑤ 活動にあたって、学校および学校図書館とはどのように連絡をとっていますか。
⑥ 活動にあたって、公共図書館とはいかに連携していますか。

２．講義「１０代の子どもたちとともにおはなし・絵本を共有するーおはなしと絵本を届けて１５年、活動から見えてきたものー」（講師：森崎シヅ子）　　資料２を参照

３．ワークショップ「絵本を選ぶ：１０代の子どもたちと読むために」

受講者に１冊ずつ１０代の集団の子どもに読むのにふさわしいと思われる絵本を持参してもらい、グループで紹介しあった。

４．まとめ「１０代の子どもたちの読書活動支援に向けて」

思春期に入る子どもたちに向けて絵本やおはなしを語るためには充分な研修が必要である。また、読書活動支援には、図書館の支援や学校図書館の充実など、ボランティア活動以外にも多くの活動が必要であることが確認された。しかしながら、適切な絵本やおはなしが届けられることによって、読書の楽しさを伝えることができることも話し合われ、今後も集まる機会を持って情報交換を続けていくことが望ましいとの意見が受講者から述べられた。

資料１　平成 19 年度

講座：絵本を読む
－10 代の子どもたちとともに－

☆ 小学校高学年や中学生に絵本やおはなしを届ける活動をされている方（府内在住又は在勤の方）を対象に、おはなし会の意義・企画方法・絵本の選び方、地域での活動のあり方について講義・ワークショップを行います。お互いの経験や情報を交換し、ともに学びましょう。

時間	プログラム内容
10:30～12:00	ワークショップ 「公共図書館のヤングアダルトサービスの現状と課題」
12:00～13:00	休　　憩
13:00～14:30	講　義 「10 代の子どもたちとともにおはなし・絵本を共有する」 ―おはなしと絵本を届けて１５年、活動から見えてきたもの― 講師：森崎シヅ子（熊取文庫連絡協議会代表）
14:30～15:30	ワークショップ 「絵本を選ぶ：10 代の子どもたちと読むために」
15:30～16:00	まとめ 「10 代の子どもたちの読書活動支援に向けて」

※ 日程・および会場

９月 25 日（火）10 時 30 分～16 時　大阪府立国際児童文学館セミナー室

（大阪モノレール「公園東口」駅下車　西 700 メートル）

10 月２日（火）　10 時 30 分～16 時　大阪市立中央図書館５階　会議室

（大阪市営地下鉄千日前線「西長堀」駅下車　すぐ）

＊両日とも同じ内容です。どちらかにご参加ください。

※定員・参加費：**各回１５人（のべ３０人）・無　料**

※申込方法：お名前、ご住所、電話番号、FAX 番号、メールアドレス（あれば）、これまでの小学校高学年および中学生に対する活動経験をお書きの上、**往復はがき**でお申込みください。（申込先：〒565-0826　吹田市千里万博公園 10-6（財）大阪国際児童文学館「講座：絵本を読む」係　問い合わせ先：06－6876－8800）

※申込締切：9 月 10 日（月）必着

＊応募者多数の場合は抽選といたします。＊全日参加できる方を対象といたします。

＊障害のある方は事前にご連絡ください。

主　催：大阪府教育委員会・財団法人 大阪国際児童文学館

共　催：大阪府子ども読書活動推進連絡協議会

（大阪市教育委員会　大阪府立中央図書館　大阪市立中央図書館　大阪府教育センター　大阪市教育センター　大阪公共図書館協会　大阪府学校図書館協議会　大阪市学校図書館協議会　学校図書館を考える会・近畿　大阪府子ども文庫連絡会　和泉市立和泉図書館　河内長野市立図書館　大阪府教育委員会　財団法人大阪国際児童文学館）

資料２

「10 代の子どもたちとともにおはなし・絵本を共有する」
―おはなしと絵本を届けて１５年、活動から見えてきたもの－

９月 25 日（火）10 時 30 分～16 時　大阪府立国際児童文学館セミナー室
10 月２日（火）　10 時 30 分～16 時　大阪市立中央図書館５階　会議室
：森崎シヅ子（熊取文庫連絡協議会代表）

１）熊取での「おはなしキャラバン」１０代の子どもたちとの読書環境づくり

・熊取の読書環境｛子ども読書活動推進計画より｝　位置づけ

・１９９３年から、子どもたちの居場所へ、１５年の積み重ね　積み重ね

・環境づくりの背景として、熊取町と教育委員会の支援・後援　背　景

２）おはなしボランティア活動の事例報告　実　践

・　・プログラム　（１０代の子どもたちに出来ること）

おはなし（ストーリーテリング）か本の紹介（絵本を読むこと）か

・　・選書

・　継続の必要性

・子どもの育ちに中での地域での人間関係の意味

３）留意点　留意点

・　いきなり１０代？　子どもの現状を知ることの難しさ

・　学校との関係・図書館の支援と連携

・　大人の相互理解からうまれる、子どもとの信頼関係

４）　ボランティアと専門職（学校司書・教職員）との棲み分け　ボランティア

５）　課題　（だれが・なにを・どうするのか）

小学校高学年・中学生に向けてのおはなし会実践記録

＊書誌事項は基本的に各グループから提出していただいたものをそのまま掲載しています。
「場所」の項目：「学図」＝学校図書館、「ジャンル」の項目：「BT」＝ブックトーク
「タイトルの項目：『　』は図書名、雑誌名、「　」は作品名。

市	学年	場所	時間	プログラム内容					気づいたこと・感想
				テーマ	ジャンル	タイトル	著者	出版社	
寝屋川	小5他	中央図書館	30分		おはなし	「おばあさんとブタ」『愛蔵版おはなしのろうそく4』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	・図書館に来ている子どもを集めてするお話会。 ・今回は来てくれた子と内容が一致して充実した内容になった。
					おはなし	「ヤギとライオン」『子どもに聞かせる世界の民話』	矢崎源九郎/編	実業之日本社	
					おはなし	「フォックス氏」 イギリスの昔話			
和泉	小5	学図	45分		おはなし	「ならなしとり」			
					おはなし	「ねことねずみ」			
					手遊び	大阪にはうまいもんがいっぱいあるんやで			
					絵本	『あれこれたまご』	とりやまみゆき/作　中野滋/絵	福音館書店	
					絵本	『つきよのかいじゅう』	長新太/作	佼正出版社	
					パネルシアター	「わたし」			
					絵本	『光の旅　かげの旅』	アン・ジョナス/作	評論社	
和泉	小5	学図	40分		絵本	『ZOOM』	イシュトバン・バンニャイ/作	ブッキング	
					絵本	『王さまと九人のきょうだい』	君島久子/作	岩波書店	
					絵本	『めぐろのさんま』	川端誠/作	クレヨンハウス	
					パネルシアター	「わたし」			
					絵本	『光の旅　かげの旅』	アン・ジョナス/作	評論社	
大阪	小5	教室	45分	環境	おはなし	「スワファムの行商人」 イギリスの昔話			・ブックトークに慣れていない上に、テーマが重かったが、良く聞いてくれた。 ・もっと経験を積んで上手くなりたいと思った。
					絵本	『はつてんじん』	川端誠/作	クレヨンハウス	
					BT：読物	『みみずのカーロ』	今泉みね子/著	合同出版	
					BT：読物	『小学生の「地球環境」大疑問100』	環境goo/編	講談社	
					BT：読物	『森林はなぜ必要か』	只木良也/著	小峰書店	
					BT：絵本	『フリズル先生のマジックスクールバス水のたび』	ジョアンナ・コール/文	岩波書店	
					BT:読物	『ふしぎな目をした男の子』	佐藤さとる/作	講談社	
大阪	小5	教室	45分		おはなし	「かさじぞう」	瀬田貞二/再話	福音館書店	・『もっちゃう・・・』以外は静かな淡々とした絵本だったので、子どもたちは少し物足りなかった様子。 ・中ほどで手遊び「よかったねネッドくん」をしたが、それが一番人気だった。
					絵本	『まどをあけたあとで・・・』	ウィルヘルム・シュローテ/作	ほるぷ出版	
					絵本	『アンナの赤いオーバー』	ジーフェルト/文　A・ローベル/絵	評論社	
					絵本	『木』	佐藤忠良/画　木島始/文	福音館書店	
					絵本	『もっちゃう　もっちゃう　もうもっちゃう』	土屋富士夫/作	徳間書店	
大阪	小5	教室	45分	目（ブックスタート）	おはなし	「一ニ（ほい）とうげ」（同名絵本より）	森はな/作　梶山俊夫/絵	PHP研究所	・ブックトーク以外はお話が一話だけだったので、絵本をもう1冊入れたほうがよかった。 ・お話が14分位だったので、もう少し短くてもよかった。
					BT：絵本	『あかりをけして』	アーサーガイサート/作	BL出版	
					BT：絵本	『視覚ミステリーえほん』	ウォルター・ウィック/作	あすなろ書房	
					BT：読物	『ふしぎな目をした男の子』	佐藤さとる/作	講談社	
					BT：読物	『わたしのちゃめウサギをさがして』	岡田貴久子/作	リブロポート	
大阪	小5	教室	45分	勇気・愛	絵本	『うごいちゃだめ』	エリカ・エルヴァマン/文	アスラン書房	・皆、最後まで食い入るように聞いてくれ、このプログラムをまるごと楽しんでくれた気がする。 ＊おはなしは『子どもに語るグリムの昔話』より
					おはなし	「ブレーメンの音楽隊」	ヤーコプ・グリム/著	こぐま社	
					詩	「まっすぐについて」			
					おはなし	「ラプンツェル」『子どもに語るグリムの昔話』	ヤーコプ・グリム/著	こぐま社	
					紹介：絵本	『ブレーメンのおんがくたい』	グリム原作	福音館書店	
					紹介：絵本	『ラプンツェル』	グリム原作	BL出版	
柏原	小5	学図	45分	希望	BT：読物	『赤毛のアン』	モンゴメリー/作　村岡花子/訳	講談社	・阪神大震災日が前日だった事もあり、児童たちは経験していないけれど当市でも恐ろしい揺れだったこなどもふまえ、困難な時も希望を失わずに人々に（友人に）支えられながら生きていく、そんなストーリーに、読み聞かせ終了後、紹介した本を手に取り、休み時間一杯読んでくれる児童が数人いた。共鳴する所が一緒だったりで、時間が許せば読書会にしたいと思った。
					BT：読物	『バッテリー』（Ⅰ～Ⅴ）	あさのあつこ/作	教育画劇	
					絵本	『ぼくと弟はあるきつづける』	小林豊/作	岩波書店	
					絵本	『リボンのかたちのふゆのせいざオリオン』	八板康麿/写真と文	福音館書店	
					絵本	『ねずみとくじら』	スタイグ/作　瀬田貞二/訳	評論社	
河内長野	小5	多目的室	30分		絵本	『月人石』	乾千恵/書	福音館書店	・静かに聞き入るように楽しんでいた。 ・「ふるやのもり」の言葉の意味が分からなかった。 ・「くぎスープ」は、話の展開を予想して楽しめていた. ・『光の旅・・』は、おまけの絵本として高学年にピッタリ。
					詩	「おならうた」	谷川俊太郎/作		
					おはなし	「ふるやのもり」『おはなしのろうそく4』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	
					おはなし	「くぎスープ」『世界のむかし話』	瀬田貞二/訳	学習研究社	
					絵本	『光の旅　かげの旅』	アン・ジョナス/作	評論社	
河内長野	小5	教室	30分		絵本	『きっときってかってきて』	ことばあそびの会/作	さ・え・ら書房	・『きっときって・・』は、スケッチブックに言葉を書いて皆で声を出し、楽しんでいた。
					おはなし	「象のふろおけ」			
					おはなし	「おどっておどってぼろぼろになったくつ」			
河内長野	小5	教室	30分		絵本	『かあさんのいす』	ベラ・B・ウィリアムズ/作	あかね書房	・『かあさんのいす』は現実的な話で、共感しやすかった様子。
					おはなし	「七わのからす」			
					おはなし	「ルンペルシュティルツヘン」			
河内長野	小5	教室	30分		おはなし	「貧乏神」			・『えぞまつ』は、命のつながりを感じさせる内容で、季節にもぴったり。 ・心に残ったとの感想多。
					おはなし	「ねずみ経」			
					おはなし	「ホレおばさん」			
					絵本	『えぞまつ』	神沢利子/文　吉田勝彦/絵	福音館書店	
河内長野	小5	教室	35分		絵本	『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』	長谷川義史/作	BL出版	
					おはなし	「七わのからす」			
					おはなし	「北斗七星」			
					おはなし	「牛になったなまけ者」			

河内長野	小5	多目的室	40分		絵本	『あるのかな』	織田道代/作	鈴木出版	・笑いあり、怖いものありのバランスのとれたプログラム。 ・「エパミナンダス」は、犬のあたりで笑い出し、最後のパイの部分もしっかり理解していた。 ・「ゆうかんな・・」は、怖がるだけでなく、達成感も感じとっているよう。
					おはなし	「田の久」『子どもに語る日本の昔話1』	稲田和子/著	こぐま社	
					手遊び	しゃくとりむしさん （詩・まどみちお）			
					おはなし	「ゆうかんな靴直し」	剣持弘子/訳・再話	こぐま社	
河内長野	小5	学図	35分		おはなし	「おいしいおかゆ」『おはなしのろうそく1』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	・子どもたちの真剣な眼差しが、語り手に心地よい緊張感を与えてくれた。 ・司書の先生より、5年生がこんなによく聞くなんてビックリしたとの感想あり。 ＊おはなしは 『子どもに語るイタリアの昔話』より
					おはなし	「ゆうかんな靴直し」	剣持弘子/訳・再話	こぐま社	
					手遊び	しゃくとりむしさん （詩・まどみちお）			
					おはなし	「こぶとり」『子どもに聞かせる日本の民話』	大川悦生/著	実業之日本社	
					絵本	『魔法の夜』	アルブレヒト・リスラー/絵	講談社	
河内長野	小5	多目的室	35分		パネルシアター	「これはジャックのたてたいえ」（マザーグースより）			・バラエティのあるプログラムで長さもよかったが、話のつながりを見つけるのに苦労した。
					おはなし	『ランパンパン』（同名絵本より）	マギー・ダフ/再話	評論社	
					手遊び	しゃくとりむしさん （詩・まどみちお）			
					おはなし	「うたうされこうべ」『読んであげたいおはなし下』	松谷みよ子/著	筑摩書房	
岸和田	小5	教室	45分	食べ物いろいろ～	おはなし	「マメ子と魔物」			
					BT:絵本	『ラージャのカレー』	国松エリカ/作・絵	偕成社	
					BT:絵本	『きつねのホィティ』	シビル・ウェッタシンハ/作	福音館書店	
					紹介:読物	『手で食べる？』	森枝卓士/文	福音館書店	
					紹介:読物	『料理少年Kタロー』	令丈ヒロ子/作	講談社	
					紹介:読物	『若おかみは小学生』	令丈ヒロ子/作	講談社	
					紹介:絵本	『お料理マジック2』	村上祥子/監修	教育画劇	
					紹介:読物	『チョコレート工場の秘密』	ロアルド・ダール/作	評論社	
					紹介:読物	『その猫がきた日から』	アラン・アルバーグ/作	講談社	
岸和田	小5	教室	45分	不思議いっぱいは虫類	おはなし	「ジャッカルとわに」『子どもに語るアジアの昔話』	松岡享子/訳	こぐま社	
					絵本	『わにわにのごちそう』	小風さち/作	福音館書店	
					紹介:絵本	『わにわにのおおけが』	小風さち/作	福音館書店	
					紹介:絵本	『わにわにのおでかけ』	小風さち/作	福音館書店	
					BT:読物	『とかげにリップクリーム？』	トリーナ・ウイーブ/作	ポプラ社	
					BT:絵本	『パンサーカメレオン』	ジョイ・カウリー/作	ほるぷ出版	
					BT:絵本	『ふしぎいっぱい擬態する動物』	サンデイ・ソウラー/作	ブックローン出版	
					BT:絵本	『ふしぎいっぱい毒をもつ動物』	アレクサンドラ/作	ブックローン出版	
					BT:読物	『ふしぎいっぱいは虫類』	メアリー・リング/作	ブックローン出版	
					BT:読物	『おさるのまいにち』	いとうひろし/作	偕成社	
					BT:読物	『ジェニファーと不思議なカエル』	ブルース・コウヴィル/作	講談社	
					BT:読物	『ぶらぶらばあさん』	馬渕公介/作	小学館	
岸和田	小5	教室	45分	冬こそおもしろい？！	おはなし	「ホレおばさん」『子どもに語るグリムの昔話』	ヤーコブ・グリム/著	こぐま社	よく本を読んでいるクラスだったので、三分の一くらいの子が『ナルニア国物語』を知っていた。地球儀に似た小物を使って、南極・北極を確認し、植村氏の本紹介では、山地名の確認もし、一方的なブックトークではなく、子どもたちともやり取りしながら進めた。氷の張るような寒い日だったので、一層寒さを感じてもらえたのでは？と思うが、温暖化影響で、雪に出会えないのが残念。
					BT:絵本	『ハリネズミと金貨』	V・オルロフ/原作	偕成社	
					BT:絵本	『ふぶきのあとに』	小泉るみ子/作	ポプラ社	
					BT:読物	『ナルニア国物語ライオンと魔女』	C・Sルイス/作	岩波書店	
					BT:読物	『植村直巳地球冒険62万キロ』	岡本文良/作	金の星社	
					BT:絵本	『南極コレクション』	武田剛/作	フレーベル館	
					BT:読物	『サボテン島のペンギン会議』	川端裕人/作	アリス館	
					BT:絵本	『雪の一生』	片平孝/作	あかね書房	
					BT:絵本	『雪の写真家ベントレー』	J・Bマーティン/作	BL出版	
岸和田	小5	教室	45分	ちょっとおとなりのぞいてみたら・・・	おはなし	「小石投げの名人タオ・カム」	松岡享子/訳	こぐま社	今回の読物は、家にこだわって、富安陽子さんの本ばかりにしたが、昔ながらの日本の家、お城のような洋館風の家、町中ごく普通の団地のような家ということで、不思議いっぱいでよく聞いてくれた。 ＊おはなしは『子どもに語るアジアの昔話2』より
					絵本	『かきねのむこうはアフリカ』	ベルト・ムイヤールト/作	ほるぷ出版	
					紹介:絵本	『世界あちこちゆかいな家めぐり』（たくさんのふしぎ）	小松義夫/文・写真	福音館書店	
					絵本	『イグルーをつくる』	ウーリー・ステルツアー/作	あすなろ書房	
					紹介:読物	『ぽっこ』	富安陽子/作	偕成社	
					紹介:読物	『幽霊屋敷貸します』	富安陽子/作	新日本出版社	
					紹介:読物	『シノダ！チビ竜と魔法の実』	富安陽子/作	偕成社	
					絵本	『ざぼんじいさんのかきのき』	すとうあさえ/文	岩崎書店	
岸和田	小5	教室	45分	あしたうちにねこがくるの	おはなし	「三枚の鳥の羽」『子どもに語るグリムの昔話5』	ヤーコブ・グリム/著	こぐま社	『ネコの大常識』から出したクイズを楽しんでくれた。
					おはなし	「ひなどりとネコ」『子どもに聞かせる世界の民話』	矢崎源九郎/編	実業之日本社	
					BT:絵本	『あしたうちにねこがくるの』	石津ちひろ/文	講談社	
					BT:絵本	『くろねこのかぞく』	ピョートル・ウィルコン/著	セーラー出版	
					BT:読物	『ネコの本』	カー・ウータン博士/監修	講談社	
					BT:読物	『ネコの大常識』	服部幸/監修	ポプラ社	
					BT:読物	『イヌの大常識』	中島眞理/監修	ポプラ社	
					BT:読物	『子ネコはかんごふさん』	竹田津実/作	国土社	
					BT:絵本	『おりこうねこ』	ピーター・コリントン/作	徳間書店	
					BT:読物	『ブンダバー』	くぼしまりお/作	ポプラ社	
					BT:読物	『闇夜の百目』	斉藤洋/作	あかね書房	
					BT:読物	『その猫がきた日から』	アラン・アルバーグ/作	講談社	
狭山	小5	教室	45分		おはなし	「雌牛のブーゴラ」		東京こども図書館	・おはなしは2つともよく聞いてくれた。 ・『ちいさな池』はもう少し人数の少ないクラスの方がよかったかなと思った。
					おはなし	「世界でいちばんやかましい音」		東京こども図書館	
					絵本	『ちいさな池』	新宮晋/作	福音館書店	
					絵本	『たのきゅう』	川端誠/作	クレヨンハウス	
					絵本	『まんぷくでぇす』	長谷川義史/作	PHP研究所	
					絵本	『視覚ミステリーえほん』	ウォルター・ウィック/作	あすなろ書房	
狭山	小5	教室	45分		おはなし	「世界でいちばんやかましい音」『おはなしのろうそく』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	・クラスの雰囲気がよく、おはなしにも皆すっと入ってきてくれて、一体感のあるお話し会だった。 ・『おじいちゃんの・・』は時代背景のおもしろさを楽しんでくれたようで、高学年だなと思った。
					絵本	『ふしぎなやどや』	長谷川摂子/再話　井上洋介/絵	福音館書店	
					絵本	『ののでのでで』	五味太郎/作	絵本館	
					絵本	『オオカミのひみつ』	きむらゆういち/作　田島征三/絵	偕成社	
					絵本	『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』	長谷川義史/作	BL出版	
狭山	小5	教室	45分		おはなし	「北風をたずねていった男の子」『こどもに語る北欧の昔話』	福井信子/編訳	こぐま社	・お話も絵本も、最後までとても集中して聞いてくれた。 ・『うんちっち』は幼児にとてもうける絵本だが、5年生の子どもたちでも、とても楽しそうに聞いていた。
					おはなし	「犬と猫とうろこ玉」『おはなしのろうそく15』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	
					絵本	『ウェン王子とトラ』	チェン・ジャンホン/作	徳間書店	
					絵本	『うんちっち』	ステファニー・ブレイク/作	PHP研究所	
					絵本	『ヘリオさんとふしぎななべ』	市居みか/作	アリス館	

狭山	小5	教室	45分		おはなし	「エパミナンダス」	ブライアント/作	東京こども図書館	楽しめるところでは笑い、真剣なところでは入りこみ、盛り上がりのあるクラスの雰囲気だった。
					絵本	『アリガトウ　さようなら』	高部晴市/作・絵	福音館書店	
					おはなし	「死神の名付け親」	グリム/作　佐々梨代子/再話	こぐま社	
					絵本	『まさかさかさまキッズ』	伊藤文人/作・絵	新風社	
					絵本	『かさどろぼう』	シビル・ウェッタシンハ/作・絵	徳間書店	
					絵本	『よるくまくるよ』	石津ちひろ/作	BL出版	
泉南	小5	教室	45分		詩	『ことばあそびえほん』	石津ちひろ/作	のら書房	・ことばあそびは、子どもたちがよくついてきてくれた ・「おんちょろちょろ」は年齢が上の方が楽しんでいるのが分かる ・『おとうとは青がすき』は外国に関心をもつのにいい。 ＊おはなしを聞くのを楽しみにしていた。どのおはなしも楽しく、おもしろかった。次は世界の昔話やこわい話も聞いてみたい。
					おはなし	「ヂシュマンとドゥースト」			
					おはなし	「おんちょろちょろ」			
					絵本	『おとうとは青がすき』	イフェオマ・オニェフル/作・写真	偕成社	
					紹介：本	23冊			
泉南	小5	教室	45分		絵本	『どうぶつのもんだい』	あべ弘士/作・絵	学研	・『どうぶつのもんだい』は大変興味をもって参加していた。 ・どの本も、おはなしも興味をもって聞いていた
					おはなし	「あかりの花」			
					おはなし	「てんまのとらやん」			
					絵本	『いちご』	新宮晋/作	文化出版局	
					絵本	『わたしのモンスターかんさつにっき』	ジャン・カー/文	ほるぷ出版	
					紹介：本	22冊			
泉南	小5	教室	45分		絵本	『魔法のことば』	柚木沙弥郎/絵	福音館書店	・集中が続き、よく聞く。 ・『いろはかるた奉行』の現代版のおもしろさがよくわかった様子。 ・子どもたちの心をくすぐる本が多かった。 ・置き本を、表紙が見えるよう工夫して並べると、休み時間もなにげなく手にとって読んでいる。
					おはなし	「ルンペルシュティルツヘン」			
					おはなし	「へやのおこり」			
					絵本	『いろはのかるた奉行』	長谷川義史/作・絵	講談社	
					絵本	『ぼくのチョパンドス』	小林豊/絵・文	光村教育図書	
					紹介：本	23冊			
泉南	小5	教室	45分		絵本	『ことわざのえほん』	西本鶏介/編・文	鈴木出版	・子どもたちも、ことわざをよく知っていてコミュニケーションがとれた。 ・おはなしは共によく聞いた。 ・おもしろい本だけでなく、好奇心をくすぐる本もあってよかった。 ・きつねやたぬきが主人公のおはなしで、受け入れやすかったように思う。
					おはなし	「きつねにょうぼう」			
					おはなし	「田の久」			
					絵本	『メアリー・スミス』	アンドレア・ユーレン/作	光村教育図書	
					絵本	『もぐらのバイオリン』	デイビッド・マクフェイル/作・絵	ポプラ社	
					紹介：本	20冊			
富田林	小5	教室	45分	秋の自然	詩	「山みちのうた」『少年少女詩集』		弥生書房	・身近な自然、よく見るひがんばなは、面白いことがいっぱいあることを知り、本をみに、後で図書館へと声があがる。 ・ひがんばなの根が飢饉の非常食だったことから二話を語る。
					絵本	『ひがんばな』	甲斐信枝/作	福音館書店	
					絵本	『ひがんばなのひみつ』	かこさとし/作	小峰書店	
					おはなし	「うば捨て山」『子どもに語る日本の昔話2』	稲田和子/著	こぐま社	
					おはなし	「よくばりアナンシ」『世界むかし話 16』	掛川　恭子/訳	ほるぷ出版	
					絵本	『いわしくん』	菅原たくや/作	文化出版局	
富田林	小5	教室	45分		絵本	『このよでいちばんはやいのは』	ロバート・フローマン/作 あべ弘士/絵	福音館書店	・『このよで・・・』の題名を聞くなり、「チーターやで」と反応してくれた。そしてチーターよりも早いのがまだまだあると分かり、皆興味津々で見入っていた。 ・『王さまと・・・』は「次ぎは〇〇が行くことになりました」と言うと、「やっぱり！」と、とてもうれしそうな表情で、子どもたちも先生も心から楽しんでくれていた。 ・担任の先生が一緒に楽しんでくれているクラスは、子どもたちも素直に反応してくれる様に思う。
					絵本	『王さまと九人のきょうだい』	君島久子/訳　赤羽末吉/絵	岩波書店	
					おはなし	「かぼちゃの種」『ネギをうえた人』	金素雲/編	岩波書店	
富田林	小5	教室	45分		絵本	『いしになったかりゅうど』	大塚勇三/再話　赤羽末吉/画	福音館書店	・『みるなのくら』は大勢の子どもに見せるには、少し絵が見にくい。 ・『ことばあそびうた』を入れたが、声に出すのがてれくさい様子。 ・おはなし「金のうで」は、最後のところの怖さが伝わらなかったようで残念だった。
					絵本	『みるなのくら』	おざわとしお/再話　赤羽末吉/画	福音館書店	
					詩	「かっぱ」「うそつききつつき」『ことばあそびうた』	谷川俊太郎/作	福音館書店	
					おはなし	「金のうで」『おはなしのろうそく22』	東京子ども図書館/編		
					おはなし	「わかっている人は、わからない人に」 『子どもに語るトルコの昔話』	児島満子/編・訳	こぐま社	
富田林	小5	教室	45分	時	絵本	『おばあちゃんの時計』	G・マッコーリーン/文	評論社	
					絵本	『このよでいちばんはやいのは』	ロバート・フローマン/作	福音館書店	
					おはなし	「トム・ティット・トット」			
					詩	「きりなしうた」			
寝屋川	小5	教室	45分		おはなし	「ヨリンデとヨリンゲル」			
					おはなし	「七人さきのおやじさま」『世界のむかしばなし』	瀬田貞二/訳	のら書店	
					絵本	『ちいさいおうち』	バージニア・リー・バートン/作	岩波書店	
					絵本	『こいぬがうまれるよ』	ジョアンナ・コール/文	福音館書店	
寝屋川	小5	教室	45分		おはなし	「田の久」『子どもに語る日本の昔話1』	稲田和子/著	こぐま社	・よく聞いてくれた
					おはなし	「三つのオレンジ」『子どもに語るイタリアの昔話』	剣持弘子/訳・再話	こぐま社	
					絵本	『よあけ』	ユリー・シュルヴィッツ/作	福音館書店	
					絵本	『けんかのきもち』	柴田愛子/作	ポプラ社	
					絵本	『わたし』	谷川俊太郎/文　長新太/絵	福音館書店	
能勢	小5	学図	30分		絵本	『このよでいちばんはやいのは』	ロバート・フローマン/作	福音館書店	
					絵本	『くちばしのおれたコウノトリ』	金晃/作　あらたつとむ/絵	素人社	
					詩	「雑草の歌」	鶴岡千代子/作		
羽曳野	小5	教室	40分		詩	「あした」			
					おはなし	『やまなしもぎ』（同名絵本より）	平野直/再話	福音館書店	
					詩	「つき」			
					おはなし	「トム・ティット・トット」 『イギリスとアイルランドのむかしばなし』	石井桃子/編・訳	福音館書店	
					絵本	『魔法のことば』	柚木沙弥郎/絵	福音館書店	
					紹介：出典の本	5冊			
羽曳野	小5	教室	40分		詩	「今日はきのうの続きだけれど」『元気がでる詩5年生』	みつはしちかこ/作	理論社	
					おはなし	『山の上の火』（同名絵本より）	ハロルド・クーランダー/文	岩波書店	
					おはなし	「へっぷりよめさま」『日本の昔話1』	松谷みよ子/著	講談社	
					絵本	『ブライディさんのシャベル』	レスリー・コナー/文	BL出版	
					紹介：出典の本	4冊			

羽曳野	小5	教室	40分		詩	「ゆきがふる」	いしづちひろ/作		
					おはなし	「おどっておどってぼろぼろになったくつ」『子どもに語るグリムの昔話1』	ヤーコプ・グリム/著	こぐま社	
					おはなし	「だいりょこう」『とうさんおはなしして』	アーノルド・ローベル/作	文化出版局	
					絵本	『100万回生きたねこ』	佐野洋子/作	講談社	
					紹介:絵本	『おれはねこだぜ』	佐野洋子/作	講談社	
					紹介:絵本	『おじさんのかさ』	佐野洋子/作	講談社	
					紹介:絵本	『おぼえていろよおおきなき』	佐野洋子/作	講談社	
					紹介:絵本	『ヘンゼルとグレーテル』	グリム/作		
					紹介:絵本	『おおかみと7ひきのこやぎ』	グリム/作		
					紹介:絵本	『あかずきん』	グリム/作		
					紹介:絵本	『おどる12にんのおひめさま』	矢川澄子/訳	ほるぷ出版	
羽曳野	小5	教室	20分	戦争・平和	絵本	『せかいいちうつくしいぼくの村』	小林豊/作	ポプラ社	・小林豊の三部作には、興味をもって聞いてくれたように思う。 ・平和学習等もしているので、このテーマを選んだ。
					BT:絵本	『アフガニスタン勇気と笑顔』	内堀たけし/写真・文	国土社	
					BT:絵本	『ぼくの村にサーカスが来た』	小林豊/作	ポプラ社	
					BT:絵本	『せかいいちうつくしい村へかえる』	小林豊/作	ポプラ社	
羽曳野	小5	教室	20分	木	絵本	『こかげにごろり』	金森襄作/再話	福音館書店	・ブックトークの読物は、子供向けではないので、紹介することに対して適切かどうか、判断が難しかった。 ・『地球遺産・・』のバオバブの写真は大きく(A3サイズ)、とても興味を示してくれた。
					絵本	『もりおとこのしごと』	あきやまただし/作	講談社	
					BT:絵本	『いのちの木』	バーバラバッシュ/作	岩波書店	
					BT:読物	『地球遺産最後の巨樹』	吉田繁/作	講談社	
					BT:読物	『森の母バオバブの危機』	湯浅浩史/作	NHK出版	
					BT:絵本	『木を植えた男』	ジャレジオノ/作	ほるぷ出版	
羽曳野	小5	教室	20分	新年いぬ年	絵本	『セルコ』	ワレチン・ゴルディチューク/絵	福音館書店	・『セルコ』は、最後まで子どもたちの気持ちがそれなかった。 ・『松』は、新たな発見が得られた様子。
					紹介:絵本	『日本の風景松』	ゆのきようこ/文　阿部伸二/絵	理論社	
羽曳野	小5	教室	20分	民話	絵本	『うるわしのセモリナ・セモリナス』	ジゼル・ポター/絵	BL出版	・15分弱かかる絵本で、しんどく感じているのでは？と思った。 ・語りで聞くほうが、よりイメージがふくらむ話なのかな？とも思った。
羽曳野	小5	教室	20分	個性	絵本	『あたまにつまった石ころが』	キャロル・オーティス・ハースト/文	光村教育図書	・紹介した本で、石のカレンダーのところが、皆興味をもった様子。 ・『たいせつなこと』は、子どもたちが新鮮に受け止めてくれているようだった。
					紹介:絵本	『石のたんじょうび』	スティーブン・ギル/文・写真	福音館書店	
					紹介:絵本	『たいせつなこと』	マーガレット・ワイズ・ブラウン/作	フレーベル館	
阪南	小5	教室	45分		おはなし	「バナナのじこしょうかい」			
					おはなし	「うちの中のウシ」『愛蔵版おはなしのろうそく3』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	
					おはなし	「へやの起こり」『かもとりごんべえ』	稲田和子/編	岩波書店	
					絵本	『ふしぎなナイフ』	中村牧江/著	福音館書店	
					絵本	『まさ夢いちじく』	クリス・ヴァン・オールズバーグ/著	河出書房新社	
					紹介:本	『ありがたいこっです』他、10冊			
阪南	小5	教室	45分		おはなし	「バナナのじこしょうかい			
					おはなし	「うちの中のウシ」『愛蔵版おはなしのろうそく3』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	
					おはなし	「へやの起こり」『かもとりごんべえ』	稲田和子/編	岩波書店	
					絵本	『ふしぎなナイフ』	中村牧江/著	福音館書店	
					絵本	『まさ夢いちじく』	クリス・ヴァン・オールズバーグ/著	河出書房新社	
					紹介:本	『王さまの竹うま』他、9冊			
阪南	小5	学図	45分		絵本	『千の風になって』	新井満/著	理論社	・熱心に聞く子と、興味のない子に分かれている様子。 ・とびだす絵本には皆、興味を示していた。
					絵本	『ケチルさんのぼうけん』	たかどのほうこ/著	フレーベル館	
					絵本	『むしむしクリスマスの12にち』	デビットA・カーター/作	大日本絵画	
阪南	小5	学図	45分		絵本	『たったひとりの戦い』	アナイス・ヴォージュラード/作・絵	徳間書店	・最初集中力のあるうちに、長いお話を読んだので、静かに聞いてくれた。 ・『おじいちゃんの・・・』は、大うけだった。
					絵本	『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』	長谷川義史/作	BL出版	
阪南	小5	学図	45分	友だち	絵本	『ソリちゃんのチュソク』	イ・オクベ/著・絵	セーラー出版	・韓国の講演会のサムルノリについての説明に読んだ。
					絵本	『ともだち、なんだもん！』	ジャネル・キャノン/作	ブックローン出版	
阪南	小5	学図	40分		絵本	『たったひとりの戦い』	アナイス・ヴォージュラード/作・絵	徳間書店	・笑いもあり、静かに聞いてくれた。 ・『おしゃぶり・・』は、絵に興味をもってもらえた様子。 ・2冊目終了後、指遊びを入れたので、すんなり入ってくれた様子
					絵本	『おしゃぶりがおまもり』	ウーリー・オルレブ/著	講談社	
					絵本	『飛行士フレディ・レグランド』	ジョン・エイジー/著	セーラー出版	
阪南	小5	学図	45分		絵本	『たったひとりの戦い』	アナイス・ヴォージュラード/作・絵	徳間書店	・『たった一人・・』では、途中笑いがおこり少し戸惑ったが、全体的に静かに集中していた。 ・『世界・・』では、後半、先が読めたからか、少しざわついた。低学年でもつかえるかな？ ・単純に子どもが「楽しかった」「おもしろかった」と思える本が、一番良いのかなと感じた。
					絵本	『世界でいちばんやかましい音』	ベンジャミン・エルキン/作	こぐま社	
					絵本	『風来坊危機一髪』	川端誠/著	ブックローン出版	
阪南	小5	学図	45分		絵本	『RAVEN－光をもたらしたカラス』	ジェラルド・マクダーモット/再話・絵	童話館	・読む時間が個人によって異なり、予定時間がオーバー。選書の重要性を感じた。 ・『のんびり・・』では、作者の言葉を目を閉じて聞いた時間がよかった。
					絵本	『のんびりオウムガイとせっかちアンモナイト』	三輪一雄/著	偕成社	
					絵本	『金のさかな』	A・プーシキン/作	偕成社	
阪南	小5	学図	15分	犬も人間も同じ大切な命	絵本	『ばっちゃん』	井上夕香/著	小学館	・ペットショップで売られる仔犬の親たちの悲惨な状況を知ってもらえた。 ・『3びき・・』は、ブタは弱くオオカミは強いという固定観念をとりはずすのに良いと感じた。
					絵本	『3びきのかわいいオオカミ』	ユージーン・トリビザス/文	冨山房	
阪南	小5	教室	45分	ハロウィン	おはなし	「まじょのてんきよほう」			・ハロウィンを中心に、秋の読み物を選書。 ・おはなしは魔女に絞って2つ語る。
					おはなし	「三枚のおふだ」			
					おはなし	「クルミわりのケイト」『愛蔵版おはなしのろうそく5』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	
					絵本	『よかったねネッドくん』	レミー・チャーリップ/著	偕成社	
					紹介:本	『新魔女図鑑』他、9冊			

藤井寺	小5	教室	45分		絵本	『いろいろいろんな日』	ドクター・スース/作	BL出版	・年に一度のお話会ということもあり、楽しみにしてくれているのが伝わった。 ＊おはなしは『子どもに語るグリムの昔話』より
					おはなし	「うまかたやまんば」『うまかたやまんば』	おざわとしお/再話	福音館書店	
					詩	「あいたくて」			
					おはなし	「おどっておどってぽろぽろになったくつ」	ヤーコプ・グリム/著	こぐま社	
					絵本	『はっぱじゃないよぼくがいる』	姉崎一馬/文・写真	アリス館	
藤井寺	小5	教室	45分		詩	「いっしょに」			・毎学期、お話会があるので、聞く姿勢がとても良い。 ・おはなしは『子どもに語るグリムの昔話1』より
					絵本	『はる・なつ・あき・ふゆ』	ドゥブラフカ・コラノヴィッチ/作	評論社	
					おはなし	「鳥のみじい」『日本昔話百選』	稲田浩二/著	三省堂	
					おはなし	「熊の皮を着た男」	ヤーコプ・グリム/著	こぐま社	
藤井寺	小5	教室	45分		絵本	『もこもこもこ』	谷川俊太郎/文	文研出版	・しっかり聞いてくれた。
					おはなし	「ねずみ浄土」『子どもに語る日本の昔話』	稲田和子/著	こぐま社	
					詩	「どきん」			
					おはなし	「ヴァイノと白鳥ひめ」『愛蔵版おはなしのろうそく』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	
藤井寺	小5	教室	45分		絵本	『いろいろいろんな日』	ドクター・スース/作	BL出版	・長いお話もよく聞いてくれた。 ・毎学期、お話会があるので、充実したプログラムが組める。 ＊おはなしは『子どもに語るアイルランドの昔話』より
					おはなし	「妖精の丘が燃えている」	渡辺洋子/編・訳	こぐま社	
					詩	「ほしとたんぽぽ」	金子みすず/作		
					おはなし	「山の上の火」（同名絵本より）	ハロルド・クーランダー/文	岩波書店	
藤井寺	小5	交流室	45分	科学の本もおもしろいよ	絵本	『ぼくのいまいるところ』	かこさとし/著	童心社	・おもしろかった、という感想多。 ・興味をもって聞いてくれた。
					紹介：本	別紙1			
藤井寺	小5	交流室	45分	おはなしで世界をまわろう	紹介：本	別紙2			・グリムの昔話に興味をもった感想多。
					おはなし	「ラプンツェル」			
藤井寺	小5	交流室	45分	絆	詩	『ともだちは緑のにおい』	工藤直子/作	理論社	・『いのちのまつり』は、先生方が喜んでくださった。
					紹介：本	別紙3			
藤井寺	小5	交流室	45分	声に出して読んでみよう	詩	『マザーグースのうた』	谷川俊太郎/訳	草思社	・音読が楽しかった、という感想多。 ・詩が好きになり、グループにわかれて、それぞれ工夫して読むクラスもあり。
					詩	『のはらうた』	工藤直子/作	童話屋	
					詩	『てんぷらぴりぴり』	まどみちお/作	大日本図書	
					詩	『ことばあそびうた』	谷川俊太郎/詩	福音館書店	
					詩	『大阪ことばあそびうた』	島田陽子/著	編集工房ノア	
					朗読	『黒ものがたり』	椋鳩十/作	あすなろ書房	
					紹介：本	別紙4			
箕面	小5	音楽室	90分	注文の多い料理店	詩	『雲の信号』	宮沢賢治/詩	偕成社	・地図、年表を使って賢治の人物紹介をし、理解をはかった。
					歌	「星めぐりの歌」			
					朗読	『注文の多い料理店』（序文）	宮沢賢治/作		
					朗読劇	『注文の多い料理店』	宮沢賢治/作		
富田林	小5・6	教室	45分	いのち	絵本	『青葉の笛』	あまんきみこ/文	ポプラ社	・子どもたちは、このプログラムをまっすぐに受け取ってくれた。
					絵本	『寿限無』	斎藤孝/文	ほるぷ出版	
					おはなし	「茂吉のねこ」			
					詩	「えらいこっちゃ」			
能勢	小5・6	学・図	40分		朗読	「金銭と悩み」『ショートショート7未来人の家』	星新一/作	理論社	
					絵本	『もこもこもこ』	谷川俊太郎/文	文研出版	
					絵本	『八郎』	斎藤隆介/作	福音館書店	
					詩	「雑草の歌」	鶴岡千代子/作		
能勢	小5・6	学・図	40分		絵本	『ライオンのしごと』	竹田津実/作	偕成社	
					絵本	『あほらしの川だいこ』	岸武雄/文	ポプラ社	
					詩	「雑草の歌」	鶴岡千代子/作		
能勢	小5・6	学・図	45分		絵本	『ワシとミソサザイ』	ジューン・グドール/再話	さ・え・ら書房	
					朗読	「金銭と悩み」『ショートショート7未来人の家』	星新一/作	理論社	
					絵本	『このよでいちばんはやいのは』	ロバート・フローマン/作	福音館書店	
					詩	「雑草の歌」	鶴岡千代子/作		
能勢	小5・6	学・図	45分		絵本	『アニーとおばあちゃん』	ミスカ・マイルズ/文	あすなろ書房	
					絵本	『茂吉のねこ』	松谷みよ子/文	ポプラ社	
					絵本	『ボルカ』	ジョン・バーニンガム/作	ほるぷ出版	
					詩	「山みちのうた」	宮沢章二/作		
能勢	小5・6	学・図	45分		絵本	『ほうすけのひよこ』	谷川俊太郎/文	銀河社	
					朗読	「一房のぶどう」	有島武郎		
					詩	「山みちのうた」	宮沢章二/作		
能勢	5・	学図	45分		朗読	「メジロのとまり木」『坂をのぼれば』	皿海達哉/作	PHP研究所	
					詩	「山みちのうた」	宮沢章二/作		
能勢	小5・6	学図	45分		絵本	『おとうさんの庭』	ポール・フライシュマン/文	岩波書店	
					絵本	『ゆきのプレゼント』	ベアトリス・シェンク・ド・レーニエ/文	童話屋	
					絵本	『ナヌークの贈り物』	星野道夫/作	小学館	
					詩	「山みちのうた」	宮沢章二/作		
枚方	小6他	学図	100分	春	絵本	『やさいのおなか』	きうちかつ/作	福音館書店	・普段のお話会は、30分～45分なので、100分という枠は、休憩をはさんでも長かった。
					手遊び	「ひとつとひとつはどんなおと」			
					おはなし	「ミアッカどん」『イギリスとアイルランドの昔話』	石井桃子/編・訳	福音館書店	
					絵本	『せんたくかあちゃん』（大型絵本）	さとうわきこ/作・絵	福音館書店	
					ペープサート	「わたしのワンピース」（同名絵本より）	にしまきかやこ/作・絵	こぐま社	
					絵本	『ぽちぽちいこか』	マイク・セイラー/作	偕成社	
					工作	「つくってあそぼう、わらぶきやねのいえ」			
和泉	小6	学図	45分		おはなし	「ならなしとり」			
					おはなし	「エパミナンダス」			
					絵本	『エドワルド』	ジョン・バーニンガム/作	ほるぷ出版	
					絵本	『いちばんつよいのはオレだ』	マリオ・ラモ/作	平凡社	
					絵本	『おおかみペコペコ』	宮西達也/作	学研	
					絵本	『しゃっくりがいこつ』	マージェリー・カイラー/作	セーラー出版	
和泉	小6	学図	30分		おはなし	「十二の月のおくりもの」			
					絵本	『ぼくをさがしに』	シェル・シルヴァスタイン/作	講談社	
					絵本	『ぜつぼうの濁点』	原田宗典/作	教育画劇	
					絵本	『たいせつなこと』	マーガレット・ワイズ・ブラウン/作	フレーベル館	

和泉	小6	学図	45分		おはなし	「ならなしとり」			
					おはなし	「エパミナンダス」			
					おはなし	「ねことねずみ」			
					絵本	『つきよのかいじゅう』	長新太/作	佼正出版社	
					絵本	『おおかみペコペコ』	宮西達也/作	学研	
					絵本	『しゃっくりがいこつ』	マージェリー・カイラー/作	セーラー出版	
茨木	小6	教室	20分		おはなし	「美しいワシリーサとババヤガー」『おはなしのろうそく』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	・子どもたちと物語の世界を共有できた20分だった。
茨木	小6	教室	20分		おはなし	「北風に会いにいった少年」『おはなしのろうそく』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	・子どもはおはなしが好きなのだと実感した。
					絵本	『どんなきぶん？』	サクストン・フライマン/作	福音館書店	
大阪	小6	教室	不明		絵本	『おとなってじぶんでぱっかりハンドルをにぎってる』	ウィリアム・スタイグ/作	セーラー出版	・高学年こそ、大人への反発を痛快に。
					絵本	『おとなをつかまえよう』	イブ・スバン・オルセン/作	文化出版局	
					絵本	『ときにはひとりもいいきぶん』	ハイディ・ゴーネル/作	パルコ出版	
					絵本	『うまれてきた子ども』	佐野洋子/作	ポプラ社	
					絵本	『ひろしまのピカ』	丸木とし/作	小峰書店	
大阪	小6	多目的室	45分	自分とこころ通わせるひとたち	絵本	『ちびゴリラのちびちび』	ルース・ボーンスタイン/作	ほるぷ出版	・自分を見つめ、自己肯定感をもち、友達と自分のありかたということも考えて欲しかった。 ・心通わせるのは、人間でけではなく、ほかの生き物とだってあることや、魂がひとつになって飛んでいってしまうという、哀しいストーリーも味わってほしかった。
					読物	『赤ちゃんの誕生』	ニコル・テイラー/文	あすなろ書房	
					絵本	『ストライプ』	デヴィット・シャノン/文・絵	セーラー出版	
					絵本	『あ』	大槻あかね/作	福音館書店	
					絵本	『ウィリーとともだち』	アンソニー・ブラウン/作	童話館	
					絵本	『サシバ舞う空』	石垣幸代/文	福音館書店	
大阪	小6	教室	45分	じぶん	絵本	『ウィリーとともだち』	アンソニー・ブラウン/作	童話館	
					絵本	『ちびゴリラのちびちび』	ルース・ボーンスタイン/作	ほるぷ出版	
					読物	『赤ちゃんの誕生』	ニコル・テイラー/文	あすなろ書房	
					絵本	『あ』	大槻あかね/作	福音館書店	
					詩	『たいようのおなら』	灰谷健次郎/編	のら書店	
					詩	『しゃべる詩あそぶ詩きこえる詩』	はせみつこ/編	冨山房	
					絵本	『サシバ舞う空』	秋野亥左牟/絵	福音館書店	
					絵本	『ねぎぼうずのあさたろうその1』	飯野和好/作	福音館書店	
大阪	小6	教室	45分	手紙	おはなし	「しまひきおに」			・もう一冊もう一歩興味を示して読める本を入れたらよかった。 ・導入で、実物の手紙を使ったのがよかったと思う。
					絵本	『拝啓・手紙です』	天野祐吉/文	福音館書店	
					BT:絵本	『魔女からの手紙』	角野栄子/作	ポプラ社	
					BT:読物	『ぼくはアフリカにすむキリンといいます』	岩佐めぐみ/作	偕成社	
					BT:読物	『トトの勇気』	アンナ・カヴァルダ/作	鈴木出版	
大阪	小6	教室	不明	夢	おはなし	「ごろはち大名神」			・子どもたちは、どの本も興味をもち「いいとこで終わる一」の声。（ブックトーク）
					絵本	『あたまの中』	高橋悠治/文	福音館書店	
					BT:絵本	『まさ夢いちじく』	オールズバーグ/著	河出書房新社	
					BT:読物	『ぼくが絵本作家になったわけ』	ビル・ピート/作	講談社	
					BT:絵本	『いちょうやしきの三郎猫』	成田雅子/作・絵	講談社	
					BT:読物	『一歳から百歳の夢』	日本ドリーム/編	いろは出版	
大阪	小6	教室	45分		詩	『のはらうた2』	工藤直子/作	童話屋	・『じごくの・・』は、どちらのクラスにも人気。 ・残り時間でしたおはなしも熱心に聞いてくれ、プログラムに入れたらよかった。
					絵本	『じごくのそうべえ』	田島征彦/作	童心社	
					絵本	『ゆきだるまはよるがすき』	キャラリン・ビーナー/文	評論社	
					絵本	『かれくさつみ』	あきやまじゅんこ/作	福音館書店	
					絵本	『テレビくんにきをつけて』	五味太郎/作	偕成社	
大阪	小6	教室	45分	友だち	おはなし	「ごろはち大名神」			・子どもの反応が少なかったので、もっとおもしろいものを入れる工夫が必要。
					BT:絵本	『ともだち』	谷川俊太郎/文	玉川大学出版部	
					BT:読物	『がんばれ！キッカーズ』	ながいのりあき/著	小学館	
					BT:読物	『アディオスぼくの友だち』	上条さなえ/作	学研	
					BT:絵本	『よいしょ』	工藤直子/作	小学館	
					BT:絵本	『コンビニたそがれ堂』	村山早紀/作	ポプラ社	
					BT:読物	『ぼくらは知床探検隊』	関屋敏隆/文	岩崎書店	
					BT:絵本	『おじろわしのうみ』	手島圭三郎/作	リブリオ出版	
大阪	小6	教室	45分		おはなし	「スワファムの行商人」『イギリスとアイルランドの昔話』	石井桃子/編・訳	福音館書店	・バランスの良いプログラムだった。 ・それぞれの本に興味をもってくれ、楽しんでもらえた。
					絵本	『クマよ』	星野道夫/文・写真	福音館書店	
					絵本	『うさぎのさいばん』	キムセシル/文	少年写真新聞社	
					絵本	『つきよのかいじゅう』	長新太/作	佼正出版社	
					絵本	『ねぎぼうずのあさたろう』	飯野和好/作	福音館書店	
河内長野	小6	多目的室	40分		おはなし	「長い名前」	山下祥子/再話		・六年間最後にふさわしいものをと思って考えたプログラム。 ・山形弁のおはなしや内面的に語りかけるものなど、少し難しい内容であったが、充実した時が過ごせた。
					おはなし	「屁たれお夏」『寒河江市幸生・白岩のわらべ唄』	羽陽短大むかし話わらべ唄研究会/編		
					おはなし	「白い石のカヌー」『アメリカのむかし話』	渡辺茂男/編・訳	偕成社	
					紹介:本				
					詩	「としょかんへいこう」	谷川俊太郎/作		
河内長野	小6	教室	30分		絵本	『じんべえざめ』	新宮晋/作	扶桑社	・『じんべえざめ』は、導入として、遠目もきき、興味をひく。
					おはなし	「スヌークスさん一家」			
					おはなし	「あくびが出るほどおもしろい話」			
					おはなし	「うたうされこうべ」			
河内長野	小6	教室	30分		絵本	『イグルーをつくる』	ウーリ・ステルツァー/写真・文	あすなろ書房	・『イグル・・・』は、地味で、最初のページの文章が長いのが気になったが、少人数クラスだったのでOK。
					おはなし	「天福地福」			
					おはなし	「小さなこげた顔」『アメリカのむかし話』	渡辺茂男/編・訳	偕成社	
河内長野	小6	教室	35分		おはなし	「ホレおばさん」			・絵本は、重いおはなしの後なので、カラッと楽しいものを選んだ。
					おはなし	「いぬとにわとり」			
					おはなし	「ゆうかんな靴直し」			
					絵本	『じごくのそうべえ』	田島征彦/作	童心社	
河内長野	小6	教室	40分		絵本	『三びきのこぶたのほんとうのお話』	ジョン・シェスカ/文	岩波書店	・この絵本をパロディと認識するのが難しかった様子。 ・「これが本当の話だと分かった」との感想多。
					おはなし	「ホレおばさん」			
					おはなし	「北斗七星」			
					おはなし	「山の上の火」			
河内長野	小6	多目的室	30分		絵本	『じんべえざめ』	新宮晋/著	扶桑社	・『じんべえざめ』は、遠くから見ると立体的で迫力あり。高学年向き。 ・「だんまりくらべ」は、声に出して笑わないが、笑うところはよく理解している。
					おはなし	「だんまりくらべ」『子どもに語るトルコの昔話』	児島満子/編・訳	こぐま社	
					おはなし	「金の腕」『おはなしのろうそく22』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	
					手遊び	弁慶さん			
					おはなし	「小さなこげた顔」『アメリカのむかし話』	渡辺茂男/編・訳	偕成社	

河内長野	小6	多目的室	40分		おはなし	「屁たれお夏」『寒河江市幸生・白岩のわらべ唄』	羽陽短大むかし話わらべ唄研究会/編		・受験シーズンとも重なり、ソワソワ感があるのか、始まりから話に入ろうとしない子らが5分の1程度いた。 ・手遊びだけは、どのクラスも一生懸命参加していた。
					手遊び	しゃくとりむしさん （詩・まどみちお）			
					おはなし	「うば捨て山」『日本の昔話2』	おざわとしお/再話	福音館書店	
					紹介：本				
岸和田	小6	教室	45分	あんな仕事・こんな仕事	おはなし	「小石投げの名人タオ・カム」			・もうなくなってしまった仕事、以前はなかったような仕事、子ども達の身近にない仕事などを紹介しつつ、将来何になりたいかを問う。
					絵本	『メアリー・スミス』	アンドレア・ユーレン/作	光村教育図書	
					紹介：読物	『宇宙をみたよ！』	宙野素子/文	偕成社	
					絵本	『よるのびょういん』	谷川俊太郎/作	福音館書店	
					紹介：読物	『動物園のかん者たち』	中川志郎/監修	農文協	
					紹介：読物	『ムジナ探偵局』	富安陽子/作	童心社	
					紹介：読物	『歯みがきつくって億万長者』	ジーン・メリル/作	偕成社	
					紹介：読物	『アツイゼ！消防官』	くさばよしみ/作	フレーベル館	
					紹介：読物	『ただいまお仕事中』	おちとよこ/文	福音館書店	
岸和田	小6	教室	45分	中をそうぞうしてみよ	おはなし	「たからのげた」『ききみみずきん』	岩崎京子/作	ポプラ社	・クラスが男子・女子で別れてしまっている様な雰囲気で、大人のやっている事を斜めに見ている感じがあったが、絵本を通してのやりとりや、ローソクの火をけしたりする事には参加してくれた。 ・ただ、手ごたえの分かりにくい配達に終わり、プログラムの立て方にも反省あり。
					BT：絵本	『言葉図鑑8かくれたことば』	五味太郎/作	偕成社	
					BT：読物	『ムジナ探偵局』	富安陽子/作	童心社	
					BT：読物	『ぬすまれた宝物』	ウィリアム・スタイグ/作	評論社	
					BT：読物	『みつばち』	丘修三/作	くもん出版	
					BT：読物	『穴』	ルイス・サッカー/作	講談社	
					BT：絵本	『中をそうぞうしてみよ』	佐藤雅彦/作	福音館書店	
					おはなし	「ひゃくにんのおとうさん」（同名絵本より）	譚小勇/文	福音館書店	
					絵本	『ふしぎなやどや』	はせがわせつこ/作	福音館書店	
岸和田	小6	教室	45分	あれこれたまご	おはなし	「ホレおばさん」			・「面白そう」「読んでみたい」の反応あり。 ・『ぷよぷよ・・』は、珍しそうだった。
					絵本	『おおきなおとしもの』	H・C・アンデルセン/原作	ほるぷ出版	
					BT：絵本	『かぜひきたまご』	舟橋克彦/文	講談社	
					BT：絵本	『あれこれたまご』	とりやまみゆき/作	福音館書店	
					BT：読物	『ぷよぷよたまごをつくろう』	左巻健男/作	汐文社	
					BT：読物	『小学生のキッチンでかんたん実験60』	著者なし	学研	
					BT：絵本	『たまごのはなし』	ダイアナ・アストン/文	ほるぷ出版	
					BT：絵本	『たまごにいちゃん』	あきやまただし/作・絵	鈴木出版	
					BT：絵本	『たまごねえちゃん』	あきやまただし/作・絵	鈴木出版	
					BT：絵本	『チキンサンデー』	パトリシア・ポラッコ/作	アスラン書房	
					BT：読物	『しあわせのゆでたまご』	上条さなえ/作	ポプラ社	
					BT：読物	『魔法使いの卵』	ダイアナ・ヘンドリー/作	徳間書店	
					BT：読物	『ジェレミーとドラゴンの卵』	ブルース・コウヴィル/作	講談社	
					BT：読物	『ジェニファーと不思議なカエル』	ブルース・コウヴィル/作	講談社	
					BT：絵本	『ピリカ、おかあさんへの旅』	越智典子/作	福音館書店	
岸和田	小6	教室	45分	色いろいろ、いろんな本	おはなし	「小石投げの名人タオ・カム」	松岡享子/訳	こぐま社	・集中して聞いてくれたが、六年生に届ける絵本としては、短いものになってしまった。 ＊おはなしは『子どもに語るアジアの昔話2』より
					紹介：絵本	『WHAT COLOR？（このいろなあに？）』	駒形克己/作	偕成社	
					絵本	『いろいろいろんな日』	ドクター・スース/作	BL出版	
					絵本	『あお』	ポリー・ダンパー/作	フレーベル館	
					絵本	『じぶんだけのいろ』	レオ・レオニ/作	好学社	
					紹介：読物	『土のコレクション』	栗田宏一/作	フレーベル館	
					紹介：読物	『ペンキや』	梨木香歩/作	理論社	
					紹介：読物	『ミラクル・ファミリー』	柏葉幸子/作	講談社	
					紹介：読物	『本の探偵事典 いろの手がかり編』	あかぎかんこ/著	フェリシモ出版	
					紹介：読物	『みつばち』	丘修三/作	くもん出版	
					絵本	『よあけ』	ユリー・シュルヴィッツ/作	福音館書店	
岸和田	小6	教室	45分	世界の子どもたち	おはなし	『小石投げの名人タオ・カム』『子どもに語るアジアの昔話2』	松岡享子/訳	こぐま社	・小林豊の3冊は、教科書でも紹介されており、尚且つ、戦争のことを勉強している時だったので、「タイムリーだった」と、先生よりコメントあり。
					絵本	『ぼくのいぬがまいごです』	エズラ・ジャック・キーツ/作	徳間書店	
					紹介：読物	『国際理解教育にやくだついろんな国・いろんなことば2』	竹下昌之/監修	ポプラ社	
					紹介：読物	『エミールと探偵たち』	エーリヒ・ケストナー/作	岩波書店	
					絵本	『いつもいっしょ』	車光照/ほか・写真	福音館書店	
					紹介：読物	『ねこのパーキンスのおみやげ』	リンダ・イエトマン/作	偕成社	
					紹介：絵本	『草原の少女プージェ』	関野吉晴/作	小峰書店	
					紹介：読物	『草原と砂漠のモンゴル』	関野吉晴/作	小峰書店	
					紹介：絵本	『せかいいちうつくしいぼくの村』	小林豊/作・絵	ポプラ社	
					紹介：絵本	『ぼくの村にサーカスがきた』	小林豊/作・絵	ポプラ社	
					紹介：絵本	『せかいいちうつくしい村へかえる』	小林豊/作・絵	ポプラ社	
					絵本	『ぼくと弟はあるきつづける』	小林豊/作・絵	岩崎書店	
狭山	小6	教室	45分		おはなし	「瓜こひめ」『おはなしのろうそく12』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	・おはなし会を聞く習慣があるので、いつも意欲的に聞いてくれる。
					絵本	『あなたをずっとずっとあいしてる』	宮西達也/作・絵	講談社	
					絵本	『ちゃいますちゃいます』	内田麟太郎/作	教育画劇	
狭山	小6	教室	45分		おはなし	「にせ本尊」『日本の昔話3』	おざわとしお/再話	福音館書店	・しっかり聞いてくれた。
					おはなし	「水晶の小箱」『子どもに語るイタリアの昔話』	剣持弘子/訳・再話	こぐま社	
					絵本	『ヘリオさんとふしぎななべ』	市居みか/作	アリス館	
					絵本	『ぼくと弟はあるきつづける』	小林豊/作	岩崎書店	
狭山	小6	教室	45分		おはなし	「にせ本尊」『日本の昔話3』	おざわとしお/再話	福音館書店	・おはなしは、おもしろい内容のものを、絵本は聞きごたえのあるものを選び、組んでみた。 ・しっかり受け止めてくれた様に感じた。
					おはなし	「象のふろおけ」『世界むかし話15』	光吉夏弥/訳	ほるぷ出版	
					絵本	『ヘリオさんとふしぎななべ』	市居みか/作	アリス館	
					絵本	『ぼくと弟はあるきつづける』	小林豊/作	岩崎書店	
					絵本	『ともだち』	太田大八/作	講談社	
泉南	小6	教室	45分		絵本	『月人石』	乾千恵/書	福音館書店	・ゆったりとしたプログラムで、本の紹介もゆっくりできた。
					おはなし	「小石投げの名人タオ・カム」			
					おはなし	「絵姿女房」			
					絵本	『おおきなテーブルおゆずりします』	村山桂子/作	教育画劇	
					紹介：本	20冊			
泉南	小6	教室	45分		絵本	『いちご』	新宮晋/作	文化出版局	・『こんにちは・・』は、集中して見つめていた。 ・子どもたちの様子を見ながら、語りのテンポを速めたり、押しぎみに声を出すなど、工夫した。
					おはなし	「山の上の火」			
					絵本	『こんにちはあかぎつね！』	エリック・カール/作	偕成社	
					おはなし	「ネギをうえた人」			
					紹介：本	24冊			

泉南	小6	教室	45分		絵本	『どうぶつはいくあそび』	岸田衿子	のら書店	・おはなしは、子どもたちの集中力で、聞き手・語り手共に入り込んだ。
					おはなし	「かしこすぎた大臣」			
					絵本	『にたものランド』	ジョーン・スタイナー/作	徳間書店	
					絵本	『ヘンリー　フィッチバーグへいく』	D.B.ジョンソン/文・絵	福音館書店	
					おはなし	「金の髪」			
					紹介:本	25冊			
泉南	小6	教室	45分		詩	『ことばあそびうた』	谷川俊太郎/詩	福音館書店	・詩は一緒に声を出し、よかった。 ・全体的にかたい本が多い、との声あり。
					おはなし	「お日さまの妹　布ぶくろの兄」			
					おはなし	「犬と猫とうろこ玉」			
					絵本	『ニワトリが道にとびだしたら』	デビット・マコーレイ/文・絵	岩波書店	
					絵本	『おおはくちょうのそら』	手島圭三郎/文・絵	福武書店	
					紹介:本	23冊			
泉南	小6	教室	45分		絵本	『ことわざ絵本』	五味太郎/著	岩崎書店	・『ともだち』は、ページをめくるたびに、思いあたる場面などで、うなずいていた。 ・おはなしは共に、情景を思い浮かべることができ、おちがあるのでおもしろかった。
					おはなし	「白いゾウ」			
					おはなし	「はなたれ小僧さま」			
					絵本	『ともだち』	谷川俊太郎/文	玉川大学出版部	
					絵本	『せかいはいったいだれのもの』	トム・ポウ/文	評論社	
					紹介:本	22冊			
富田林	小6	教室	45分		詩	「山みちのうた」	宮沢章二/作		
					絵本	『えぞまつ』	神沢利子/文	福音館書店	
					詩	「宇宙のうた」	まどみちお/作	かど創房	
					絵本	『風きる翼』	木村裕一/作	講談社	
					おはなし	「旅人馬」『子どもに語る日本の昔話2』	稲田和子/著	こぐま社	
					おはなし	「りこうなおきさき」		岩波書店	
寝屋川	小6	教室	45分		詩	「まつり」『のはらうたⅢ』	工藤直子/作	童話屋	・『こいぬ・・』では、おはなしにあまり興味のなさそうな子が、身をのり出すようにして見ていたのが印象的。 ・高学年になると、静かに聞いてくれる。
					おはなし	『王さまと九人のきょうだい』(同名絵本)	君島久子/訳	岩波書店	
					おはなし	「田の久」『子どもに語る日本の昔話1』	稲田和子/著	こぐま社	
					絵本	『こいぬがうまれるよ』	ジョアンナ・コール/文	福音館書店	
					絵本	『光の旅　かげの旅』	アン・ジョナス/作	評論社	
寝屋川	小6	教室	45分		おはなし	「ヨリンデとヨリンゲル」			・よく聞いてくれた
					おはなし	「三つのオレンジ」『子どもに語るイタリアの昔話』	剣持弘子/訳・再話	こぐま社	
					絵本	『かもさんおとおり』	ロバート・マックロスキー/作	福音館書店	
寝屋川	小6	教室	45分		おはなし	「世界でいちばんやかましい音」	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	・よく聞いてくれた ＊おはなしは『愛蔵版おはなしのろうそく5』より
					おはなし	「水晶の玉」『語るためのグリム童話7』	グリム/原作	小峰書店	
					絵本	『光の旅　かげの旅』	アン・ジョナス/作	評論社	
					絵本	『やっぱりおおかみ』	佐々木マキ/作	福音館書店	
寝屋川	小6	教室	45分		おはなし	「雪女」『松谷みよ子のむかしむかし3』	松谷みよ子/著	講談社	・よく聞いてくれた ＊おはなしは『魔法のオレンジの木』『世界のメルヒェン図書館1』より
					おはなし	「のろいをかけられた王女様」	小沢俊夫/編・訳	ぎょうせい	
					おはなし	「あたしがテピンギーこの子がテピンギー　あたしたちのテピンギー」	ウォルクスタイン/採話	岩波書店	
					手遊び	いわしのひらき			
寝屋川	小6	教室	45分		おはなし	「水晶の玉」『語るためのグリム童話7』	グリム/原作	小峰書店	・最後に全ての本を紹介すると、大勢の子が本を手にとってくれた。 ＊おはなしは『愛蔵版おはなしのろうそく5』より
					おはなし	「世界でいちばんやかましい音」	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	
					絵本	『やっぱりおおかみ』	佐々木マキ/作	福音館書店	
					絵本	『光の旅　かげの旅』	アン・ジョナス/作	評論社	
					紹介:読物	『さかさまさかさ』	野崎昭弘/文	福音館書店	
寝屋川	小6	教室	45分		おはなし	「雪女」『松谷みよ子のむかしむかし3』	松谷みよ子/著	講談社	・「のろいを・・」は、25分以上かかる長い話だが、集中してよく聞いてくれた。
					おはなし	「のろいをかけられた王女様」『世界のメルヒェン図書館1』	小沢俊夫/編・訳	ぎょうせい	
					絵本	『しゃっくりがいこつ』	マージェリー・カイラー/作	セーラー出版	
能勢	小6	学図	35分		絵本	『ねずみのとうさんアナトール』	イブ・タイタス/文	童話屋	
					絵本	『白いソニア』	渕上サトリーノ/作	自由国民社	
					詩	「山みちのうた」	宮沢章二/作		
能勢	小6	学図	40分		朗読	『そして、だれも・・・』	星新一	理論社	
					絵本	『ナヌークの贈り物』	星野道夫/作	小学館	
					詩	「アカノマンマ」	まどみちお/作		
羽曳野	小6	教室	20分	ハート	絵本	『ずーっとずっとだいすきだよ』	ハンス・ウィルヘルム/文・絵	評論社	・「愛しい」「好き」「想う」という気持ちを大切にしてほしいと思って選んだ。
					紹介:読物	『SONIA　白くなった黒ラブ・ソニア』	ジュリアン出版/編	ジュリアン出版	
羽曳野	小6	教室	40分		詩	「名づけあそびうた」『しかられた神さま』	川崎洋/作	理論社	
					おはなし	「へっぷりよめさま」『日本の昔話1』	松谷みよ子/著	講談社	
					絵本	『アフリカの音』	沢田としき/作	講談社	
					おはなし	「山の上の火」(同名絵本より)	渡辺茂男/訳	岩波書店	
					紹介:出典の本	4冊			
羽曳野	小6	教室	40分		詩	「ちいさなゆき」	まどみちお/作		
					おはなし	「七わのからす」『子どもに語るグリムの昔話3』	ヤーコプ・グリム/著	こぐま社	
					おはなし	「山の上の火」(同名絵本より)	渡辺茂男/訳	岩波書店	
					詩	「てつがくのらいおん」	工藤直子/作	理論社	
					紹介:出典の本	4冊			
羽曳野	小6	教室	40分		詩	「ゆきがふる」『あしたのあたしはあたらしいあたし』	いしづちひろ/作	理論社	
					おはなし	「屋根がチーズでできた家」『子どもに語る北欧の昔話』	福井信子/編・訳	こぐま社	
					おはなし	「山の上の火」(同名絵本より)	渡辺茂男/訳	岩波書店	
					絵本	『たいせつなこと』	マーガレット・ワイズ・ブラウン/作	フレーベル館	
					紹介:出典の本	4冊			
					紹介:絵本	「リサとガスパール」のシリーズ1冊	アン・グットマン/文	ブロンズ新社	
羽曳野	小6	教室	40分		詩	「きまりことば」			
					おはなし	「へっぷりよめさま」『日本の昔話1』	松谷みよ子/著	講談社	
					おはなし	「熊の皮を着た男」『子どもに語るグリムの昔話1』	ヤーコプ・グリム/著	こぐま社	
					絵本	『バスにのって』	荒井良二/作・絵	偕成社	
					紹介:出典の本	4冊			
羽曳野	小6	教室	20分	色	絵本	『いろいきてる！』	谷川俊太郎/作	福音館書店	・土の色の多さに驚く。 ・土に関するクイズ等も取り入れて変化をもたせたので、楽しんでくれたように思う。
					BT:絵本	『土の色って、どんな色？』	栗田宏一/作	福音館書店	
					BT:読物	『土のコレクション』	栗田宏一/作	フレーベル館	
					絵本	『たったひとりの戦い』	アナイス・ヴォージュラード/作・絵	徳間書店	

羽曳野	小6	教室	20分	モンゴル	絵本	『モンゴルの白い馬』	王敏/作	小峰書店	・『モンゴルの黒・・』では、古い時代のモンゴルの衣装などが、ていねいに描かれ、しっかり注目してくれた様子。 ・六年生になると、教室のはばいっぱいに広がったままで、促しても中央に集まってくれない。
					絵本	『モンゴルの黒い髪』	バンサンスレンボロルマー/作	石風社	
					BT:絵本	『いしになったかりゅうど』	大塚勇三/再話	福音館書店	
					BT:絵本	『草原の少女プージェ』	関野吉晴/作	小峰書店	
羽曳野	小6	教室	20分	一人の作者にしぼって	絵本	『ロンポポ　オオカミと三にんのむすめ』	エド・ヤング/再話・絵	古今社	・エド・ヤングの作品を取り上げ、同じ作者でも、絵の感じが全く違うことに驚く。
					絵本	『七ひきのねずみ』	エド・ヤング/作	古今社	
羽曳野	小6	教室	20分	家族	絵本	『かあさんのいす』	ベラ・B・ウィリアムズ/作・絵	あかね書房	・本の紹介時には、子どもたちの集中力がとぎれ、話し方にも練習が必要。
					紹介:絵本	『ほんとにほんとにおいしいもの』	ベラ・B・ウィリアムズ/作・絵	あかね書房	
					紹介:絵本	『うたいましょうおどりましょう』	ベラ・B・ウィリアムズ/作・絵	あかね書房	
阪南	小6	学図	45分		絵本	『蜘蛛の糸』	芥川龍之介/著	偕成社	・読むのも少し難しかったので、伝わりにくかったかもしれない。
					絵本	『しちめんちょうおばさんのこどもたち』	吉野公章/作	福音館書店	
阪南	小6	学図	45分	卒業にむけて	絵本	『キツネ』	マーガレット・ワイルド/文	BL出版	・ページをめくる時ぐらいは、子どもたちの顔をみれるようにしたい。 ・二つの詩の合間をどのぐらいあけたらいいものか？あっけなく終わり、反省。
					詩	『親から子へ伝えたい17の詩』	谷川俊太郎/ほか著	双葉社	
					絵本	『たいせつなこと』	マーガレット・ワイズ・ブラウン/作	フレーベル館	
					詩	『誕生に贈ることば』	読売新聞社/編	読売新聞社	
阪南	小6	学図	45分		絵本	『キツネ』	マーガレット・ワイルド/文	BL出版	・『キツネ』は、3番目に読んでもいいかも。内容は5・6年むき。 ・私語の多い子を注意するが、効果なし。無視して読み進めるより仕方ないか？
					絵本	『光の旅　かげの旅』	アン・ジョナス/作	評論社	
					絵本	『てつびん物語・淡路大震災ある被災者の記録』	土方正志/文	偕成社	
阪南	小6	学図	45分		絵本	『オットー』	トミー・ウンゲラー/作	評論社	・『銀河・・』は、読み時間30分。集中して聞ける子とそうでない子の二極化。
					絵本	『シロナガスクジラより大きいものっているの？』	ロバート・E・ウェル/作	評論社	
					絵本	『銀河鉄道の夜』	宮沢賢治/原作	講談社	
阪南	小6	学図	45分	卒業にむけて	絵本	『雨をまちながら』	カマクシ・バラスブラマニア/作	河出書房新社	・『雨を・・』は、テーマが少し重かったか？「地球温暖化？』の声があがった。 ・ビートたけしの詩にびっくりしていた。
					読物	『気持ちの本』	森田ゆり/作	童話館出版	
					詩	『親から子へ伝えたい17の詩』	谷川俊太郎/ほか著	双葉社	
					詩	『誕生に贈ることば』	読売新聞社/編	読売新聞社	
阪南	小6	学図	60分	戦争	絵本	『原爆の火』	岩崎京子/作	新日本出版社	・途中で説明を入れる時は、ページをめくる直前にすればよかった。（流れをとめてしまうので） ・『ななし・・』は、堺弁で書かれてあり、読むのが難しい。
					絵本	『お母ちゃんお母ちゃーんむかえにきて』	岡田継夫/文	小峰書店	
					絵本	『かこいをこえたホームラン』	ケン・モチヅキ/著	岩崎書店	
					絵本	『ななしのごんべさん』	田島征彦/作	童心社	
					絵本	『ねんどの神さま』	那須正幹/作	ポプラ社	
阪南	小6	学図	45分	感動	絵本	『くろねこのかぞく』	ピョートル・ウィルコン/著	セーラー出版	・『ロバの・・』は、長いお話だったが、集中していた。
					絵本	『ロバのシルベスターとまほうの小石』	ウィリアム・スタイグ/作	評論社	
阪南	小6	学図	45分		絵本	『めぐろのさんま』	川端誠/著	クレヨンハウス	・『よかったね・・』は、日本語と英語に分けて読む。一番反応がよかった。
					絵本	『葉っぱのフレディ』	レオ・バスカ/作	童話屋	
					絵本	『よかったねネッドくん』	レミー・チャーリップ/著	偕成社	
阪南	小6	学図	45分		絵本	『めぐろのさんま』	川端誠/著	クレヨンハウス	・『よかったね・・』は、英語を交えてよむと、「すごーい」の声あり。低学年のような、率直な笑いはない。
					紹介:読物	『かくれ山の冒険』	富安陽子/作	PHP研究所	
					紹介:読物	『ムジナ探偵局』	富安陽子/作	童心社	
					紹介:読物	『鬼の橋』	伊藤遊/著	福音館書店	
					紹介:読物	『えんの松原』	伊藤遊/著	福音館書店	
					絵本	『よかったねネッドくん』	レミー・チャーリップ/著	偕成社	
阪南	小6	教室	45分		おはなし	「ミアッカどん」「イギリスとアイルランドの昔話」	石井桃子/編・訳	福音館書店	・『つきよの・・』は、高学年でも楽しんでくれた。
					朗読	「蜘蛛の糸」『少年少女文学館6』	芥川龍之介/著	講談社	
					おはなし	「まじょのてんきよほう」			
					絵本	『つきよのかいじゅう』	長新太/作	佼正出版社	
					紹介:本	『穴』 他、9冊			
阪南	小6	教室	45分		朗読	「蜘蛛の糸」『少年少女文学館6』	芥川龍之介/著	講談社	
					おはなし	「だんなも、だんなも、大だんなさま」『イギリスとアイルランドの昔話』	石井桃子/編・訳	福音館書店	
					絵本	『うごく浮世絵！？』	よぐちたかお/作	福音館書店	
					紹介:本	『絵で見る日本の歴史』 他、9冊			
阪南	小6	教室	45分		朗読	「蜘蛛の糸」『少年少女文学館6』	芥川龍之介/著	講談社	
					おはなし	「だんなも、だんなも、大だんなさま」『イギリスとアイルランドの昔話』	石井桃子/編・訳	福音館書店	
					絵本	『光の旅　かげの旅』	アン・ジョナス/作	評論社	
					おはなし	「パンとユリ」			
					紹介:本	『絵で見る日本の歴史』 他、9冊			
藤井寺	小6	教室	45分	ギリシア神話	おはなし	「アポロンとダフネ」『ギリシア神話』	石井桃子/訳	のら書店	・とても集中して聞いてくれた。 ・秋の読書週間として4回行ったブックトークの締めくくり
					朗読	「王さまの耳はロバの耳」『ギリシア神話』		のら書店	
					おはなし	「王子さまの耳はロバの耳」『ポルトガル民話』		実業之日本社	
					詩	「なぜ」『ポケット詩集』		童話館	
					音読	「パンドラ」『ギリシア神話』		のら書店	
藤井寺	小6	教室	45分		絵本	『いつかはきっと』	シャーロット・ゾロトフ/文	ほるぷ出版	・年に一度なので、子どもたちの聞く態度に緊張感が感じられた。
					おはなし	「ぬか福米福」『子どもに語る日本の昔話』	稲田和子/著	こぐま社	
					うたあそび	二羽の小鳥			
					詩	「ほしとたんぽぽ」	金子みすず/作		
					おはなし	「山の上の火」（同名絵本より）	渡辺茂男/訳	岩波書店	
藤井寺	小6	教室	45分	勇気・やさしさ・愛	詩	「それほんとう？」	松岡享子/作	福音館書店	・『ギルガメッシュ・・』は、世界最古の物語と、メソポタミア文明の話を交えながら紹介。 ・くいいるように目を離さない子どもたちが、何人もいて、このおはなしの強さを感じた。
					詩	「マザーグースのうた」	谷川俊太郎/訳	のら書店	
					おはなし	「ガウェイン卿とラグネル姫」『アーサー王物語』	R. L. グリーン/編	岩波書店	
					紹介:絵本	『ギルガメシュ王ものがたり』	ルドミラ・ゼーマン/文	岩波書店	
					紹介:絵本	『ギルガメシュ王のたたかい』	ルドミラ・ゼーマン/文	岩波書店	
					紹介:絵本	『ギルガメシュ王さいごの旅』	ルドミラ・ゼーマン/文	岩波書店	
					紹介:絵本	『ルガルバンダ王子の冒険』	キャシー・ヘイダソン/再話	岩波書店	

藤井寺	小6	教室	45分	ギリシャ神話	おはなし	「アポロンとダフネ」『ギリシア神話』	石井桃子/訳	のら書店	・秋の読書週間として4回行ったブックトークの締めくくり。 ・とても集中して聞いてくれた。
					音読	「王さまの耳はロバの耳」『ギリシャ神話』	石井桃子/訳	のら書店	
					おはなし	「王子さまの耳はロバの耳」『子どもに聞かせる世界の民話』	矢崎源九郎/編	実業之日本社	
					詩	「なぜ」『ポケット詩集』	川崎洋/作	童話館	
					音読	「パンドラ」『ギリシャ神話』	石井桃子/訳	のら書店	
藤井寺	小6	教室	45分	物語絵本はたのしい！	おはなし	「エルシーピドック　ゆめでなわとびをする」	ファージョン/作	岩波書店	・事前に図書室にある本か調べ、在庫の本ばかりを選書。終わると、図書室で、紹介した本として、並べてくれていた。
					紹介:絵本	『運命の王子』	リーセ・マニケ/文・絵	岩波書店	
					紹介:絵本	『ねむりひめ』	グリム/原作	福音館書店	
					紹介:絵本	『長ぐつをはいたねこ』	グリム/原作	福音館書店	
					紹介:絵本	『ハメルンの笛ふき』	ケート・グリーナウェイ/絵	文化出版局	
					紹介:絵本	『ビロードうさぎ』	ニコルソン/作	童話屋	
					紹介:絵本	『クリスマス人形のねがい』	ルーマー・ゴッデン/文	岩波書店	
					紹介:絵本	『雪の女王』	アンデルセン/作	福音館書店	
					紹介:絵本	『沖釣り漁師のバート・ダウじいさん』	マックロスキー/作	童話屋	
					紹介:絵本	『メイゼルとシュリメイゼル』	アイザック・B・シンガー/文	冨山房	
					紹介:絵本	宮沢賢治作品、3冊			
藤井寺	小6	教室	45分	それ、ほんとう？のような不思議なおはなし	詩	『それほんとう？』より	松岡享子/作	福音館書店	・長いおはなしでも、内容がよければ集中度は高い。 ・このプログラムは6年生では、よく聞いてくれる。
					おはなし	「ガウェイン卿とラグネル姫」『アーサー王物語』	R. L. グリーン/編	岩波書店	
					紹介:読物	『アーサー王物語』	R. L. グリーン/編	岩波書店	
					紹介:読物	『ライオンと魔女』	C. S. ルイス/作	岩波書店	
藤井寺	小6	交流室	45分	生命のはじまり～物語のはじまり	絵本	『せいめいのれきし』	バージニア・リー・バートン/文・絵	岩波書店	・「北欧神話」「ギリシャ神話」「日本の神話」と細々と説明したので、難しかったようだ。次回は、簡単にした方が良いかも。
					絵本	『くにのはじまり』	赤羽末吉/絵	あかね書房	
					紹介:本	別紙5			
藤井寺	小6	交流室	45分	タイムファンタジー	絵本	『ジュマンジ』	オールスバーグ/作	ほるぷ出版	・『かようびのよる』が、大人気。
					紹介:本	別紙6			
藤井寺	小6	交流室	45分	岩波少年文庫	紹介:本	別紙7			・『アーサー王・・』を読んだという感想多。
					おはなし	「ガウェイン卿とラグネル姫」『アーサー王物語』	R. L. グリーン/編	岩波書店	
藤井寺	小6	交流室	45分	名作を声に出して読んでみよう	詩	「アメニモマケズ」	宮沢賢治/作		・『蜘蛛の糸』をきっかけに、他の芥川作品を読んだという感想あり。 ・子どもたちが、詩が好きなのに気付かされた。
					詩	「ゆりかごのうた」	北原白秋/作		
					詩	「大漁」	金子みすず/作		
					音読	「蜘蛛の糸」	芥川龍之介/著		
					紹介:本	別紙8			
箕面	小6	教室	3・4限	おはなし会	絵本 ①	『名前のない人』	オールズバーグ/絵・文	河出書房新社	・90名を各自の希望により5つのグループに別れ、各教室でおはなし会を行う。
					絵本	『はちみついろのうま』	小風さち/作	福音館書店	
					絵本 ②	『青い馬の少年』	ビル・マーティンJr. /文	アスラン書房	
					朗読	「蜘蛛の糸」	芥川龍之介/著		
					絵本 ③	『あたまにつまった石ころが』	キャロル・オーティス・ハースト/文	光村教育図書	
					絵本	『桃源郷ものがたり』	松居直/文	福音館書店	
					朗読 ④	「どんぐりと山猫」	宮沢賢治/作		
					絵本	『森のいのち』	小寺卓矢/文・写真	アリス館	
					絵本 ⑤	『友だちという名の宝箱』	パム・ライアン/作	エヌ・ティ・エス	
					絵本	『アンジェロ』	デビット・マコーレイ/作	ほるぷ出版	
河内長野	中1	学図	45分	泣けるのはケータイ小説だけじゃない！	絵本	『すき』	トメク・ボガッキー/作	セーラー出版	・『すき』は、つかみの本として最適。おはなし会の導入をなごやかにしてくれた。 ・ブックトークの反応も良好。
					おはなし	「はなたれ小僧さま」(同名絵本より)	川村たかし/文	教育画劇	
					おはなし	「くぎスープ」『世界のむかし話』	瀬田貞二/訳	学習研究社	
					おはなし	「貧乏の神と福の神」『寒河江市幸生・白岩のわらべ唄』	羽陽短大むかし話わらべ唄研究会/編		
					BT:読物	『フランダースの犬』	ウィーダ/作	岩波書店	
					BT:読物	『馬ぬすびと』	平塚武二/作	福音館書店	
					BT:絵本	『きいちゃん』	山元加津子/著	アリス館	
					BT:絵本	『八郎』	斎藤隆介/作	福音館書店	
					BT:絵本	『かたあしだちょうのエルフ』	おのきがく/文・絵	ポプラ社	
					BT:絵本	『せかいいちうつくしいぼくの村』	小林豊/作・絵	ポプラ社	
					BT:読物	『おやすみなさいトムさん』	ミシェル・マゴリアン作	評論社	
					BT:読物	『一瞬の風になれ』1～3	佐藤多佳子/著	講談社	
					BT:読物	『きみの友だち』	重松清/著	新潮社	
河内長野	中1	学図	40分	泣けるのはケータイ小説だけじゃない！	絵本	『すき』	トメク・ボガッキー/作	セーラー出版	・中学生は、受け取り方もシビア。語り手はよくよく練習を積んで臨みたい。 ・ブックトークは、担当者が本当におもしろいと思うものだけを紹介したほうが、印象深く伝わるのでは？
					おはなし	「長い名前」	山下祥子/再話		
					おはなし	「くぎスープ」『世界のむかし話』	瀬田貞二/訳	学習研究社	
					おはなし	「貧乏の神と福の神」『寒河江市幸生・白岩のわらべ唄』	羽陽短大むかし話わらべ唄研究会/編		
					BT	151と同じ			
河内長野	中1	学図	40分	泣けるのはケータイ小説だけじゃない！	絵本	『すき』	トメク・ボガッキー/作	セーラー出版	・あるクラスでは、ケータイ小説を読んだことのある生徒は、7～8割に。 ・『一瞬の・・』『きみの友だち』への反応が大きかった。
					おはなし	「エパミナンダス」『おはなしのろうそく1』	東京子ども図書館/編	東京こども図書館	
					おはなし	「くぎスープ」『世界のむかし話』	瀬田貞二/訳	学習研究社	
					おはなし	「貧乏の神と福の神」『寒河江市幸生・白岩のわらべ唄』	羽陽短大むかし話わらべ唄研究会/編		
					BT	151と同じ			
泉南	中1	教室	45分		絵本	『月人石』	乾千恵/書	福音館書店	・『くろねこ・・』は、この年令にいいと思う。 ・本のリストを作成。やはりあったほうがいいと思う。
					詩	「あした」『あしたのあたしはあたらしいあたし』	石津ちひろ/詩	理論社	
					おはなし	「かえるの王さま」			
					おはなし	「おおかみの眉毛」			
					おはなし	「象とフクロウ」			
					絵本	『くろねこのかぞく』	ピョートル・ウィルコン/著	セーラー出版	
					絵本	『てん』	ピーター・レイノルズ/作	あすなろ書房	
豊中	中1	学図	45分		紙芝居(大型)	『おとうさん』	与田準一/脚本	童心社	
					おはなし	「ならなしとり」			
					おはなし	「たいへんだあ」			
					おはなし	「ふしぎなオルガン」			
					絵本	『ひとのいいネコ』	田島征三/絵	小学館	
					絵本	『光の旅　かげの旅』	アン・ジョナス/作	評論社	
					絵本	『これはのみのぴこ』	谷川俊太郎/作	サンリード	
					紹介:本				

豊中	中1	学図	45分		絵本(大型)	『ダンゴムシみつけたよ』	皆越ようせい/写真・文	ポプラ社	
					おはなし	「ネズミ経」			
					おはなし	「ミアッカどん」			
					おはなし	「てんまのとらやん」			
					絵本	『光の旅　かげの旅』	アン・ジョナス/作	評論社	
					絵本	『ひとのいいネコ』	田島征三/絵	小学館	
					絵本	『これはのみのピコ』	谷川俊太郎/作	サンリード	
					紹介:本				
豊中	中1	多目的室	45分		おはなし	「死神の名付け親」			
					おはなし	「サルのきも」			
					紹介:読物	『詩のこころを読む』	茨木のり子/著	岩波書店	
					詩	「木」『おーいぽぽんた』	茨木のりこ/ほか編集委員	福音館書店	
					詩	「黄金の魚」『谷川俊太郎詩集』	谷川俊太郎/著	思潮社	
					詩	「おならうた」『谷川俊太郎詩集』	谷川俊太郎/著	思潮社	
					絵本	『しまふくろうのみずうみ』	手島圭三郎/文・絵	福武書店	
					絵本	『いつもちこくのおとこのこ』	ジョン・バーニンガム/作	あかね書房	
					紹介:本				
豊中	中1	多目的室	45分		おはなし	「七男太郎の嫁」			
					おはなし	「サルのきも」			
					紹介:読物	『詩のこころをよむ』	茨木のり子/著	岩波書店	
					詩	「木」『おーいぽぽんた』	茨木のりこ/ほか編集委員	福音館書店	
					詩	「黄金の魚」『谷川俊太郎詩集』	谷川俊太郎/著	思潮社	
					詩	「おならうた」『谷川俊太郎詩集』	谷川俊太郎/著	思潮社	
					絵本	『オオカミと石のスープ』	アナイス・ヴォージュラード/作・絵	徳間書店	
					絵本	『さよならさんかく』	安野光雅/著	講談社	
					紹介:本				
豊中	中1	学図	45分		おはなし	「トム・ティット・トット」			
					絵本	『月人石』	乾千恵/書	福音館書店	
					詩	「うんこ」『どきん』	谷川俊太郎/著	理論社	
					絵本	『かじかぴょうぶ』	川崎大治/文	童心社	
					絵本	『これはのみのぴこ』	谷川俊太郎/作	サンリード	
					BT				
豊中	中1	学図	45分		おはなし	「アナンシのぼうしふりおどり」			
					おはなし	「おいしいおかゆ」			
					朗読	「鳥」『記憶の作り方』	長田弘/著	晶文社	
					詩	「うんこ」『どきん』	谷川俊太郎/著	理論社	
					絵本	『えものはどこだ』	五味太郎/作・絵	岩崎書店	
					絵本	『きつねのホィティ』	シビル・ウェッタシンハ/作	福音館書店	
					BT				
豊中	中1	視聴覚室	45分		紙芝居(大型)	『おとうさん』			
					おはなし	「たいへんだあ」			
					おはなし	「きつねのちょうちん」			
					おはなし	「てんまのとらやん」			
					絵本	『光の旅　かげの旅』	アン・ジョナス/作	評論社	
					絵本	『これはのみのピコ』	谷川俊太郎/作	サンリード	
					BT				
豊中	中1	視聴覚室	45分		紙芝居(大型)	『おとうさん』	与田準一/脚本	童心社	
					おはなし	「さきざきさん」			
					おはなし	「だいふくもち」			
					おはなし	「おいしいおかゆ」			
					おはなし	「あくびが出るほどおもしろい話」			
					絵本	『あらまっ！』	ケイト・ラム/文	小学館	
					絵本	『そらいろのけもの』	ビアンキ/原作	福音館書店	
					BT				
豊中	中1	視聴覚室	45分		紙芝居(大型)	『おとうさん』	与田準一/脚本	童心社	
					おはなし	「ネズミ経」			
					おはなし	「天人のよめさま」			
					おはなし	「あくびが出るほどおもしろい話」			
					絵本	『あるのかな』			
					絵本	『これはのみのピコ』	谷川俊太郎/作	サンリード	
					絵本	『ねこガム』	きむらよしお/作	福音館書店	
					BT				
豊中	中2	多目的室	45分		紙芝居(大型)	『おとうさん』	与田準一/脚本	童心社	
					おはなし	「ネズミ経」			
					おはなし	「たのきゅう」			
					おはなし	「小石投げの名人タオ・カム」			
					絵本	『ひとのいいネコ』	田島征三/絵	小学館	
					絵本	『光の旅　かげの旅』	アン・ジョナス/作	評論社	
					紹介:本				
豊中	中2	多目的室	45分		絵本(大型)	『ダンゴムシみつけたよ』	皆越ようせい/写真・文	ポプラ社	
					おはなし	「きつねのちょうちん」			
					おはなし	「たからげた」			
					おはなし	「四人のなまけもの」			
					絵本	『トンちゃんってそういうネコ』	MayaMaxx/作	角川書店	
					絵本	『光の旅　かげの旅』	アン・ジョナス/作	評論社	
					紹介:本				
豊中	中2	学図	45分		おはなし	「死神の名付け親」			
					おはなし	「サルのきも」			
					紹介:読物	『詩のこころを読む』	茨木のり子/著	岩波書店	
					詩	「き」『おーいぽぽんた』	茨木のりこ/ほか編集委員	福音館書店	
					詩	「黄金の魚」『谷川俊太郎詩集』	谷川俊太郎/著	思潮社	
					詩	「おならうた」『谷川俊太郎詩集』	谷川俊太郎/著	思潮社	
					絵本	『しまふくろうのみずうみ』	手島圭三郎/文・絵	福武書店	
					絵本	『いつもちこくのおとこのこ』	ジョン・バーニンガム/作	あかね書房	
					紹介:本				

豊中	中2	学図	45分		おはなし	「七男太郎の嫁」			
					おはなし	「サルのきも」			
					紹介:読物	『詩のこころを読む』	茨木のり子/著	岩波書店	
					詩	「き」『おーいぽぽんた』	茨木のりこ/ほか編集委員	福音館書店	
					詩	「黄金の魚」『谷川俊太郎詩集』	谷川俊太郎/著	思潮社	
					詩	「おならうた」『谷川俊太郎詩集』	谷川俊太郎/著	思潮社	
					絵本	『オオカミと石のスープ』	アナイス・ヴォージュラード/作・絵	徳間書店	
					絵本	『さよならさんかく』	安野光雅/著	講談社	
					紹介:本				

講座で使った講師(森崎シヅ子さん)からの事例

市	学年	場所	プログラム内容				
			ジャンル	テーマ	タイトル	著者	出版社
熊取	小5	教室	ブックトーク	愉快な仲間	『2本足と4本足』	香原志勢/文 U・G・サトー/絵	福音館書店
					『アンガスとあひる』	マージョリー・フラック/作 瀬田貞二/訳	福音館書店
					『ふしぎいっぱいイヌの仲間』	メアリー・リング/文 ジェリー・ヤング/写真 徳永優子/訳	ブックローン
					『イヌのいいぶん ネコのいいわけ』	なかのひろみ/文 植木裕幸・福田豊文/絵	福音館書店
					『犬になった少年 イエスならワン』	アラン・アルバーグ/文 フリッツ・ウェグナー/絵 菊島伊久栄/訳	偕成社
					『おげんきですか？ぼくのうち』	きたやまようこ/文	偕成社
					『犬の毛にご注意！』	メアリ・B・クリスチャン/文 リサ・マッキュー/絵 神鳥統夫/訳	大日本図書
					『小犬のピピン』	ローズ・マリー・サトクリフ/文 猪熊葉子/訳	岩波書店
					『ぼくの犬キング』	サンドール・S・ウォーバーグ/文 レオナード・ウェイスガード/絵 中村妙子/訳	偕成社
					『こいぬとこねこは愉快な仲間』	ヨゼフ・チャペック/文 いぬいとみこ＋井出弘子/訳	河出書房新社
			おはなし		「大男」『たのしいゾウの大パーティ』	P・ヴィーグル/作	岩波書店

熊取	小6	教室	ブックトーク	きみの行く道	『ライオンと魔女』	C・S・ルイス/作　瀬田貞二/訳	岩波書店
					『ライオンが学校へやってきた』	フィリッパ・ピアス/文　キャロライン・シャープ/絵　高杉一郎/訳	岩波書店
					『紳士とオバケ氏』	たかどのほうこ/文　飯野和好/絵	フレーベル館
					『アリーテ姫の冒険』	ダイアナ・コールス/文　ロス・アスクィス/絵　グループウィメンズ・プレイス/訳	学陽出版
					『魔法のホウキ』	C・V・オールスバーグ/作　村上春樹/訳	河出書房新社
					『ジュマンジ』	C・V・オールスバーグ/作　へんみまさなお/訳	ほるぷ出版
					『ケーレブとケイト』	ウィリアム・スタイグ/作　あそうくみ/訳	評論社
					『オリビア　OLIVIA』	イアン・ファルコナー/作　谷川俊太郎/訳	あすなろ書房
					『ウソつきなチルル姫』	星色スプーン/文　松井つかさ/絵	郁朋社
					『むかしのこども』	五味太郎/作	ブロンズ社
					『ぱぴぷぺぽ』	本永定正/作	光村教育図書
			おはなし		「ぼたんいんこ」『ムギと王さま』	ファージョン/作	岩波書店
熊取	中1	教室	紹介した本		『魂のいちばんおいしいところ』	谷川俊太郎/作	サンリオ
					『ごきげんなすてご』	いとうひろし/作	徳間書店
					『ことりをすきになった山』	アリス・マクレーラン/作	偕成社
					『ペチューニアのたからもの』	ロジャー・デュボアザン/作	童話館
					『ジョセフのにわ』	チャールズ・キーピング/作	らくだ出版
					『しゃくりがいこつ』	マージェリー・カイラー/作	セーラー出版
					『つんたあそびのはじまり』	いとうひろし/作	講談社
					『バナナをかぶって』	中川ひろたか/作	クレヨンハウス
					『ドミニック』	ウィリアム・スタイグ/作	評論社
			おはなし		「きつねのおはなはん」	中川　正文/文	福音館書店
			おはなし		「ちゃっかりトディエとよくばりリツェル」『まぬけなワルシャワ旅行』		岩波書店
			おはなし		「馬とヒキガエル」『魔法のオレンジの木』		岩波書店
			絵本		『しゃくりがいこつ』		福音館書店
			おはなし		「ちいちゃいちいちゃい」『イギリスとアイルランドの昔話』		岩波書店

熊取	中2	教室	紹介した本	『私の中に何かがいる』	あさのあつこ/作	偕成社
				『The MANZAI』	あさのあつこ/作	ジャイブ
				『あなたがもし奴隷だったら』	ジュリアス・レスター/作	あすなろ書房
				『星の使者』	ピーター・シス/作	徳間書店
				『生命の樹』	ピーター・シス/作	徳間書店
				『フリーフォール』	ディビッド・ウィズナー/作	ブックローン
				『満月をまって』	メアリー・リン・レイ/作	あすなろ書房
				『かぜひきたまご』	舟崎克彦/作	講談社
				『ジョゼフのにわ』	チャールズ・キーピング/作	らくだ出版
			おはなし	「バッタとカタツムリ」『こんどまたものがたり』	ドナルド・ビセット/作	岩波書店
			おはなし	「まちがいないってヘソイノシシいった」『ナマケモノをすくったアルマジロ』	アニタ・ヒューエット/作	大日本図書
			おはなし	「三人の旅人」『しずくの首飾り』	ジョーン・エイキン/作	岩波書店
			絵本	『ジョゼフのにわ』	チャールズ・キーピング/作	らくだ出版
熊取	中3	教室	紹介した本	『きりのなかのサーカス』	ブルーノ・ムナーリ/作　八木田宣子/訳	好学社
				『ジョン・ギルピンのゆかいなお話』	ウィリアム・クーパー/作　ランドルフ・コルデコット/絵　よしだしんいち/訳	ほるぷ出版
				『キャベツくんのにちようび』	長新太/作	文献出版
				『危険な旅』	ジョン・バニヤン/作　アラン・バリー/絵　中村妙子/訳	新教出版社
				『ライオンとねずみ』	リーセ・マニケ/作　大塚勇三/訳	岩波書店
				『ふしぎなかず』	クヴィエタ・パツォウスカ/作一	ほるぷ出版
				『まよなかごっこ』	クヴィエタ・パツォウスカー/作　谷川俊太郎/訳	太平出版
			おはなし	「まめっこひとつ」	森崎シヅ子/再話	
			おはなし	「スワフォムの行商人」『イギリスとアイルランドの昔話』		岩波書店
			おはなし	「みそ買い橋」『日本の昔話』		
			おはなし	わかってるわかってる		こぐま社
			絵本	『ライオンとねずみ』	リーセ・マニケ/作　大塚勇三/訳	岩波書店

＊「講座で使った講師（森崎シヅ子さん）からの事例」は平成19年度の講座の中で使ったものです。
＊講師が活動している熊取町では学校司書の配置があるため、ボランティアによる小中学校でのおはなし会はボランティアの役割を意識し、楽しみのためのプログラムとして考えられています。
＊小学校プログラムは おはなしとブックトークが中心です
＊中学校プログラムは
①小学校からお話を聞いてきた子どもたちへのプログラムです。
②中学校では基本的にブックトークは行わず、「おはなし」を軸にして行っています。

別紙１

秋の読書週間2007

5年　　組名前

5年生
第1回　「科学の本もおもしろいよ！」

1	ぼくのいまいるところ	かこさとし　著	童心社
2	宇宙をみたよ！	毛利衛　監修 宙野素子　文	偕成社
3	ぼくの南極生活500日	武田剛　著	フレーベル館
4	南極のコレクション	武田剛　著	フレーベル館
5	極地からわかる地球のひみつ	鳥飼新市　文	旺文社
6	南極	三徳信彦　まんが NHK南極ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ　協力	小学館
7	氷河時代の置き手紙	丹治茂雄　著	あかね書房
8	ひとしずくの水	ｳｫﾙﾀｰ・ｳｨｯｸ　写真・文 林田康一　訳	あすなろ書房
9	雪の写真家ベントレー	ｼﾞｬｸﾘｰﾝ・ﾌﾞﾘｯｸﾞｽ・ﾏｰﾃｨﾝ　作 千葉茂樹　訳	BL出版
10	コウテイペンギン撮影記	内山晟　著	福音館
11	サボテン島のペンギン会議	川端裕人　文	アリス館
12	イルカ・クジラ大図鑑	中村康夫　文	PHP研究所
13	とべ！人工尾びれのイルカ「フジ」	真鍋和子　文	佼成出版社
14	地球動物記	岩合光昭　写真	福音館
15	オーロラ	上出洋介著	山と渓谷社
16 ｜ 20	ﾌﾘｽﾞﾙ先生のﾏｼﾞｯｸｽｸｰﾙﾊﾞｽ	ｼﾞｮｱﾝﾅ・ｺｰﾙ　文 藤田千枝　訳	岩波書店

星めぐり　地球のまんなか、海のそこへ　台風にのる　水のたび

21	水のかたち	増村征夫　文・写真	福音館
22	最先端科学がときあかす宇宙	伊藤和明　監修 国司真　文	旺文社
23	こおりのくにのシロクマおやこ	前川貴行　写真・文	ポプラ社
24	世界どうぶつ家族　10	田中光常　文・写真	岩崎書店

<u>読んでみたい本の番号を○で囲んでね！</u>

秋の読書週間 2007　　5年　　組　名前

第2回 「おはなしで世界をまわろう」

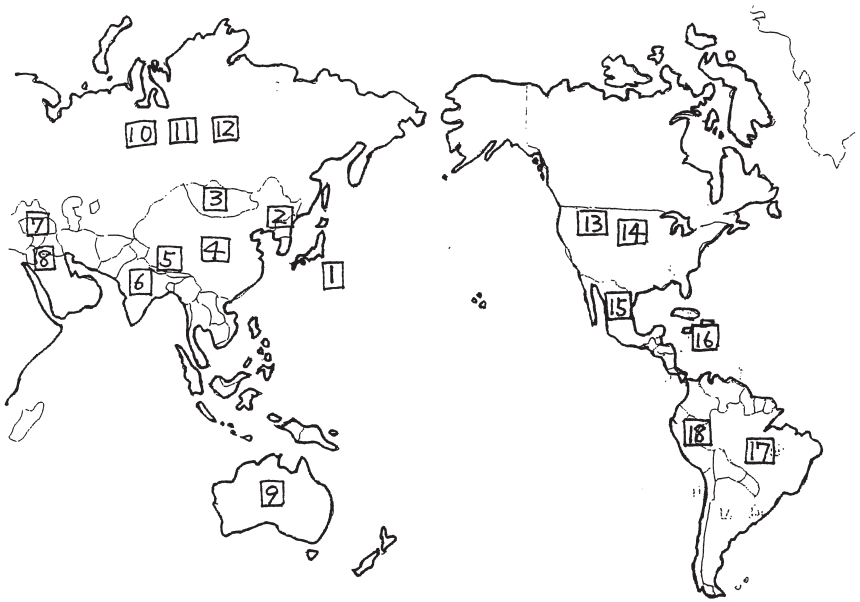
＜アジア・オーストラリア・ロシア＞

1	新訂・子どもに聞かせる日本の民話	実業之日本社
2	おばけのトッカビと朝鮮人参／韓国・朝鮮	太平出版社
3	スーホの白い馬／モンゴル	福音館書店
4	ほしになったりゅうのきば／中国	福音館書店
5	石のししのものがたり／チベット,	福音館書店
6	ヒマラヤのふえ／インド	福音館書店
7	子どもに語るトルコの昔話	こぐま社
8	ありがたいこってす／イスラエル	ほるぷ出版
9	おおきなカエル　ティダリク／オーストラリア	福音館書店
10	シーフカ・ブールカ　まほうの馬／ロシア	福音館書店
11	バーバ・ヤガー／ロシア	童話館出版
12	ふたりのイワン／ロシア	偕成社

＜北アメリカ・南アメリカ＞

13	とうもろこしおばあさん／アメリカ・インディアン	福音館書店
14	イワトミと大岩／アメリカ・インディアン	宝島社
15	チャマコとみつあみのうま／メキシコ	福音館書店
16	魔法のオレンジの木　／ハイチ	岩波書店
17	しろいむすめマニ／ブラジル	福音館書店
18	マリアとコンドル／ペルー	福音館書店

◎読んでみたい本の番号を○で囲んでね！　※下線の本以外は絵本です。



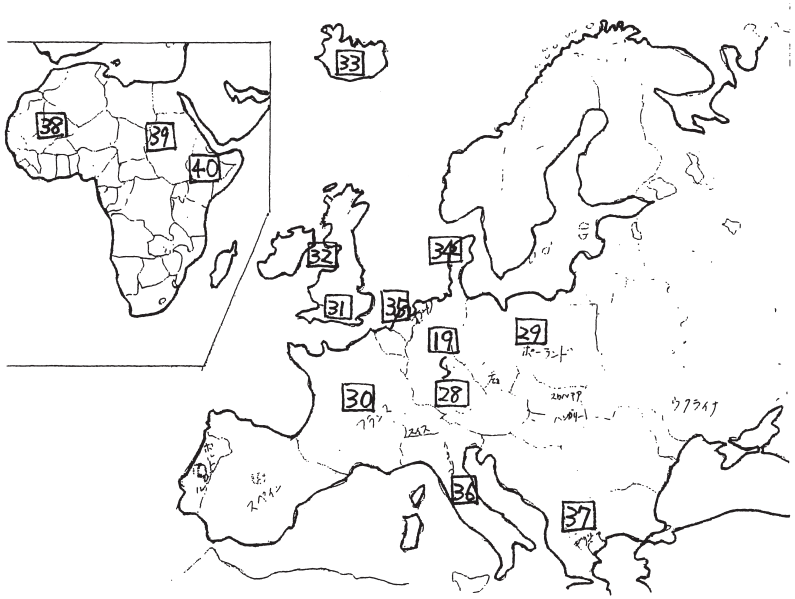
＜ヨーロッパ＞

19～24	子どもに語るグリムの昔話　1～6巻　／ドイツ（グリム）	こぐま社
25	ラプンツェル／ドイツ（グリム）	BL出版
26	ねむりひめ／ドイツ（グリム）	福音館書店
27	漁師とおかみさん／ドイツ（グリム）	ほるぷ出版
28	こびとのくつや／ドイツ（グリム）	西村書店
29	くった　のんだ　わらった／ポーランド	福音館書店
30	トンボソのおひめさま／フランス	岩波書店
31	ジャックと豆の木／イギリス	西村書店
32	イギリスとアイルランドの昔話	福音館書店
33	女トロルと8人の子どもたち／アイスランド	偕成社
34	ものいうなべ／デンマーク	岩波書店
35	しあわせなふくろう／オランダ	福音館書店
36	三つのオレンジ／イタリア	偕成社
37	王さまのリンゴの木／ギリシア	ほるぷ出版

＜アフリカ＞

38	バオバブのきのうえで／マリ	福音館書店
39	影ぼっこ／東アフリカ	ほるぷ出版
40	山の上の火／エチオピア	ジー・シー・プレス

◎読んでみたい本の番号を○で囲んでね！　※下線の本以外は絵本です。



別紙2

別紙３

秋の読書週間　　５年　　組　名前

第３回　「絆」（キズナ）　動物も人間も何かと、誰かとつながっています。お互いなくてはならない大切なもの。

＜地球の友達・動物の愛＞

1　ともだちは緑のにおい　工藤直子　理論社　地球の大切な友は？　ライオンにも友達が・・・
2　たのしい川べ　ケネス・グレーアム　岩波書店　土の中しか知らなかったモグラ、ねずみと出会って・・
3　シャーロットのおくりもの　E.B.ホワイト　あすなろ書房　シャーロットって誰？昨年映画にもなった。
4　かわせみのマルタン　リダ・フォシェ　福音館　美しいかわせみのマルタンとマルチーヌの深い愛！
5　西遊記　呉　承恩　集英社　猿の孫悟空は何から生まれたか知っていますか？奇想天外なおはなし！
6　ルドルフとイッパイアッテナ　斉藤洋　講談社　ネコにも熱い友情があります。
7　ルドルフとともだち　ひとりだち　〃　ルドルフの続編
8　絵本アンジェロ　デビッド・マコーレイ　ほるぷ出版　アンジェロじいさんの鳩へのやさしさが胸にしみます。

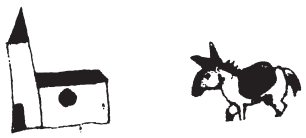
＜ともだち＞

9　絵本世界のあいさつ　長新太　福音館　絆（キズナ）は「紲（キズナ）」とも書きます。世界の人と友達になれたら。
10　絵本ギルガメシュ王ものがたり　ルドミラ・ゼーマン　岩波書店　古代から友情はあった。５千年前の友情とは？
11　絵本ギルガメシュ王のたたかい　12　絵本ギルガメシュ王さいごの旅　友を探しに死の世界へ。
13　十五少年漂流記　ジュール・ベルヌ　集英社　夏休み、２週間の予定で船旅にでた少年達。帰ってきたのは２年後。
14　やかまし村の子どもたち　リンド・グレーン　岩波書店　やかまし村には３軒の家だけ、子どもは６人・・・
15　がんばれヘンリーくん　クリアリー　学習研究社　犬を拾ったヘンリー君。いらい次々とゆかいな事件が・・
16　それいけ　ズッコケ三人組　那須正幹　ポプラ社　ハカセ、モーちゃん、ハチベーはあそぶのが大好き！

＜家族＞

17　赤毛のアン　モンゴメリー　講談社　胸ワクワクさせながらマシューの家に行った孤児のアン。ところが・・
18　さんまマーチ　上條さなえ　国土社　ひろしは８人兄弟の６番目。夢は野球選手になること、さんまを１ぴきまるごと食べること。元気なひろしとゆかいな家族！
19　ビーザスといたずらラモーナ　クリアリー　学習研究社　20　きいちゃん　山本加津子　アリス館
21　夏休みは大さわぎ　ヒラリー・マッカイ　評論社　（21～23 なかよし姉妹のおはなし。でもときにはけんかも・・）
22　真夜中のピクニック　秋川ゆみ　文研　23　絵本おじいちゃんのハーモニカ　ヘレン・作　あすなろ書房
（22、23　おじいちゃんといっしょにすむことに・・・おじいちゃんのおしえてくれたこと！）
24　うちへ帰れなくなったパパ　ラグンヒルド・作　徳間書店　理想的なすてきなパパとは？
25　のっぽのサラ　26　草原のサラ　パトリシア・マクラクラン・作　徳間書店　ママが死んだ後にやってきたサラ・・・
27　絵本ラヴ・ユー・フォーエバー　ロバート・マンチ　岩崎書房　愛とは永遠に続くもの。つながっていくもの！
28、絵本「いのちのまつり」草場一壽・作　サンマーク出版

◎　読んでみたい本の番号を○で囲んでね！（☆マーク書けなかったので…）



秋の読書週間　第４回　　５年　　組　　名前

音読　「声に出して読んでみよう！」

＊ 文章を声に出して読むと、言葉の美しさや楽しさが伝わってくる。
なんとなしに身体の中から力がわいてくる気がする。

音読する時の注意点。

・ はっきりした声で読む。
・ 文をぶつぶつきらない。
・ 状況、状景を心の中で思い浮かべながら読む。
　状況・・ありさま、ようす。　　状景・・景色
・ 詩はゆっくり読む。
・

詩集

１～５、詩集「マザーグースのうた」谷川俊太郎・訳　Ⅰ～Ⅴ集　☆☆☆
６、７「のはらうた」Ⅰ、Ⅱくどうなおこ　☆☆☆　８、「てんぷらぴりぴり」まどみちお☆☆☆
９、「ことばあそびうた」谷川俊太郎　☆☆☆　10、「大阪ことばあそびうた」島田陽子　☆☆☆

椋鳩十作品

11、「金色の足あと」（学年別童話、５年生）☆☆☆　　１２、「黒ものがたり」☆☆☆
13、「マヤの一生」☆☆☆　　14、「月の輪グマ」☆☆☆
15、「カモの友情」☆☆☆　　16、「おかの野犬」☆☆☆

アンデルセン作品

童話集　　**17、「親指姫」表題　☆☆☆　　18、「人魚姫」表題　☆☆☆**
　　19、「絵のない絵本」表題　☆☆☆

絵本

20、「マッチうりの少女」☆☆☆　　21、「はだかのおうさま」☆☆☆
22、「すずの兵隊」　☆☆☆　　23、「ナイチンゲール」　☆☆☆
24、「みにくいあひるの子」☆☆☆　　25、「白鳥」☆☆☆
26、「えんどう豆の上にねむったお姫さま」☆☆☆
27、「ぶた飼いの王子さま」☆☆☆

秋の読書週間

６年　　組　　名前

第１回「生命のはじまり～物語のはじまり」

＊１、「せいめいのれきし」バージニア・バートン・文　岩波書店　☆☆☆
＊２、「北欧神話」R．コラム作　岩波少年文庫　☆☆☆
・３、「ギリシャ神話」石井桃子・訳　のら書店　☆☆☆
４、「古事記物語」福永武彦・作　岩波少年文庫　☆☆☆
５、絵本「くにのはじまり」☆☆☆　６、絵本「あまのいわと」☆☆☆
７、絵本「やまたのおろち」☆☆☆　８、絵本「いなばのしろうさぎ」☆☆☆
９、絵本「すさのおとおおくにぬし」☆☆☆10、絵本「うみさちやまさち」☆☆☆
11、絵本「うらしまたろう」ポプラ社☆☆☆　12、「ももたろう」日本昔話　福音館☆☆☆
13、絵本「ルガルバンダ王子の冒険」キャシー・ヘンダソン再話　岩波書店　☆☆☆
～粘土板に楔形の文字が刻まれて残っていた5千年前の世界最古の物語～（ギルガメシュ王物語も）
14、絵本「ギルガメシュ王ものがたり」ルドミラン・ゼーマン文　岩波書店　☆☆☆
15、「ギルガメシュ王のたたかい」☆☆☆　16、「ギルガメシュ王さいごの旅」☆☆☆
＊17、絵本「運命の王子」岩波書店　☆☆☆～紙に文字が書いて残されていた3千年前の物語～
18、「グリム昔話」（２）岩波書店☆☆☆　（不思議なことに、「手なし娘」同じ題で日本昔話
・19、「日本昔話」（３）こぐま社　☆☆☆　にも入っています。）
20、「子どもに聞かせる世界の民話」実業之日本社（ギリシャ神話のおはなしと似たのがあるよ）　☆☆☆
21、「ロシアの昔話」内田莉莎子・訳　（「運命の王子」と似たはなし入ってるよ。）福音館　☆☆☆
22、「フインランド・ノルウエーの昔話」（日本昔話と似たはなしがあるよ！）偕成社　☆☆☆
＊23、「山の上の火」エチオピア昔話☆☆☆24、「キラバカと魔法の馬」アフリカ昔話☆☆☆
＊25、「イギリスとアイルランドの昔話」福音館☆☆☆　26、「北欧の昔話」こぐま社　☆☆☆
27、「モンゴル昔話」こぐま社☆☆☆　＊28、「しろいりゅう　くろいりゅう」中国民話☆☆☆

◎　読みたい本の☆をぬってね！　・は図書室に、＊は図書室に２冊以上あるよ。

秋の読書週間　第２回　　６年　　組　名前

「不思議な時間、魔法の時間～タイムファンタジー」

1	急行「北極号」	クリス・バン・オールズバーグ	童話館出版	☆☆☆
2	ジュマン	〃　〃　〃	ほるぷ出版	☆☆☆
3	名前のない人	〃　〃　〃	河出書房新社	☆☆☆
4	ザ・スーラー	〃　〃　〃	ほるぷ出版	☆☆☆
5	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	岩波書店	☆☆☆
6	不思議の国のアリス	〃　〃	評論社	☆☆☆
7	鏡の国のアリス	〃　〃	岩波書店	☆☆☆
8	ライオンと魔女	C・S・ルイス	岩波書店	☆☆☆
9	裏庭	梨木香歩	理論社	☆☆☆
10	ペンキや	〃	理論社	☆☆☆
11	マジョモリ	〃	〃	☆☆☆
12	カラフル	森　絵都	理論社	☆☆☆
13	遠い野ばらの村	安房直子	筑摩書房	☆☆☆
14	おしゃべりなカーテン	〃	講談社	☆☆☆
15	風と木の歌	〃	実業之日本社	☆☆☆
16	チョコレート工場の秘密	ロアルド・ダール	評論社	☆☆☆
17	マチルダはちいさな大天才	〃	〃	☆☆☆
18	ガラスの大エレベーター	〃	〃	☆☆☆
19	かようびのよる	デヴィッド・ウィズナー	徳間書店	☆☆☆
20、	きつねの窓	安房直子	ポプラ社	☆☆☆
21、	トムは真夜中の庭で	フィリパ・ピアス	岩波書店	☆☆☆

◎　読みたい本の☆マークをぬってね！

秋の読書週間　第３回　「岩波少年文庫」紹介

自分の人生はひとつだけだけど、お話（物語）を読むといろいろな人生を生きた気になるし、いろんな所へ行ける。いろんな冒険も恋もできる。とても得した気分になるよ。もしかしたら、不思議な時間を体験するということは、物語の世界に心を飛ばすことかもしれない・・・

1、**「アーサー王物語」** R.L.グリーン編　・・中世イギリスで正義と愛のため戦ったアーサー王と円卓の騎士たちの物語。中世の世界にタイムスリットしたみたいでワクワク。　☆☆☆

2、**「ロビンソン・クルーソー」** デフォー作・・無人島にたった一人で漂着したロビンソン、どうやって28年間もの歳月を生き抜いたのか？ロビンソンと一緒に生活してる気分になれるよ。　250 年以上も読みつがれている名作。　☆☆☆

3、**「宝島」** スティーブンソン作・・これも 100 年以上読みつがれている本。老船乗りが残した地図をたよりに宝島探険に出かけるが、料理人として参加したジョンシルバーは海賊だった。宝島には無事着けるか？宝はあるのか？　☆☆☆

ポプラ社文庫

4、５**「アラビアン・ナイト」**（上・下）ディクソン編・・死刑をいいわたされた王妃が王のためおもしろい話を千夜語り続けて、死刑をされずにすんだ‥といわれる物語で「千夜一夜物語」ともいわれている。とにかくおもしろい！500 年ぐらい前につくられたという。　☆☆☆

6、**「星の王子さま」** サン＝テグジュペリ作・・ある日サハラ砂漠に不時着した飛行士がふしぎな子どもに会った。それが、ほんとに純真な心を持った星の王子さま‥私達もはなしをしてみたいですね。星からきた王子さまと‥　☆☆☆

7、**「ふしぎなオルガン」** レアンダー・作・・あるオルガン作りが、神様のおぼしめしにかなった花嫁、花婿（ヌ）（ムコ）が教会に入ると、ひとりでになりだすというオルガンを作った。さて、自分の結婚式…オルガンは？　☆☆☆

8、**「あしながおじさん」** ジーン・ウェブスター作・・孤児院にいるジュディは、名前を知らないある人からの援助で大学に通うことができるようになります。うれしくて、うれしくて、その人を「あしながおじさん」と呼んでせっせと手紙を書きます。あしながおじさんの正体は？　☆☆☆

9、**「ぼくがぼくであること」** 山中恒・作・・「ああー、地震のものすげぇのがきてうちなんかぺちゃんこになっちまわないかなー」（そんなこと思ったことありませんか？）秀ーはそんなこと考えていたのです。「家へもどりたくないな～」とも‥（さあ、どんな風に物語はすすむでしょうか・・・）　☆☆☆

６年　　組　名前

10、**「グリックの冒険」** 斎藤惇夫・作・・人間の家の中でうまれたリスのグリック‥鳩のピッポーから北の森のはなしを聞いた。そこではたくさんの仲間が自由に暮らしていると‥グリックは決心した。森へ行こう！　☆☆☆

11、**「ドリトル先生アフリカゆき」** ロフティング作・・動物語のわかる医者ドリトル先生がサル達を疫病から救うために犬のジップやブタのガブガブを連れてアフリカへ！ドリトル先生大活躍。大人気のシリーズ。　☆☆☆

12、**「ドリトル先生月へゆく」**・・ドリトル先生、月世界に着陸！月ってどんなとこ？さあ、どんな活躍をしたでしょう…　☆☆☆

13、**「ムギと王さま」** ファージョン作・・ユーモアと風刺にみちた楽しいファンタジー、さあ～ふしぎで美しい物語の世界へ探険にでかけましょう！　☆☆☆

14、**「グレイラビットのおはなし」** アトリー作・・働き者でとてもやさしいグレイラビットを中心に森の生き物達が自然の中でくりひろげる冒険物語‥ひやひやしながらもあったかい気持になれるよ。　☆☆☆

15、**「魔法のアイロン」** ジョーン・エイキン作　・・ジョンが宝くじで当てたごく普通のアイロンが隣近所をまきこんで大騒動のもとに…ほかにもふしぎなおはなし9編。　☆☆☆

16、**「クジラがクジラになったわけ」** テッド・ヒューズ作・・昔、クジラは陸にいた？イギリスの詩人がユーモラスに語る動物のなぜなぜばなし。　☆☆☆

17、18、**「トム・ソーヤーの冒険」**（上・下）マーク・トウェイン作
わんぱくな少年、トムを中心にくりひろげられる冒険！いっしょに遊んでいるような気持ちになれるよ。　☆☆☆

19、**「西風のくれた鍵」** アリソン・アトリー作・・500 年も立ち続けているカシの木！西風が次々と木の実の鍵を落としてくれた。木の秘密とは？　☆☆☆

20、**「ぽっぺん先生と帰らずの沼」** 船先勝彦作・・ぽっぺん先生はある日、美しいカゲロウを追いかけて沼へ…背後に巨大な人影が…大変なことに！　☆☆☆

21、**「空とぶベッドと魔法のほうき」** メアリー・ノートン作・・夏休み、3人の子どもたちはおばさんの家へ…ポールがおばさんが夜中にほうきに乗っているのを見たといいだしたのです。おばさんの正体は？　☆☆☆

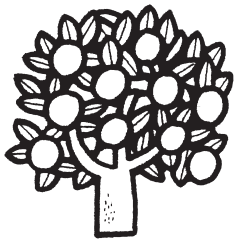
22、**「きゅうりの王さまやっつけろ」** ネストリンガー作
ある朝、家に大きなおばけきゅうりがあらわれ…　☆☆☆

別紙７

秋の読書週間　第４回　　６年　　組　　名前

音読　「声に出して読んでみよう！」

＊ 文章を声に出して読むと、言葉の美しさや楽しさが伝わってくる。
なんとなしに身体の中から力がわいてくる気がする。



音読する時の注意点。

・ はっきりとした声（おなかからの声）で読む。
・ 文をぶつぶつきらない。
・ 状況、状景を心の中で思い浮かべながら読む。
　状況・・ありさま、ようす。　状景・・景色
・ 詩はゆっくり読む。

詩集

・１、「からたちの花がさいたよ」北原白秋童謡選　岩波書店　☆☆☆
　２、「わたしと小鳥とすずと」金子みすず童謡集　ＪＵＬＡ出版局　☆☆☆
・３、「ポケット詩集」　童話屋　☆☆☆
　４、「みみをすます」　谷川俊太郎　福音館　☆☆☆

日本の文学作品も読んでみよう。

芥川龍之介作品　５、「くもの糸・杜子春」　小峰書店　☆☆☆
　６、「杜子春・くもの糸」　偕成社文庫　☆☆☆
　７、「藪の中・河童」　偕成社　☆☆☆
夏目漱石作品　８・９、「吾輩は猫である」上・下　偕成社　☆☆☆
太宰治作品　10、「走れメロス・女生徒」　偕成社　☆☆☆
＊宮沢賢治童話集
　11、「風の又三郎」　岩波書店　☆☆☆
　12、「セロひきのゴーシュ」福音館　☆☆
　13、絵本「雪わたり」　☆☆☆
　14、絵本「水仙月の四日」☆☆☆
　15、絵本「銀河鉄道の夜」　☆☆☆
　16、絵本「よだかの星」　☆☆☆
　17、絵本「虔十公園林」　☆☆☆
　18、絵本「どんぐりと山ねこ」　☆☆
　19、絵本「注文の多い料理店」☆☆☆
　20、絵本「オッペルと象」　☆☆☆
　21、絵本「狼森と笊森、盗森」☆☆☆
　22、絵本「なめとこ山の熊」　☆☆☆
　23、絵本「鹿踊りのはじまり」　☆☆☆

発行：大阪府子ども読書活動推進連絡協議会
事務局：財団法人 大阪国際児童文学館
URL：http://www.iiclo.or.jp/
TEL：06-6876-8800
FAX：06-6876-8686
〒565-0826　大阪府吹田市千里万博公園 10-6
大阪府立国際児童文学館内
平成２０（2008）年３月